

平成29年度 活動報告書

熊本県地域医療支援機構 / 熊本大学医学部附属病院 地域医療支援センター

熊本大学医学部附属病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座

平成29年度 活動報告書

熊本県地域医療支援機構 / 熊本大学医学部附属病院 地域医療支援センター

熊本大学医学部附属病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座



もくじ

1 はじめに

1. 熊本県地域医療支援機構理事長あいさつ 1

2. 地域医療・総合診療実践学寄附講座特任教授あいさつ 2

3. スタッフ一覧 3

2 熊本県地域医療支援機構

(熊本大学医学部附属病院 地域医療支援センター)

1. 活動概要 4

2. 年間活動実績 4

3. 活動報告

 I. 県内における医師不足の状況などの把握・分析 5

 II. 医師不足医療機関の支援 7

 III. 医師が循環して勤務できるシステムの構築 7

 IV. 地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師の
 キャリア形成支援 9

 V. 医師に関する求人・求職などの情報発信と相談対応 11

 VI. 県内医療関係機関との協力関係の構築 14

 VII. 熊本県地域医療支援機構講演会 15

 VIII. 女性医師キャリア支援 19

4. その他 27

3 地域医療・総合診療実践学寄附講座

1. 活動概要 29

2. 年間活動実績 29

3. 活動報告

 I. 地域医療支援（診療支援）

 II. 調査・研究 30

 III. 教育活動 31

 ● 卒前教育（カリキュラム内教育） 31

 ● 卒後教育（初期臨床研修・専門医研修） 46

 IV. 指導医養成 50

 V. 講演会 52

4. その他 53

4 玉名教育拠点

1. 活動概要 54

2. 年間活動実績 54

3. 活動報告

 I. 教育活動 55

 II. 診療 57

 III. 年間診療報告 57



5 熊本県医師修学資金貸与制度

1. 地域医療ゼミ	
I. 概要	58
II. 活動報告	58
2. 平成29年度夏季学生地域医療特別実習	
I. 概要	62
II. 実習参加者	62
III. 実習の大まかな流れ	62
IV. 3日間の日程	63
3. 平成29年度卒業生	64

6 業績

1. 熊本県地域医療支援機構	67
2. 地域医療・総合診療実践学寄附講座	68

7 おわりに

1. スタッフから一言	72
2. あとがき	77

1 はじめに

1. 熊本県地域医療支援機構 理事長あいさつ



熊本県地域医療支援機構 理事長
熊本大学医学部附属病院 病院長

水 田 博 志

皆様方には、平素より熊本県地域医療支援機構ならびに地域医療・総合診療実践学寄附講座の取り組みに多大なご支援とご協力をいただき、深く感謝申し上げます。この度、平成29年度の活動について報告書を作成致しましたので、ご一読いただければ幸いに存じます。

ご案内の通り、熊本県地域医療支援機構は県内における医師の地域偏在を解消し、地域に必要な医療を確保することを目的に平成25年12月に設置され、平成30年で5年目となります。この間、当機構では、地域医療・総合診療実践学寄附講座あるいはその前身である地域医療システム学寄附講座と一体となって、地域医療に従事する医師のキャリア形成支援システムと優れた医療人を育成する熊本型医師地域循環型システムの構築に向けて様々な取り組みを行ってまいりました。

将来、医師が不足する地域で医療に従事しようとする学生に修学資金を貸与する熊本県医師修学資金貸与制度は平成21年にスタートし、29年度までに貸与された学生は65人となっています。貸与学生には、地域医療に関する教育を実施するとともに、当初の目的が達成できるように進路相談支援等を通してサポートを行い、これまで1人の脱落もなく順調に進んできています。また貸与医師のモデルキャリアパスを作成し、地域医療への従事と新専門医制度での専門医取得が両立できる制度設計を行っています。既に臨床研修を修了した医師が3人誕生し、それに続く研修医も13人となり、今後、本制度のもとで地域医療に従事する医師が着実に増えていくことを期待しています。

一方、地域で医師を育てる熊本型医師地域循環型システムは、平成27年度に公立玉名中央病院に設置した地域医療実践教育拠点で具現化しましたが、本拠点で受け入れる研修医、専攻医の数は年々増加しており、その成果が表れつつあります。本年度からは常駐の教員が1名増員され、更に充実が図られています。

このように、当機構が設置されて以来、地域医療・総合診療実践学寄附講座とともに一歩ずつ着実に活動を行ってきたところですが、本年度は、都市圏の医学部に在籍する熊本出身の学生に対して地域医療を体験する機会の提供や、育児等で家庭に入った女性医師の復職を支援するためのメンター制度やお留守番医師制度の普及、また例年実施してきた夏季学生地域医療特別実習の内容の見直しなど、新たな活動も開始しています。

今後も引き続き、熊本県、市町村、医師会、連携病院など関係機関との連携を強化しながら、熊本の地域医療体制のさらなる充実をめざして努力をしてまいりますので、皆様方のお一層のご支援とご協力をよろしくお願い致します。

2. 地域医療・総合診療実践学寄附講座 特任教授あいさつ



熊本大学医学部附属病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座 特任教授
熊本大学医学部附属病院 地域医療支援センター センター長

松 井 邦 彦

いつも皆様方には、熊本県地域医療支援機構/地域医療支援センター及び地域医療・総合診療実践学寄附講座へご支援をいただき、ありがとうございます。平成29年度の活動報告書をお届けします。私たちは熊本県における地域医療に関した様々な問題の解決を目指し活動を行ってきましたが、早いもので4年間の経ちました。

私たちの重要な活動の一つに、毎年行っている熊本県医師修学資金貸与の熊本大学生と県出身の自治医科大生を主な対象とした夏季地域医療特別実習があります。本年度は天草地域医療センターを中心に、天草地域で行うことが出来ました。地元の天草郡市医師会や天草市のご協力を得て、例年にも増して非常に充実した内容の実習とすることができました。この場をお借りして、ご協力をいただいた皆様方にお礼申し上げます。これまでこの夏季実習については、年度末の報告書の中に含めていました。しかし本年度は、夏季実習の報告は別版として先に作成しました。夏季実習が含まれないと、年度末の報告書は、内容の乏しい薄いものになるのではないかと心配しました。しかしそれは、全くの杞憂でした。仲間が増え、各人が様々な活動を行ってきたこの一年間の成果を、ご覧いただければと存じます。

ページをめくると、この一年間の様々な出来事が思い出されます。私たちの活動による成果が、少しずつ現れてきたのではと思う一方で、皆様のご期待に添うまでに達していないことも承知しています。私たち、熊本県地域医療支援機構/地域医療支援センター及び地域医療・総合診療実践学寄附講座は、熊本県からの寄附により設置されていますが、来年度は寄附講座として5年目の最終年度であり、一旦の区切りを迎えることとなります。来年度へ向けて、皆さま、どうぞ私たちに、これまでと変わらぬご指導、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

3. スタッフ一覧

◆ 熊本県地域医療支援機構（熊本大学医学部附属病院 地域医療支援センター）



松井 邦彦 特任教授（センター長）
総合診療科



坂田 正充
地域医療支援コーディネーター



谷口 純一 特任准教授（副センター長）
総合診療科



柚原 敬三
地域医療支援コーディネーター



古賀 義規 客員研究員
（御所浦診療所所長）



高塚 貴子
女性医師復職支援コーディネーター



後藤 理英子 特任助教
糖尿病・代謝内分泌内科



中川 実咲 事務補佐員



横手 友紀子 事務補佐員

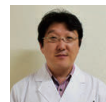
◆ 熊本大学医学部附属病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座



松井 邦彦 特任教授
総合診療科



高柳 宏史 特任助教
総合診療科



佐土原 道人 特任助教
総合診療科



前田 幸佑 特任助教
総合診療科



香田 将英
医員（大学院生）



久保 清美 事務補佐員



山並 美緒 事務補佐員

◆ 玉名教育拠点



田宮 貞宏 特任准教授
総合診療科



小山 耕太 特任助教
総合診療科



楯 直晃 後期研修医3年目
総合診療科



田中 顕道 後期研修医2年目
総合診療科



中村 孝典 後期研修医2年目
総合診療科



松田 圭史 後期研修医1年目
総合診療科



熊本県地域医療支援機構

(熊本大学医学部附属病院 地域医療支援センター)

1.活動概要

熊本県地域医療支援機構では、熊本県と、熊本県から機構業務の一部を委託された熊本大学医学部附属病院が協力して機構の運営を行っています。当機構では県内における医師不足の状況等を把握・分析し、医師のキャリア形成支援と一体的に医師不足医療機関の医師確保の支援等を行っています。

今年度は第7次熊本県保健医療計画の策定年であり、その基礎資料となる全医療機関の調査を実施し、第7次医療計画の策定に協力するとともに新たな教育拠点について検討を行いました。

また、熊本県医師修学資金の貸与者は65人に達し、既に臨床研修を修了した医師が3人、それに続く研修医も13人となりました。そのため、地域医療への従事と新専門医制度での専門医取得が両立できるよう、面談やキャリア支援調整会議等で支援の充実を図りました。

更に地域医療支援機構講演会では、天草地域との連携を図る企画の実施や県内の地域包括ケアの取り組みの共有を図る企画など、地域医療機関及び医療関係者との連携を強めるよう努めました。

女性医師のキャリア支援としては、お留守番医師制度、メンター制度、マタニティ白衣貸与制度を新たに開始するとともに、キャリア支援セミナー開催など積極的な活動を行いました。

【主な取り組み】

- ① 県内における医師不足の状況等の把握・分析
- ② 医師不足医療機関の支援
- ③ 都市部と地域の医療機関が連携し、医師が循環して勤務できるシステムの構築
- ④ 地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師のキャリア形成支援
- ⑤ 医師に関する求人・求職などの情報発信と相談対応
- ⑥ 県内医療関係機関との協力関係の構築
- ⑦ 熊本県地域医療支援機構講演会
- ⑧ 女性医師キャリア支援

2.年間活動実績

月	日	行事
4	7	病児保育室（Mimi）開所式
	12	地域医療支援機構担当者連絡会
	19	地域医療支援機構担当者連絡会
5	10	地域医療支援機構担当者連絡会
	13-14	日本プライマリ・ケア学会ブース出展
	24	地域医療支援機構担当者連絡会
	29	医師修学資金貸与医師面談
	30	医師修学資金貸与医師面談
	31	メンター連絡会議
6	1	医師修学資金貸与医師面談
	6	医師修学資金貸与医師面談
	7	地域医療支援機構担当者連絡会
	12	キャリア支援セミナー
	23	学生面談（6年）
	27	学生面談（6年）
7	12	地域医療支援機構担当者連絡会
	28	地域医療支援機構講演会
8	18	オープンキャンパス
9	13	地域医療支援機構担当者連絡会
	23	メンター連絡会議 キャリア支援セミナー
	28	地域医療研修連絡調整部会
10	18	地域医療支援機構担当者連絡会
11	10	育児・介護支援情報会
	14	医学生・研修医をサポートする会セミナー
12	12	クローバーセミナー
	13	地域医療支援機構担当者連絡会
1	17	地域医療支援機構担当者連絡会
	20	メンター連絡会議
	26	キャリア支援調整会議
2	27	地域医療支援機構講演会
	14	地域医療支援機構担当者連絡会
	23	地域医療支援機構担当者連絡会
	5	地域医療研修連絡調整部会（書面会議）
	6	女性医師キャリア支援センター運営協議会
	14	地域医療支援機構担当者連絡会
3	14	地域医療支援機構担当者連絡会
	19	地域医療支援機構理事会 地域医療支援機構評議員会

3.活動報告

県内における医師不足の状況などの把握・分析

- ◆ 第7次熊本県保健医療計画の策定に向けた県内全医療機関調査（へき地医療および医師・歯科医師確保に関する医療機関調査）

熊本県の第7次熊本県保健医療計画（2018年4月～2023年3月）の策定に伴い、同計画並びに今後のへき地医療や地域医療に携わる医師・歯科医師などの確保に関する施策の検討のため、また、各医療機関における医師や患者数の状況を把握するため、次の通り県からの委託を受け、熊本県内全医療機関へアンケート調査を実施しました。

- （1）調査の目的
第7次保健医療計画（H30年度～H35年度）をはじめ、今後のへき地医療及び医師・歯科医師確保に関する施策等を検討するための基礎データを得ることを目的とする。
- （2）調査の対象
県内の医療施設2,525施設（病院：213施設、診療所1,465施設、歯科診療所847）※平成29年4月1日現在
- （3）調査の項目
①現在の医師数（常勤医師数及び非常勤医師数（常勤換算）診療科毎・男女別）
②求人医師数（診療科毎）
③平成35年度における必要医師数（診療科毎）
④常勤医師の年齢（5歳刻み）
⑤1日平均外来患者数（診療科毎・H28年度）※診療科の区分が不可の場合は主たる科
⑥1日平均入院患者数（診療科毎・H28年度）※診療科の区分が不可の場合は主たる科
⑦熊本市以外の医療機関への診療支援について
⑧後継者について※診療所及び歯科診療所のみ
⑨その他（今後のへき地医療及び医師・歯科医師確保に関する取組みについて）
- （4）調査の時点
平成29年7月1日現在
- （5）調査の方法
熊本県から熊本県地域医療支援機構の運営委託を受けた熊本大学医学部附属病院が、県内医療施設に調査を実施し、同附属病院で取りまとめうえ、熊本県に提出する。

調査のアンケートを送った2525施設中1326施設（54%）から回答をいただきました。ご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。

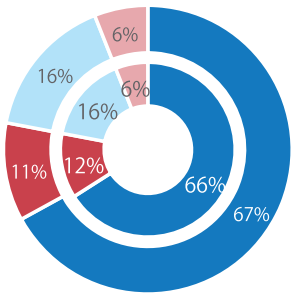
- ◆ 熊本県医師修学資金貸与条例に規定する知事が指定する病院等における医師不足の状況等に関する調査・分析

第7次熊本県保健医療計画に伴う全医療機関調査の中から知事指定病院を抽出し、医師の不足状況を調査分析しました。その結果、年齢構成や常勤・非常勤の割合は全県と大きな差はないこと、また将来的には外科医の需要が多いことなどが分かりました。

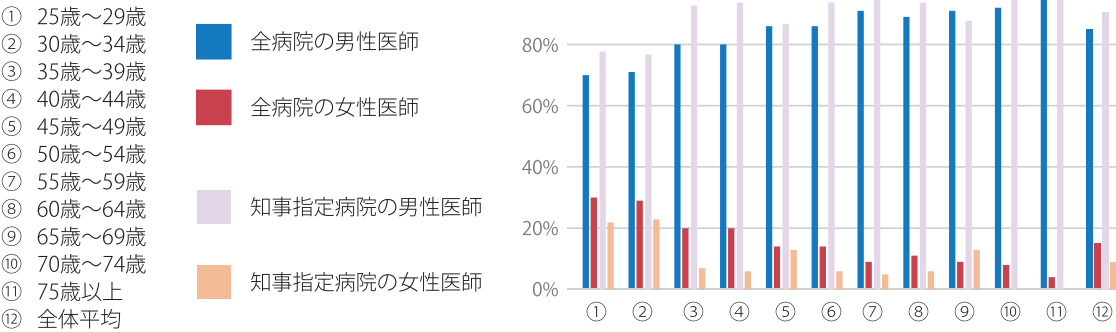
➤ 調査結果

- 1. 常勤医師・非常勤医師の男女割合（外円：全病院 内円：知事指定病院）

全病院と知事指定病院に、常勤医師・非常勤医師の男女割合の大きな差はないことが分かる。常勤医師と非常勤医師と比較すると圧倒的に常勤医師の方が割合が高いことが分かる。



2. 男性医師・女性医師の年代別割合



全病院の男性医師は35歳以降の割合がそれぞれ80%を超えており、女性医師の割合は多少の増減はあるが、徐々に下降していくのが分かる。知事指定病院の女性医師は70代以降は0%であることが分かる。全病院と知事指定病院の数値の差が一番小さいのは⑤45歳～49歳であった。

3. 求人医師数と必要医師数

診療科別現在の求人医師数（上位10位まで）				2023年（5年後）時点において必要と見込まれる 診療科別医師数（上位10位まで）				
	全病院 市外	全病院 市内	全病院	知事指定 病院のみ	全病院 市外	全病院 市内	全病院	知事指定 病院のみ
1	内科	内科	内科	内科	内科	内科	内科	外科
2	整形外科	整形外科	整形外科	脳神経外科	精神科	精神科	精神科	整形外科
3	精神科	精神科	精神科	総合診療科	整形外科	整形外科	整形外科	内科
4	総合診療科	総合診療科	循環器内科	外科	外科	消化器内科 (胃腸内科)	消化器内科 (胃腸内科)	消化器内科 (胃腸内科)
5	消化器内科 (胃腸内科)	消化器内科 (胃腸内科)	総合診療科	小児科	総合診療科	眼科	外科	循環器内科
6	外科	外科	消化器内科 (胃腸内科)	呼吸器内科	消化器内科 (胃腸内科)	循環器内科	循環器内科	総合診療科
7	循環器内科	循環器内科	呼吸器内科	循環器内科	循環器内科	外科	総合診療科	小児科
8	呼吸器内科	呼吸器内科	外科	放射線科	小児科	泌尿器科	眼科	麻酔科
9	小児科	小児科	小児科	小児外科	泌尿器科	小児科	小児科	呼吸器内科
10	麻酔科	麻酔科	神経内科	消化器内科 (胃腸内科)	耳鼻咽喉科	呼吸器内科	泌尿器科	産婦人科

全病院の診療科別現在の求人医師数は市内・市外ともに変わりはないが、5年後時点において必要と見込まれる診療科別医師数については上位3位より下は大きく変化していることが分かる。また、知事指定病院については、順位が大きく変わり、1位が内科から外科へと変わったことが特徴的である。

◆ 県内医療機関における初期臨床研修医に関する調査・分析

今後のマッチング率維持を図るとともに将来の医師確保に繋げることを目的に、臨床医学教育研究センター、総合臨床研修センター、基幹型臨床研修病院協議会に対し働きかけ、平成28年度のマッチング率全国1位の理由等を調査分析してもらいました。

その結果、臨床研修基幹病院等を選択した理由としては、「見学・実習をして好感を持ったから」「出身地に近いから」「当該病院に魅力を感じたから」「研修プログラムに魅力を感じたから」などが大きな要素であることが分かりました。また、震災の影響については、「震災があったため県内での研修にした」と回答した研修医は全体の1割で、「震災がなくても県内で研修したいと思っていた」との回答が全体の6割以上を占めました。

Ⅱ 医師不足医療機関の支援

◆ 診療・診療支援

大学病院においては、「総合診療科」の外来診療を月曜日から金曜日まで実施し、学外においては、各教員が、複数の地域の医療施設にて、下表のとおり非常勤での診療支援活動を行いました。

➤ 大学病院総合診療外来

月	火	水	木	金
谷口	(松井) H29.4~H30.1		谷口	(松井)

➤ 学外診療支援

松井	H29.4~H30.3 公立玉名中央病院（週1回） H30.2~H30.3 牛深市民病院（週1回）
谷口	H29.4~H30.3 国保水俣市立総合医療センター（週1回）

◆ 熊本県医師修学資金貸与医師の配置調整システムの充実

- ・キャリア支援調整の年間スケジュールを作成し、医師修学資金貸与医師キャリア支援調整会議において説明し了承されました。
- ・初期臨床研修修了者の勤務先等希望調書を作成し、調整会議の前に調書をもとに面接を行い、円滑な配置調整に努めました。
- ・医師修学資金貸与医師の義務年限の達成状況をチェックすることが出来るよう、貸与医師毎の台帳を整備しました。
- ・卒後3年目の修学資金貸与医師（6名）が所属する専門研修プログラム責任者に修学資金貸与制度上の義務と今後の勤務ローテーションについて説明し、配置調整への協力を依頼しました。

Ⅲ 医師が循環して勤務できるシステムの構築

◆ 熊本市内と地域の医療機関が連携して、医師が都市部と地域を循環して勤務出来るシステムの構築に向けた取組状況

1. 第7次熊本県保健医療計画策定への参画

地域医療支援機構理事の松井邦彦熊本大学医学部附属病院域医療支援センター長が第7次熊本県保健医療計画策定のための「へき地医療対策に関する協議会」の委員として、7月5日、11月22日、3月7日、同協議会ワーキンググループの座長として7月26日、8月9日、10月11日に開催された会議等に出席しました。その結果、第7次熊本県保健医療計画の中に、システム構築の柱となる教育拠点の拡充について県の支援方針が盛り込まれました。

2. 新たな教育拠点の検討

玉名教育拠点での実績を踏まえ、新たな教育拠点についてどのように整備していくか、必要性、方向性、スケジュール等について検討しました。

【検討内容】

- ①地域医療実践教育拠点拡充の必要性
 - 教育対象者の増加
 - ・大学医学部における地域医療研修の拡大及び義務化
 - ・臨床研修医の増加（玉名拠点は2年連続フルマッチ）
 - ・総合診療専門医専攻者の増加（30年開始のプログラム登録者6名）

■地域における総合診療専門医への期待

- ・医療や介護を地域で一体的に提供する「地域包括ケアシステム」では多種多様な疾患や健康問題への対処が求められるほか、多職種での連携や、予防医学的なアプローチなど、領域を問わない総合診療専門医が必要。
- ・高齢化が進む地域では、特に慢性疾患について、複数の疾患の医学的管理を必要とする高齢者が増加しており、総合的に診られる総合診療専門医が必要。

②地域医療実践教育拠点拡充の方向性

A 県内統括型——玉名教育拠点(公立玉名中央病院)

- ・大学→玉名に教員派遣・循環
- ・玉名で専門医・指導医を養成

→県内に指導医派遣

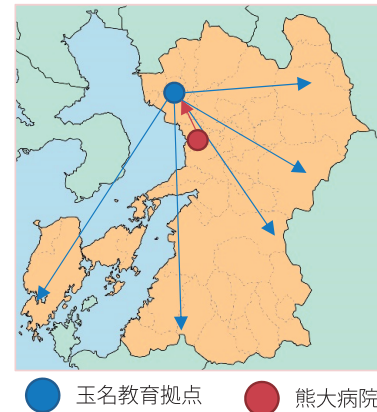
B 地域完結型（新たな拠点）

- ・大学→拠点に教員派遣・循環
- ・拠点で専門医・指導医を養成

→地域内に派遣

③今後の予定

- 第1期 方針及び課題検討
- 第2期 拠点設置箇所調整
- 第3期 諸手続き実施



● 玉名教育拠点 ● 熊本病院

◆遠隔診療・教育支援システム（テレビ会議システム、学習・診療支援オンラインツール等）の構築支援

1. テレビ会議システム

熊本県の総合診療専門医育成支援設備整備事業の計画に基づき、平成29年度は小国公立病院、公立多良木病院、上天草総合病院の3か所にテレビ会議システムを配備するための支援・調整を行いました。



テレビ会議システムを利用した5地点での同時セミナーの様子▲

整備場所

H28年度

- ・御所浦診療所
- ・湯島へき地診療所
- ・そよう病院

H29年度

- ・小国公立病院
- ・公立多良木病院
- ・上天草病院

H30年度 (予定)

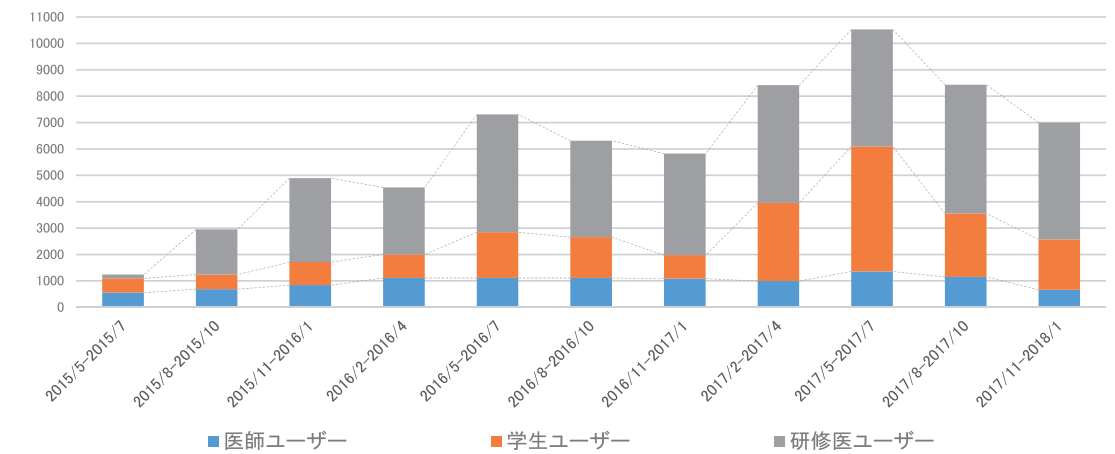
- ・河浦病院
- ・阿蘇医療センター
- ・人吉医療センター

2. 学習・診療支援オンラインツール

平成29年度は、「今日の臨床サポート」及び「Procedures Consult」の医療情報を提供するためのIDパスワードを医師修学資金貸与学生・医師、自治医科大学学生、総合診療プログラム専攻医等11名に交付し、交付者は累計で139名になりました。

また、特別臨床実習（クリクラ）を受けた73名の学生に実習医療機関での「今日の臨床サポート」及び「Procedures Consult」の医療情報を提供し活用を図りました。

利用状況（2015年3月に導入以来、3ヶ月毎に集計）▼



◆地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師のキャリア形成支援

◆熊本県医師修学資金貸与学生及び医師のキャリア形成支援について

1. 熊本県医師修学資金貸与医師のキャリア形成支援制度の実施

「地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師を支援する制度」への登録を推進しました。また、卒後3、4年目の修学資金貸与医師の配置調整等のため、キャリア支援調整会議を1月26日に開催しました。

➤ 第2回熊本県医師修学資金貸与医師キャリア支援調整会議

【開催日時】平成30年1月26日（金）14：00～14：30

【場 所】熊本大学医学部附属病院 第1会議室

【内 容】

- ・平成29年度キャリア支援調整スケジュールについて
- ・専門研修プログラム所属先への説明について
- ・卒後3年目以上の貸与医師の勤務先について
- ・熊本県修学資金貸与医師臨床研修プログラム先について



2. 熊本県医師修学資金貸与学生・医師の面談

平成29年5月～6月の間で、卒後1、2、3年次医師16名を面談し、平成29年6月～8月の間で、1年生～6年生48名を面談しました。

3. 卒業生の知事との面談

平成30年3月29日7名の卒業生が知事と面談しました。

◆ 地域医療研修システムについて

「地域医療研修連絡調整部会」を開催し、専門医制度が始まる中で、「地域医療の研修システム」の今後のあり方について検討しました。

- 平成29年度第1回地域医療研修連絡調整部会
【開催日時】平成29年9月28日 19：00～20：00
【内 容】

 - ・ 部会長選出、評価委員の指名について
 - ・ 研修先病院の決定について
 - ・ 総合診療専門医プログラムの申請状況や今後の地域医療研修システムと部会の在り方について、情報・意見交換
- 平成29年度第2回地域医療研修連絡調整部会
【開催日時】平成30年3月5日 ＊書面会議
【内 容】

 - ・ 研修先病院の決定について

◆ 地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師を支援する制度の運営

「知事が指定する病院等の具体的な指定先」、「指定病院等の区分」、「具体的な配置ローテーションルール」等に関する規程について,熊本大学医学部新1年生（修学資金貸与学生）に説明し、「地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師を支援する制度」の登録を推進しました。

自治医科大学1年生にも同様に説明し、「地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師を支援する制度」の登録を推進しました。さらに、登録者には「今日の臨床サポート」及び「プロシージャーズ・コンサルト」の医療情報を提供するためのIDパスワードを交付しました。

区分	年数	地域枠	一般枠	県外枠	計
後期研修/地域勤務	3年目	-	3	-	3
	2年目	4	1	-	5
臨床研修	1年目	4	4	-	8
	6年生	5	2	0	7
在学生	5年生	5	6	0	11
	4年生	5	5	0	10
	3年生	7	0	1	8
	2年生	5	3	0	8
	1年生	5	0	0	5
合計		40	24	1	65

◀熊本県医師修学資金貸与人数一覧
(平成30年1月現在)

在学生は49名、初期研修医は13名、
後期研修又は地域で勤務する医師は3名、
男女比は全体で7：3

◆ 総合診療専門医及び指導医の養成、確保

1. 日本専門医機構への総合診療専門医研修プログラム認定申請

平成29年8月15日付で、同機構に「熊本大学医学部附属病院総合診療専門研修プログラム」の認定を申請し、平成29年10月11日付けで承認されました。県内では熊大の他、5医療機関（熊本赤十字病院、くわみず病院、済生会熊本病院、熊本医療センター、人吉医療センター）でプログラムが承認されました。

2. 総合診療専門研修特任指導医の講習会

総合診療専門研修特任指導医の講習会へ出席を奨励し、熊本大学医学部附属病院の医師をはじめ、連携・協力医療機関の医師が受講しました。

3. 総合診療専門医研修プログラムの周知

県内6つのプログラムについて、地域医療支援機構ホームページに掲載し、その周知を図りました。

また、平成29年5月14、15日に開催された日本プライマリ・ケア連合学会学術大会（高松市で開催）で、新専門医制度を見込んだ総合診療専門医研修プログラムの紹介をし、さらに、熊本大学医学部附属病院専門研修説明会（6月11日）、熊大総診プログラム説明会（7月22日）、学生・研修医のための家庭医療学夏期セミナー(8月6日)、日本プライマリ・ケア連合学会九州支部総会（平成30年2月 3日 ～4日）、第16回日本病院総合診療医学会学術総会（平成30年3月2日～3日）、においても同様に周知しました。

4. 総合診療専門医の熊本県内プログラムへの登録

県内6つの総合診療専門医研修プログラムのうち、熊本大学6名、熊本赤十字病院2名、合計8名が登録されました。このうち医師修学資金貸与医師2名、自治医科大学卒業医師2名が登録しました。

◆ 初期臨床研修及び新専門医制度への対応

1. 初期臨床研修関係

医師修学資金貸与学生のマッチングについてアドバイスをするなど支援を行い、卒業予定の7名全員が県内の研修病院にマッチングしました。

2. 新専門医制度

地域医療支援機構理事の松井邦彦熊本大学医学部附属病院域医療支援センター長が7月25日、9月15日、9月29日開催の熊本県専門研修プログラムに関する協議会の委員として出席し、新専門医制度の地域医療への配慮を促しました。また、平成30年2月15日開催の地域医療ゼミで、熊本県医師修学資金貸与制度について説明し、ローテーションルールに沿った専門医の取得について、修学資金貸与学生に検討する機会を提供しました。

◆ 熊本大学医学部、同大学医学部附属病院総合臨床研修センター、同病院総合診療科及び地域医療・総合診療実践学寄附講座との連携

- ・ 地域医療・総合診療実践学寄附講座とは医師修学資金貸与学生主体の地域医療ゼミや夏季地域医療特別実習をはじめ各種セミナー等の開催に協力・支援し、一体となった取り組みに努めました。
- ・ 医学部をはじめ関係組織との連携に努め、学生等の地域医療研修等の支援を行いました。

▼ 医師に関する求人・求職などの情報の発信と相談対応

◆ 熊本県地域医療支援機構のホームページによる情報発信・相談対応

ホームページに相談コーナーを設け窓口を設置しています。またイベントの告知やその報告なども行っています。

◆ 熊本県地域医療支援機構の専任医師等による相談対応

全国会議等で熊本県出身医師等からの相談を受けるとともに、地域医療ゼミ等の機会に医学生等からの相談に対応しました。また、県内の医療機関や自治体などに対しても相談対応をしました。

◆ メールマガジンによる情報発信

以下の3つのことを目的とし、メールマガジンの発行をしました。

- ① 熊本県内の医療関係者に対し、機構の取り組みを広く周知することで理解と協力を求める
- ② 県外在住の医療関係者に対し、熊本県内における地域医療の実情を知ってもらうことで、県内の地域医療への参加を促す
- ③ 熊本県内で地域医療に携わる医師及び医療関係者に対し、取り組みの状況と今後の方向性を示すことで、孤立感の緩和とモチベーションの向上を図る

<対象>

- ・熊本県と縁がある県外在住の医師及び医療関係者、県内の病院・医師
- ・県内自治体（市町村）の医療担当部署、熊本県及び郡市医師会
- ・熊本県医師修学資金貸与学生及び医師
- ・熊本出身自治医科大生及び熊本在住の自治医科大卒医師等
- ・講演会等でのアンケートでメールマガジンの受け取りを希望した医療関係者

<発信状況>

平成29年4月から約580名の登録者に対し12回、地域医療支援機構の取り組みなどを発信した。

2017/4/4	Vol.20	熊本県女性医師キャリア支援センターのホームページをリニューアルしました
2017/5/11	Vol.21	平成29年6月3日 第11回地域医療・総合診療グランドラウンドが開催されます
2017/5/25	Vol.22	平成29年6月12日 平成29年度キャリア支援セミナーを開催します
2017/6/16	Vol.23	マタニティ白衣の貸し出しを開始しました
2017/7/10	Vol.24	平成29年度熊本県地域医療支援機構講演会開催のお知らせ
2017/8/22	Vol.25	肥後ふるさと実習支援事業（熊本県地域臨床実習支援事業）開始のお知らせ
2017/9/4	Vol.26	平成29年9月23日キャリア支援セミナー開催のお知らせ
2017/11/7	Vol.27	平成29年11月14日 医学生・研修医をサポートする会セミナー開催のお知らせ
2017/11/17	Vol.28	熊本県医療人キャリアサポートクローバーセミナー開催のお知らせ
2017/12/12	Vol.29	熊本県地域医療支援機構講演会開催のお知らせ
2017/12/21	Vol.30	メンター連絡会議開催のお知らせ
2017/12/21	Vol.31	第12回総合診療グランドラウンド開催のお知らせ

◆ 全国会議等での情報発信

全国会議等で、熊本県支援機構のチラシを配布するなど、熊本県の実情を説明し、求人活動を行いました。特に、5月13日（土）、14日（日）に開催された第8回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会においては、県内の総合診療プログラムの紹介と併せPR活動や求人活動を実施しました。



◆ 熊本県地域臨床実習支援制度の構築

➤ 熊本県地域医療臨床実習支援事業

県外にいる熊本県出身の医学生や、将来熊本県で従事することを考えている医学生等が、熊本県における地域医療の現状を学ぶことを支援することにより、将来の医師偏在化の是正や医師確保につなげることを目的として地域医療臨床実習支援制度（肥後ふるさと実習支援事業）を創設しました。

【募集対象者・募集人数】

募集対象者：熊本県外の大学に在学する地域医療に関心を有する医学部学生（3年生以上）

募集人数： 5名以内

【事業実施期間】平成29年8月から平成30年2月まで

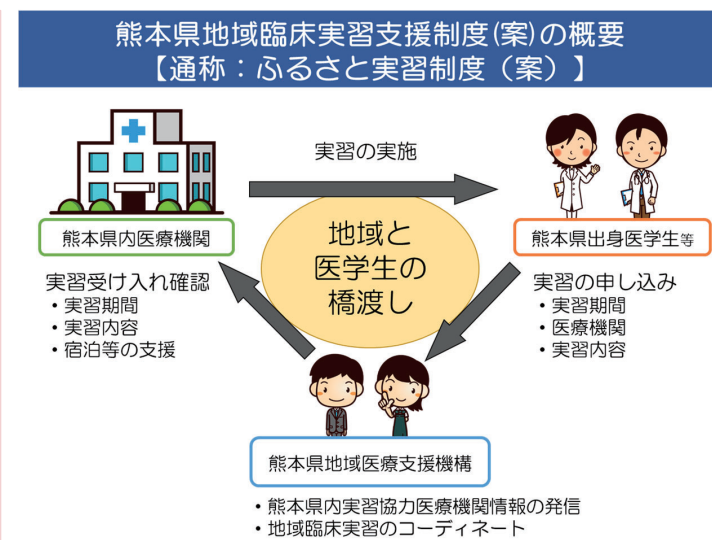
【実習期間及び実習内容】

実習期間：原則として1週間以内（最低でも2日以上）

実習内容：診療参加、診療見学等

【実習先】知事指定病院等のうち29の医療機関（表）

【実習結果報告】実習希望者は、実習終了後2週間以内に報告書を機構に提出



実習先一覧▼

- ・荒尾市民病院
- ・公立玉名中央病院
- ・山鹿市民医療センター
- ・熊本再春荘病院
- ・熊本労災病院
- ・熊本総合病院
- ・水俣市立総合医療センター
- ・人吉医療センター
- ・天草地域医療センター
- ・天草中央総合病院
- ・阿蘇医療センター
- ・小国公立病院
- ・そよう病院
- ・公立多良木病院

- ・上天草総合病院
- ・河浦病院
- ・熊本県立こころの医療センター
- ・熊本南病院
- ・熊本県こども総合療育センター
- ・宇城市民病院
- ・済生会みすみ病院
- ・玉名地域保健医療センター
- ・和水町立病院
- ・菊池都市医師会立病院
- ・菊池病院
- ・八代市立病院
- ・牛深市民病院
- ・湯島へき地診療所
- ・御所浦診療所

◆ 客員研究員活動報告

■ 御所浦診療所 古賀義規



医学生教育や研修医育成等に関する取り組み、医師の偏在の是正のための施策、医師のキャリア支援策などを勉強させて頂いております。当センターでいつも語られている「地域の医師は地域が地域で育てる」ことがこれらの問題を解決する重要な方法であると信じて取り組んでいます。平成29年度は御所浦診療所において医学生実習のみならず研修医の地域医療実習も受け入れました。

平成29年3月末に御所浦診療所に導入されたTV会議システムは熊大と玉名教育拠点、さらに複数の県内の公的医療機関とのTV会議に活用されています。現在は連携会議と玉名教育拠点での学生実習報告会で利用中ですが、今後はさらに設置医療機関が増え、活用場面が増えるものと考えています。診療の質の向上を図るために、平成30年2月からは私が不在の毎週月曜日に寄附講座の高柳先生を非常勤医としてお迎えしていますが、平成30年度以降の医学生/研修医教育の質の向上にもつながるものと考えています。

また県医療政策課の中本審議員とともに、ドクターバンク事業改変の為の聞き取り調査を行っています。

◆ 県内医療関係機関との協力関係の構築

◆ 評議委員会議の開催

地域の医療関係者の合意のもと熊本県地域医療支援機構の業務を進めていくために、地域の医療機関の代表者などで構成される評議員会議を開催しました。

▶ 第6回熊本県地域医療支援機構評議員会

【日 時】平成30年3月19日 17：30～18：30

【協議事項】

- (1) 平成29年度事業実績について
- (2) 平成30年度事業計画について

【報告事項】

- (1) へき地医療及び医師・歯科医師確保に関する医療機関調査について
- (2) キャリア支援調整会議の結果について
- (3) 地域医療研修連絡調整部会の結果について
- (4) 熊本県地域臨床実習支援制度について
- (5) 女性医師等の就業継続及び復職支援について
- (6) 地域医療の実習教育等について
 - ・全国医学部長病院長会議「地域枠制度についての意見交換会」
 - ・特別臨床実習（地域医療）等、卒前教育の状況
 - ・平成29年度夏季地域医療特別実習、地域医療ゼミ
- (7) 地域医療支援機構講演会（7月、1月）について

【その他】

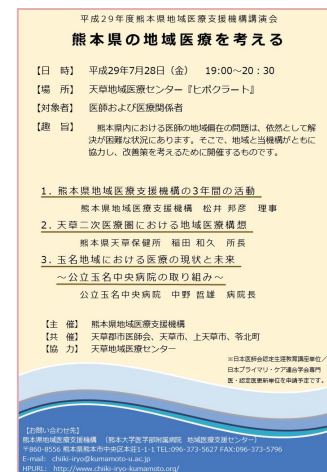
- (1) 熊本大学医学部附属病院地域医療・総合診療実践学寄附講座の教育拠点について

◆ 県内医療機関に対する助言などの支援、医療機関との連携、調整

年間報告書を作成し、市町村、医療機関等に配布したり、機構リーフレットを増刷し、関係者等に配布しました。

また、地域臨床実習支援制度の創設に向けて知事指定の病院に実習の協力を打診し、29病院からの協力を得ました。

◆ 熊本県地域医療支援機構講演会



2017年7月28日金曜 19:00～20:30

平成29年度熊本県地域医療支援機構講演会

「熊本県の地域医療を考える」

平成29年7月28日に、天草地域医療センターのヒポクラート（ホール）で熊本県地域医療支援機構講演会を開催しました。

熊本県内における医師の地域偏在の問題は、依然として解決が困難な状況にあります。そこで今回は、地域と当機構がともに協力し、改善策を考えるために、医師不足が深刻な天草地区で開催しました。



開催のあいさつ

熊本県地域医療支援機構理事 熊本県健康福祉部
迫田 芳生 医監



来賓あいさつ

天草市副市長 金子 邦彦 様



来賓あいさつ

天草郡市医師会長 酒井 一守 様

まず熊本大学医学部附属病院地域医療支援センター 松井邦彦センター長から熊本県地域医療支援機構3年間の活動報告の後、熊本県地域医療構想の地域版策定に当たられた天草保健所長の稲田知久所長から、「天草二次医療圏における地域医療構想」と題してご講演をいただきました。

引き続き、設置されて既に2年が経過した、熊本大学医学部附属病院地域医療・総合診療実践学寄附講座の教育拠点がある公立玉名中央病院の中野哲雄病院長から、「玉名地域における医療の現状と未来」と題して、玉名地域での取り組みについてご講演いただきました。



1、熊本県地域医療支援機構の3年間の活動報告
熊本県地域医療支援機構理事
熊本大学医学部附属病院 松井 邦彦 特任教授



2、天草二次医療圏における地域医療構想
熊本県天草保健所長
稲田 知久 先生



天草地域では、全国の8割の医師数で2.2倍の病床を担当しており、医師不足が進むことが懸念されていることや、今後の地域医療構想の実行に当たった課題などについて、天草保健所の稲田知久所長からご講演をいただきました。



3.玉名地域における医療の現状と未来
— 公立玉名中央病院の取り組み —
公立玉名中央病院長 中野 哲雄 先生

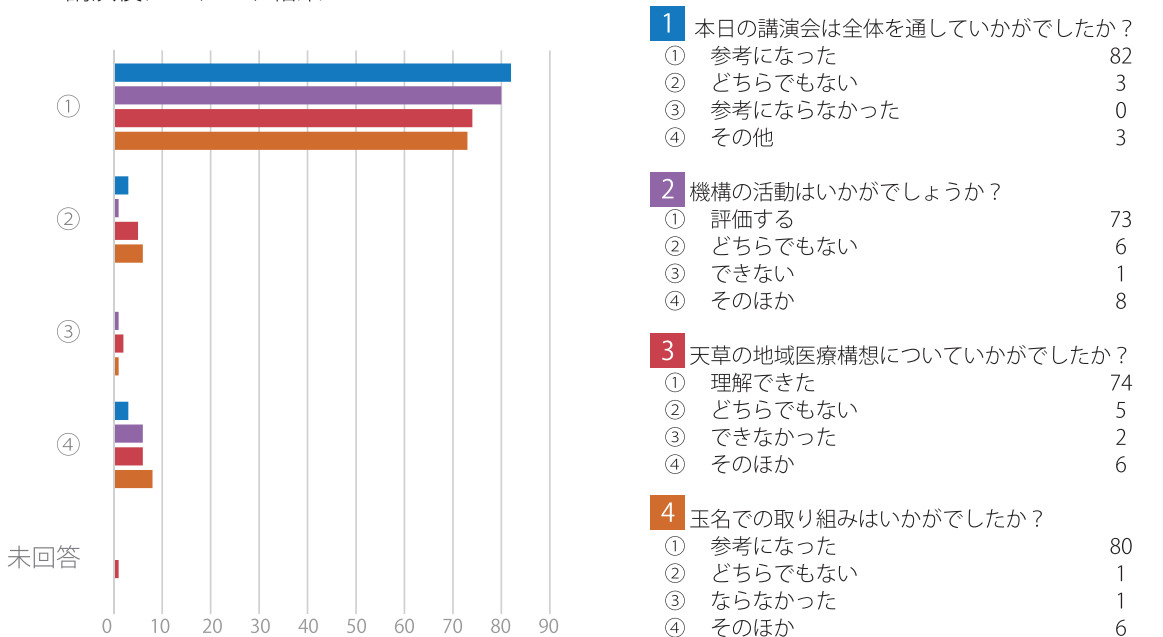


公立玉名中央病院に設置されてから2年を経過した、熊本大学医学部附属病院地域医療・総合診療実
学寄附講座の玉名教育拠点の積極的な取り組みや、玉名地域医療センターとの経営統合など玉名地域にお
ける取組について、公立玉名中央病院の中野哲雄病院長からご講演いただきました。



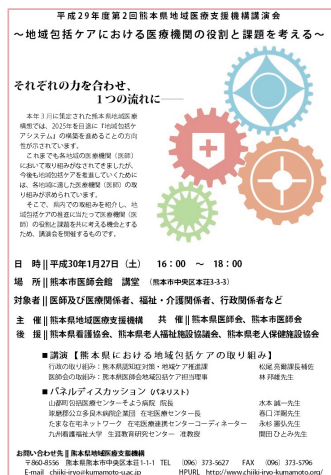
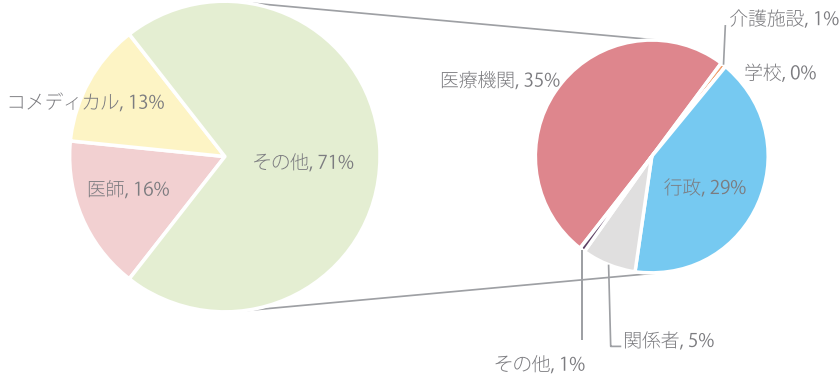
閉会のあいさつ
熊本県地域医療支援機構評議員
天草地域医療センター 原田 和則 病院長

➤ 講演後アンケート結果



■ 参加者の内約

左大：職業
右小：職業でその他と
回答された方の所属



2018年1月27日土曜 16:00～18:00

平成29年度熊本県地域医療支援機構講演会

「地域包括ケアにおける医療機関の役割と課題を考える」

平成30年1月27日、熊本市医師会館の講堂にて平成29年度2回目の熊本
県地域医療支援機構講演会を開催しました。

平成29年3月に策定された熊本県地域医療構想では、2025年を目途に
『地域包括ケアシステム』の構築を進めることの方角性が示されてお
り、今後も地域包括ケアを推進していくためには、各地域に適した医療
機関（医師）の取り組みが求められています。そこで、県内での取組み
を紹介し、地域包括ケアの推進に当たって医療機関（医師）の役割と課
題を共に考える機会とする為、講演会を開催いたしました。

まずは、熊本県地域医療支援機構理事で熊本県健康福祉部の迫田芳生
医監と、共催団体であります県医師会の理事で、本日の講師でもあられ
ます林邦雄先生に開会のご挨拶をしていただきました。



開会のあいさつ
熊本県地域医療支援機構理事
熊本県健康福祉部 迫田 芳生 医監



開会のあいさつ
熊本県医師会理事 林 邦雄 先生



次に「熊本県における地域包括ケアの取り組み」について、行政の取組みとして、熊本県認知症対
策・地域ケア推進課の松尾亮爾課長補佐から、医師会の取組みについては、熊本県医師会理事で医療政
策をご担当の林邦雄先生から、「くまもとメディカルネットワーク」の取組みについては、熊本県医師
会理事で医療情報担当の金澤先生からご講演をいただきました。



1、熊本県における地域包括ケアの取組み
熊本県認知症対策・地域ケア推進課 課長補佐 松尾 亮爾 様



2、熊本県における地域包括ケアの取り組み～医師会の取組み～
熊本県医師会理事 林 邦雄 先生



3、熊本県地域医療等情報ネットワーク「くまもとメディカルネットワーク」
熊本県医師会理事 金澤 知徳 先生

その後、4名の先生を交えてのパネルディスカッションを予定しておりましたが、時間の都合上予定を
変更して、それぞれの先生からご講演をしていただきました。

山都町包括医療センターそよう病院院長の水本誠一先生からは病院管理者のお立場から、「そよう病院
および山都町東部地区における地域包括ケアの取り組み」について、公立多良木病院の春口洋賜先生から
在宅医療センター長のお立場から「多良木病院在宅医療センターおよび球磨地区における地域包括ケアへ
の取り組みの現状と課題」について、たまな在宅ネットワーク在宅医療連携コーディネーター永杉憲弘様
から「玉名在宅ネットワークにおける地域包括ケアへの取り組みと課題について」、九州看護福祉大学生
涯教育研究センター准教授開田ひとみ先生からは看護協会の訪問看護サポートセンター運営委員のお立場
から「訪問看護師による地域包括ケアへの取り組みの現状と課題」についてご講演いただきました。



そよう病院および山都町東部地区における地域包括ケアの取り組み
～病院を核としたコンパクトな連携～
山都町包括医療センターそよう病院 水本 誠一 先生



球磨郡公立多良木病院の取り組み
公立多良木病院 春口 洋賜 先生



たまな在宅ネットワークにおける地域包括ケアへの取り組みと課題について
たまな在宅ネットワーク事務局（玉名地域保健医療センター医療連携室）
在宅医療連携コーディネーター 永杉 憲弘 様

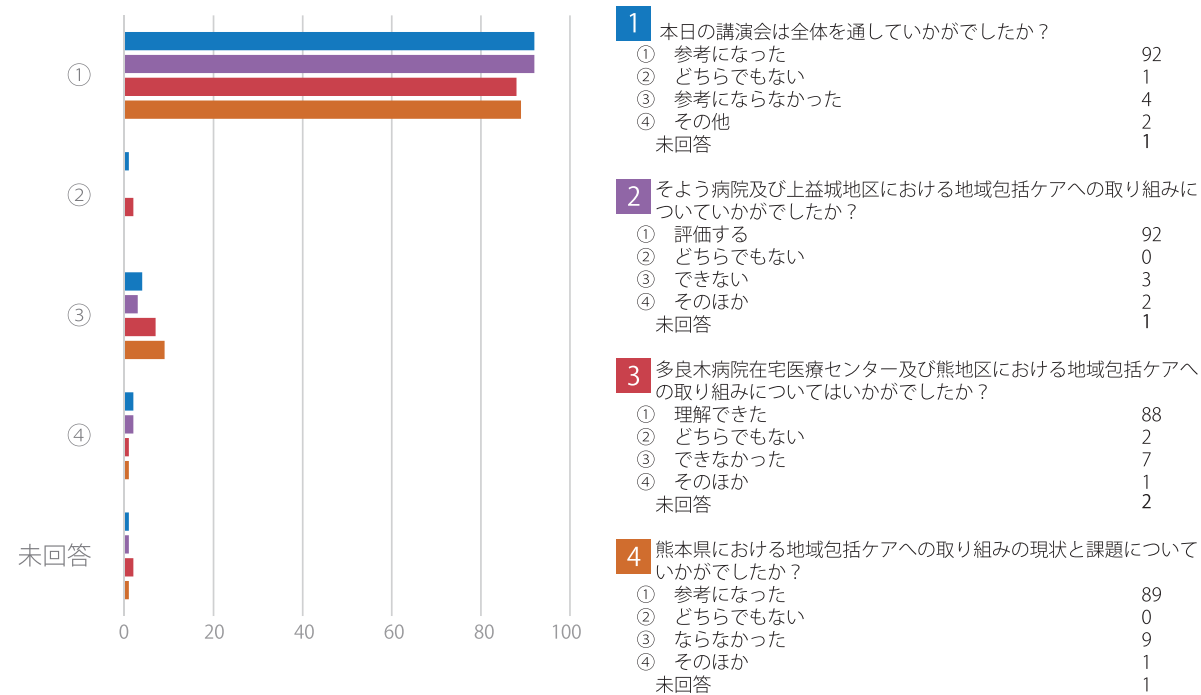


訪問看護師による地域包括ケアへの取り組みの現状と課題
九州看護福祉大学 生涯教育研究センター准教授 開田 ひとみ 先生



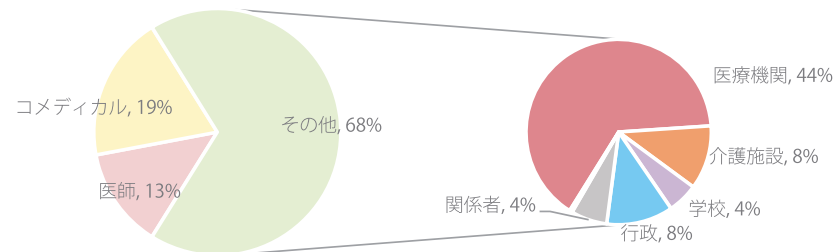
閉会のあいさつ
熊本県地域医療支援機構理事 松井 邦彦 先生

講演後アンケート結果



参加者の内約

左大：職業
右小：職業でその他と回答された方の所属



女性医師キャリア支援

熊本県女性医師キャリア支援センターでは、①復職支援 ②短時間勤務 ③育児支援 ④メンター制度 ⑤セミナー（啓発活動）を5つの柱にキャリア支援を進めることが重要と考え活動しています。今年度から新たにマタニティ白衣の貸出を開始したほか、以下の事業に取り組みました。

- マタニティ白衣の貸出
- 学童保育のニーズ調査
- お留守番医師制度
- 広報活動（ホームページ、テレビ、雑誌掲載、チラシの作成等）
- メンター制度、メンター連絡会議
- 学会・講演会などでの発表、情報交換
- キャリア支援セミナー
- 学生への啓発活動として、「医学生・研修医等をサポートするための会」開催や、1学年・4学年への講義
- クローバーセミナー

相談件数

平成29年度（2017年4月1日から2018年2月28日まで）は総計55名から相談や制度のお問い合わせがありました。うち24名が男性で、「支援制度について」「求人のお問い合わせ」の問い合わせが多く、34名が女性で、「働くこと、働き方について」の相談が多くありました。

特に女性医師4名からの相談は、自身の復職やキャリア継続に繋がりました。

相談の総内訳（延べ相談数）
2017年4月1日～2018年2月28日 ▼

働くこと働き方についての相談	16
支援制度についての問い合わせ	13
お留守番医師制度について	13
求人の問い合わせ	11
ネットワークづくり	9
保育施設について	8
同僚・医局の医師について	6
マタニティ白衣について	5
メンター制度について	4
復職相談	4
社会保険等について	4
子育てについて	0

復職・キャリア支援に繋がった相談 ▼

40代	女性	お留守番医師制度利用（月3回/1日3.5時間勤務）
30代	女性	お留守番医師制度利用（週1回/1日3時間勤務）
30代	女性	お留守番医師制度利用（月2回/午前中のみ勤務）
40代	女性	求人情報の提供

マタニティ白衣



2017年6月からマタニティ白衣の貸出を始めました。ポケットにつけた刺繍のクローバーの形は、フェイスブック「CLOVER ママの会」の人気投票で決めました。
これまでに5人の医師にご利用いただき好評をいただきました。サイズはSとMがあります。センターまで来ていただければ、試着も可能です。郵送による貸出もできますのでどうぞお気軽にお問い合わせください。

使用した感想▼

- マタニティ白衣については、まずは、お腹が大きくてもボタンをとめて白衣が着られたのが、一番良かったです。外来した感じでも、あまりお腹が目立たなかったようでした。
- 着ていた時期が夏だったこともありますが、暑かったというのがあります。半袖があったら便利かなとも思いました。



外来での利用の様子▲

◀マタニティ白衣利用第1号授与式

◆お留守番医師制度

「お留守番医師制度」では、家庭との両立や自身の健康などに不安を抱える方にも復職しやすい環境の協力機関（現在10医療機関）と連携しています。復職希望医師にとっては週1回（場合によっては月1回も可）からの復職が可能で、在宅医療を開始したい医療機関にとっては代診医師の確保につながり、地域住民にとっては、かかりつけ医の訪問診療を受けることが可能になるwin-win-winの互助システムです。

熊本県女性医師キャリア支援センターの復職コーディネーターが復職希望者の体験申し込みを受けて、在宅医療を開始したいドクターとつなぎ、体験日を決めます。体験がうまくいけば、当事者同士で3か月更新の雇用契約を結びます。

また、この制度で勤務中には、熊本市医師会保育所「メディッククラブ」が無料で利用できます。

今年度は3名の医師がこの制度を利用し復職されました。

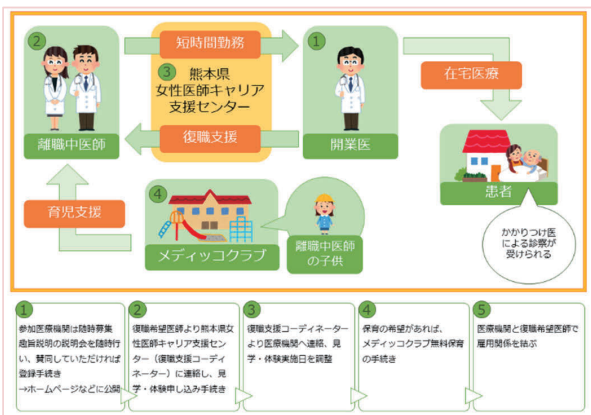
新たに登録される医療機関には説明会を行っています。

今年度は3医療機関と八代都市医師会で説明会を開催いたしました。説明会開催もお気軽にお問い合わせください。



お留守番医師制度に加入している医療機関
(2018年1月31日時点) ▼

熊本市東区	平山ハートクリニック
熊本市南区	土井内科胃腸科医院
熊本市北区	医療法人清藤クリニック
熊本市北区	なかむらファミリークリニック
益城町	益城なかぞのクリニック
上益城郡	谷田病院
玉名市	ひがし成人・循環器内科クリニック
玉名市	河野医院
菊池市	宮本内科クリニック
阿蘇市	医療法人社団順幸会阿蘇立野病院



◆メンター制度

メンター制度とは、キャリアについて、ワークライフバランスについて、先輩に悩みを聞いてもらい、一緒にキャリアやライフの目標設定を考えてみる取り組みです。気軽に取り組めるよう、メンター・メンティの関係性は1年間限定とし、希望があればさらに1年間延ばすこととしています。

メンターとして現在23人の男女医師が登録しており、メンター自身のスキルアップを目的に、年に3回「メンター連絡会議」を開催しています。

➤ 5月31日

議題：「メンター制度及び今後の運営方針について」

講師：地域医療支援センター 後藤 理英子

2017年4月より開始したメンター制度の運営方法についてメンターに確認、報告するとともに、メンティとのコミュニケーションやチームマネジメントに必要な性格の見分け方、性格のタイプ別のかかわり方について学びました。



➤ 9月23日

議題：「ロールモデルの役割とワーク・ライフ・バランスの重要性」

講師：東京女子医科大学心臓血管外科 富澤 康子 先生

日本の女性外科医のワークライフバランス、妊娠と出産時期のデータなどを紹介していただきました。また、世界の女性外科医が集まるAnnual International Women in SurgeryのCareer Symposiumや日本女性外科医会での活動を紹介いただき、女性医師のキャリアアップのための支援の実際、特にMentorshipとSponsorshipの必要性についても教えていただきました。

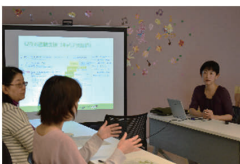


➤ 1月20日

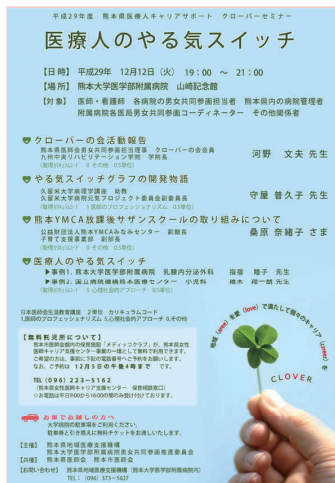
議題：「女性医療人の悩みトップ5」

講師：岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 腎・免疫・内分泌代謝内科学 川畑 智子 先生

岡山大学医療人キャリアセンターMUSCATでのキャリア支援10年の実績、軌跡について紹介していただき、これまでの相談内容から、女性医療人の悩みについて理解を深め、今後のキャリア支援に必要なサポートの在り方について学びました。



◆クローバーセミナー



2017年12月12日火曜 19:00～21:00

熊本県医療人キャリアサポートクローバーセミナー

「医療人のやる気スイッチ」

平成29年12月12日（火）熊本大学医学部附属病院 山崎記念館において、熊本県地域医療支援機構と熊本大学医学部附属病院男女共同参画推進委員会主催で、熊本県医療人キャリアサポートクローバーセミナー「医療人のやる気スイッチ」が開催されました。熊本県医師会と熊本市医師会にも共催いただきました。



開催のあいさつ
熊本県地域医療支援機構理長
水田 博志 先生



1、「クローバーの会活動報告」
熊本県医師会男女共同参画担当理事 クローバーの会会員
九州中央リハビリテーション学院 学院長
河野 文夫 先生



2、「やる気スイッチグラフ開発物語」

久留米大学病理学講座 助教 久留米大学病院元気プロジェクト委員会副委員長
守屋 普久子 先生

医療人のやる気スイッチについてご講演いただき、復職・就労継続のための支援に必要な要素について改めて考える機会となりました。



3、「熊本YMCA放課後サザンスクールの取り組みについて」

公益社団法人熊本YMCAみなみセンター副館長 子育て支援事業部 副部長
桑原 奈緒子 様

放課後プログラムの実際もご紹介いただき、多くの医療人がぶつかる「1年生・4年生の壁」を乗り越えることができるような取り組みが今後さらに展開されることに期待がかけられました。



4、事例報告「医療人のやる気スイッチ」

- 1) 熊本大学医学部附属病院 乳腺内分泌外科 指宿 睦子 先生
- 2) 国立病院機構熊本医療センター 小児科 楠木 翔一郎 先生



事例報告をしていただいた指宿先生・楠木先生のお話には衝撃と感動を覚えました。支援する側、支援される側共にやる気スイッチがonになるような仕組みを作っていければと、切に感じました。



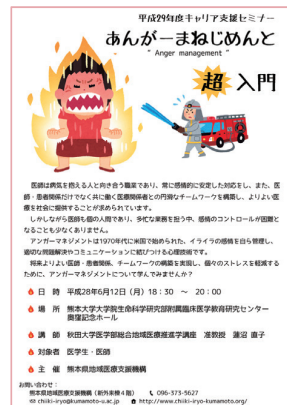
閉会のあいさつ
熊本大学医学部附属病院男女共同参画推進委員長
三上 芳喜 先生

➤ クローバーセミナーのアンケート結果

- ・ 自らのやる気スイッチをonにする要素として、「家族の応援」、「上司・同僚からの期待」が上位に挙がりました。その他、「ありがとう」などの承認の言葉、旅行などの日常を離れた時間、新しい発見をすることなどがありました。
- ・ Offにする要素としては、「過労」が1位でした。その他、時間の余裕のなさ、否定的な言葉、家族の不仲や病気、仕事における役割の低さ、配偶者の非協力的な言動などがあげられました。
- ・ 職場全体のやる気スイッチをonにする工夫としては、「適切な仕事量（マネジメント）」や「責任ある仕事を任せる事（昇進制度）」が上位に挙がりました。その他、ON/OFFのはっきりした生活、適切なサポートと評価、仕事と家庭が両立できる環境づくりなどがあげられました。

◆ 平成29年度キャリア支援セミナー「あながーまねじめんと 超入門」

2017年6月12日月曜 18:30～20:00



秋田大学医学部総合地域医療推進学講座
准教授 蓮沼 直子 先生

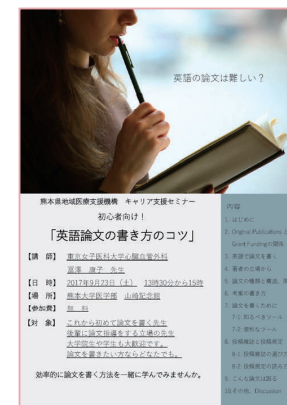
6月12日に平成29年度キャリア支援セミナーを開催し、秋田大学医学部総合地域医療推進学講座准教授の蓮沼直子先生に「アングーマネジメント超入門」を教えていただきました。

怒りとは何か知識を得、グループワークを通して怒りについて考え、衝動・思考・行動のコントロールについて学ぶことができました。



◆ 平成29年度キャリア支援セミナー「初心者向け！英語論文の書き方のコツ」

2017年9月23日土曜 13:30～15:00



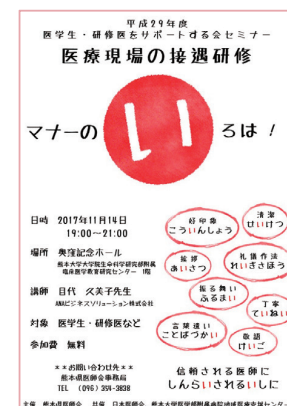
東京女子医科大学心臓血管外科
富澤 康子 先生

9月23日（土）にキャリア支援セミナー「初心者向け！英語論文の書き方のコツ」を開催しました。東京女子医科大学心臓血管外科の富澤康子先生を講師にお招きし、英語論文の書き方について講義していただきました。参加者より、「論文のモチベーションが上がった」「書き方に迷っていたがスッキリした」「必要なツールが分かり使ってみようと思う」などうれしい感想をいただきました。



◆ 医学生・研修医をサポートする会セミナー「医療現場の接遇研修」

2017年11月14日火曜 19:00～21:00



ANAビジネスソリューション株式会社
目代 久美子 先生

11月14日、熊本県医師会主催で『平成29年度医学生・研修医をサポートする会』が開催されました。本年度の『医学生・研修医をサポートする会』は、ANAビジネスソリューション株式会社に講師として活動中の目代久美子先生を講師にむかえ、「医療現場の接遇研修」を開催。38名の方にご参加いただきました。接遇の基本から、立ち姿、礼や名刺交換の仕方の実践など大変勉強になりました。



◆ 学童保育ニーズのアンケート調査

平成27年度に実施した、熊本県内の公的病院および100床以上を有する病院に勤務する男女全医師を対象としたアンケート結果では、熊本県内の公的病院で働く女性医師は子供が小学生になると離職し、その後公的病院には復職できていない可能性が示され、「小学1年生の壁」や一般的な学童保育が終了する「小学4年生の壁」をどのように乗り越えるかが今後の課題であることが明らかになりました。そこでこの度学童保育のニーズ調査を実施しました。

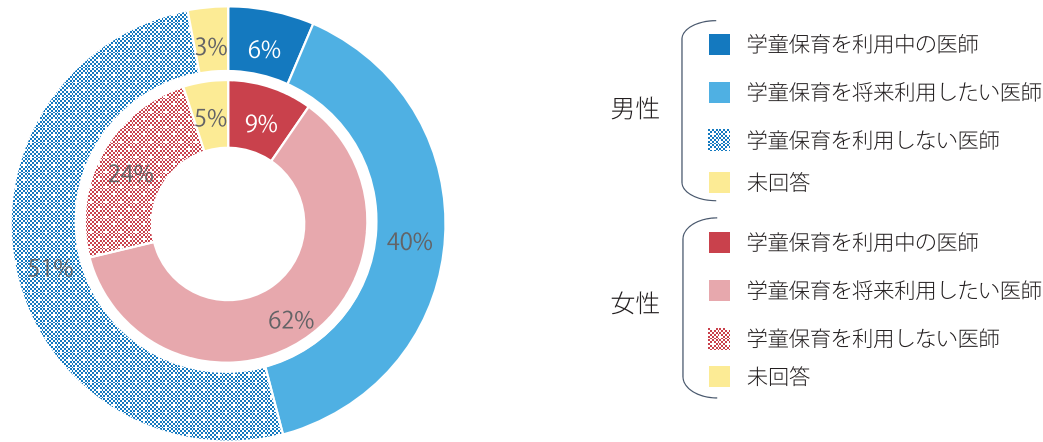
*対象医療機関：熊本県内の公的病院および100床以上を有する病院 154病院

*医療機関の回答率は54.5%

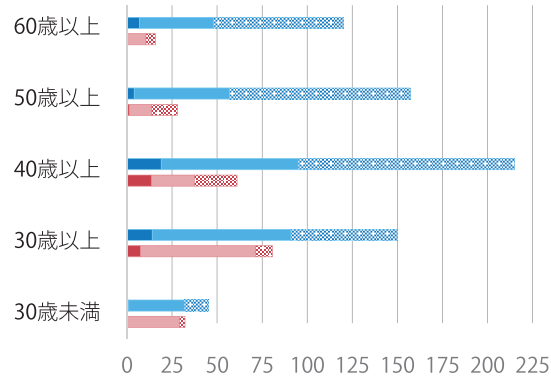
*医師回答率は43.2%（有効回答率：43.4%）

*男性703人 女性219人 不明2人（男女比 76%：23% 不明1%）

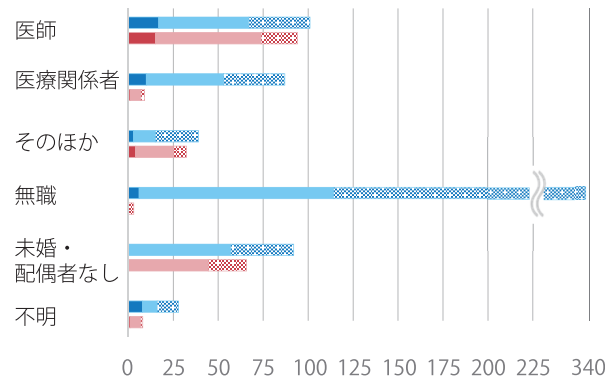
将来的にまたは現在、子または孫について、学童保育を利用されていますか？
もしくは将来的に利用したいですか？



各年代別人数（学童の利用別）



各配偶者職種別人数（学童の利用別）



合計で51.8%の人（男性の45.9%、女性の71.2%）が学童保育を利用している、もしくは将来利用したいと回答しました。未婚、配偶者が無職の人を除くと学童保育が不要と考えている人は28.9%でした。男性でも40歳未満の若い世代では学童保育を利用したいと考えている人の割合は増えており、共働き世帯が増える中、学童保育のニーズは今後さらに増加する可能性があります。

今回の調査により、現時点で学童保育の対象となる小学生だけでも110人の学童保育の利用希望があり、将来学童保育を利用する可能性がある未就学児は179人に上りました。平成28年に実施したアンケートでは学童保育を有する病院は熊本県内で5件と少なく、今後の育児支援拡大が期待されます。アンケートにご協力くださった医療機関、先生方には深く御礼申し上げます。ご協力ありがとうございました。

何時までの学童保育が必要だと考えますか？

時間	人数	その他
18時まで	93	・17時まで
19時まで	217	・お迎えまで
20時まで	108	・希望する時間
21時まで	30	・土・日まで
22時まで	26	・24時まで（2人）
その他	8	・無制限
		・18時もしくは19時まで

何歳（何年生）までの学童保育が必要だと考えますか？

学年	人数	その他
3年生まで	116	・15歳まで
4年生まで	101	・小学入学前まで
5年生まで	9	・5歳まで
6年生まで	243	・兄弟に応じて年齢関係なしに。
その他	6	・個人個人違うので分からない。
		・6歳まで

利用中の学童保育について、不便な点・要望があれば教えてください。

- ・18時までに迎えに行くことは困難。職場から学童までの迎えに要する時間、渋滞を考慮するとフルでは働きづらい。
- ・利用できる学年の制限がある。（低学年のみ利用可）
- ・小学3年生までの利用となっており小学4年生から1人で留守番となることが心配。
- ・台風・学級閉鎖があると学童も休みになる。
- ・利用時間が短く学童保育後に再度預ける必要がある。予約システムや保育の質を考えてもらえると嬉しい。
- ・学習時間が短い気がする。帰宅が遅く、帰ってから学習時間確保が難しい。
- ・宿題を済ませる程度なので教育が不十分になりがち。
- ・利用人数に比べて学童スペースが非常に狭い箇所もあり子供達も先生方も大変そう。
- ・学童保育は人数が多くて指導員の目が行き届いてない。
- ・夏休みは弁当持参である。
- ・家庭的な雰囲気だとありがたく、経験や指導のできる方が指導者だとよい。
- ・日曜日でも利用できたらいい。
- ・何らかの教育的な事が少しでもできればありがたい。
- ・学校の学童保育は責任問題の認識の矛盾があり辞めました。仕事中に呼び出され責任追及された。
- ・延長時間の対応など場所により異なる印象をもちます。

学童保育を利用しない理由について教えてください。

— 男性医師 —

配偶者の職業	理由
医師	自宅そばに妻の両親が住んでおり夕方から夜間は両親にお願いできるため。 祖父母と同居している。義母のサポートがある。 妻が非常勤。妻の実家のサポートがある。一時通ったが合わなかった。
医療関係者	妻はパート勤務。母も家にいる。習い事が多数。 卒園した保育園の学童保育があるため。
その他	家族で教育する。子供の帰宅時には父母いずれかが自宅にいる可能性が高いから。 学童がない。
無職	妻が定職につく予定がないため。家族で対応が可能と考えられる。 子供の人格形成のため、自立のため、教育のため、できれば母親にみてほしい。 妻は離職し専業主婦となったため。学童がない。保育環境。
未婚	祖父母が在宅もしくは妻が専業なら在宅。塾や習い事を入れるだろうから。
不明	妻がすでに離職している。地理的な問題。

— 女性医師 —

配偶者の職業	理由
医師	両親が近くに住んでおり支援が得られるため。 送迎が不便、保育環境。
医療関係者	日替わりで習い事や塾を入れているので学童を使う必要がない。 他のサービスの方が保育環境がよい。学童がない。
その他	夫の職場が自宅に近くなり学童保育が必要なくなった。 親と同居しているので親にみてもらう。学童がない。
無職	子どもがいない為。 夫が育児している。
未婚	子供を作る予定はない。すでに適応年齢を過ぎた。
不明	小学校の学童保育に入れたところ子供が激しく嫌がった。祖父母宅が近くにあるため。

▲男女ともに祖父母の協力が得られているという理由が多い。

長期休暇の時のこどもたちの過ごし方について教えてください。

- ・ お弁当を用意しておき、子は1人で部活・塾などへ。
- ・ 平日は学童。自分が休みの時出かけたりキャンプに参加。
- ・ 妻が仕事中は祖母の家や親戚の家で過ごす。
- ・ サマースクールなどへ行く。終わったら祖父母の家。
- ・ 祖母に預ける。シッターさんに日替わりで来てもらう。
- ・ 塾やYMCAのサマープログラム。3年生まではファミリーサポートさんの家へ預けた。（習い事の送迎も）
- ・ 宿題・習い事以外は兄弟で遊んで過ごしている。基本習い事が多いためたまに出かける程度。
- ・ 朝塾へ送り、夕方祖母が迎え。塾が休みの時は、私が主人が職場へ連れていく。（一緒に病院で過ごす）
- ・ 小学校の育成クラブ。YMCAの放課後プログラム。
- ・ 自宅で留守番（小5）。隣に祖父母が住んでいるので行き来したり一人でTV・勉強・友達と遊んだり。
- ・ 家族旅行やレジャーをなるべく行うようにしている。
- ・ 長期休暇は祖父母宅や親戚の家へホームステイ。もしくは自然キャンプ。
- ・ 水泳やその他の夏期講習プログラムに参加する。
- ・ 学童保育や、職場の小学生プログラムの参加。（主に職場のプログラムを利用）
- ・ 学生の兄・姉に様子をみてもらいながら過ごさせている。
- ・ お手伝いさんや親戚の力を借りてなんとか過ごしている。
- ・ 3年までは学童保育。4年以上は家庭学習→部活→家庭（家政婦さんと留守番）

長期休暇の時のこどもたちの過ごし方について不安な点・要望はありますか？

- ・ 出費がかさむ。
- ・ 夏場は熱中症も心配で家で過ごすことが多い。
- ・ 体力低下が心配。
- ・ 昼食をどうしようか悩む。
- ・ 女性医師の増加で男性医師の負担が増え、子どもと関わる時間が取れない。
- ・ 子どもだけで過ごすので、生活、体力、安全面で不安。
- ・ 球技をする場所がない。
- ・ 塾に行かせているが出費が痛い。
- ・ 小4の壁、小1の壁を感じる。退職をよく考える。
- ・ スポーツを習えたりいろんな体験ができたりするような預かりをしてくれるところがあれば良いのに。

メディッククラブでの一時保育について知っていますか？

	男性（703人）		女性（219人）		合計（924人）	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
30歳未満	5	0.7%	6	2.7%	11	1.2%
30歳代	24	3.4%	19	8.7%	43	4.7%
40歳代	38	5.4%	31	14.2%	69	7.5%
50歳代	36	5.1%	12	5.5%	48	5.2%
60歳以上	23	3.3%	4	1.8%	27	2.9%
利用したことがある	6	0.9%	10	4.6%	16	1.7%
合計	132	18.8%	82	37.4%	214	23.2%

◀924人中214人（23.2%）がメディッククラブの一時保育を知っていて、実際に利用したことがある人は男性で6人（0.9%）、女性で10人（4.6%）であった。

メディッククラブを利用して良かった点、不便だった点などについて教えてください。

- ・ 1：1または1：2で丁寧だった。子供たちが大変喜んでいった。メディッククラブなら行くと言うが18時までが早い。
- ・ 学会・セミナーに合わせて利用できる。勉強会や研究会などで利用しました。
- ・ 熊本市医師会に入っていない。情報もない。
- ・ 熊本地震後に小学校が休校の時利用。
- ・ 学校の振り替え休日にも利用を子供と相談。地震の前は小学生対応の事を知らなかった。
- ・ 時間帯によっては食事も食べさせていただけるので助かりました。大学に近く駐車場もあるので利用しやすい。
- ・ 震災後に保育園が休園になった際に利用した。保育園のならし保育に利用出来て良かった。
- ・ 同僚医師の話ですが、土日の講習会指導の時も助かると聞いています。自分の時にもあれば利用したかった。
- ・ 人数があまり多くないのがよい。土日祝日が充実すると良い。
- ・ 予約システムがやや不満。予約がだいぶ前にしないといけないのが不便。
- ・ 場所が分かりやすく清潔。
- ・ 予約できる時間に勤務中で電話できない。
- ・ 利用料金が高く毎日は無理。（一時保育では金額が高く選びにくい）
- ・ 自宅・学校から遠いので預けるまでが大変。

4. そのほか

1. 地域医療支援機構理事会の開催（1回）

平成30年3月19日（月）16：30、熊大病院管理棟第3会議室で地域医療支援機構理事会を下記の通り開催しました。

➤ 第10回熊本県地域医療支援機構理事会

【日 時】平成30年3月19日（月）16：30～17：30

【協議事項】

- （1）平成29年度事業実績について
- （2）平成30年度事業計画について
- （3）キャリア支援調整会議の結果について

【報告事項】

- （1）へき地医療及び医師・歯科医師確保に関する医療機関調査について
- （2）地域医療研修連絡調整部会の結果について
- （3）熊本県地域臨床実習支援制度について
- （4）女性医師等の就業継続及び復職支援について
- （5）地域医療の実習教育等について

- ・ 全国医学部長病院長会議「地域枠制度についての意見交換会」
- ・ 平成29年度夏季地域医療特別実習、地域医療ゼミ
- ・ 特別臨床実習（地域医療）等、卒前教育の状況

- （6）地域医療支援機構講演会（7月、1月）について

【その他】

- （1）熊本大学医学部附属病院地域医療・総合診療実践学寄附講座の教育拠点について

2. 県医療行政との連携（地域医療支援機構担当者連絡会）

熊本県医療政策課の担当者と地域医療支援機構の職員との連絡会を月1～2回開催し、事業の進め方や政策推進について協議しました。

3. チラシー一覧

マタニティ白衣を借りる先生へ

熊本県女性医師キャリア支援センターでは、妊娠中の医師にマタニティ白衣を貸し出しています。



サイズ	着丈	バスト	肩幅	袖丈
S	90	112	38	51
M	95	116	39	51

- ✓ サイズはSとMがあります。（当センターで試着ができます。）
- ✓ 胸もと、腰もとのアジャスターで調整ができます。
- ✓ 返却時はクリーニングをお願いします。
- ✓ 郵送での貸し出し・返却の場合は送料をご負担ください。

胸とポケットの刺繍

- ▶ 熊本県女性医師キャリア支援センター シンボルマーク
- ▶ 女性医師も産婦がまわって V、産婦の産婦も助かって V、お互いの V と V が合わさって W。
- ▶ Win Win の関係の W と、Woman doctor の W を表現しています。
- ▶ 熊本県産婦人キャリアサポート CLOVERの会 シンボルマーク
- ▶ “地域（area）”を表（diva）で表して産々のキャリア（caree）を”

W 熊本県女性医師キャリア支援センター
Kumamoto career support center for women doctors
〒860-8558 熊本市中央区本庄 1-1-1 TEL 096-373-5795 FAX 096-373-5796
✉ k-joselishi@kumamoto-u.ac.jp 🌐 http://kumamoto-joselishi.jp/

あなたらしい復職で、病床への第一歩

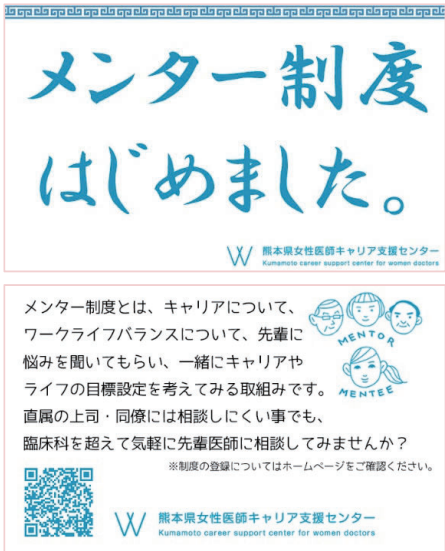
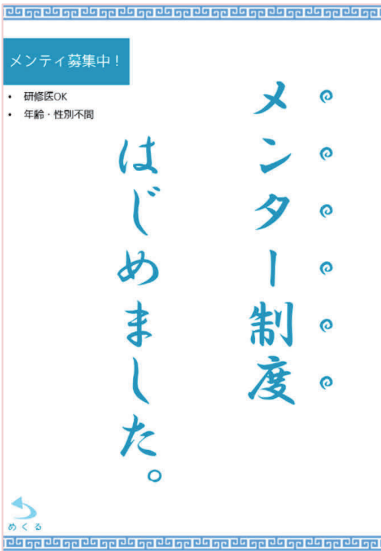


「お留守番医師制度」について

週1回（場合によっては月1回も可）から復帰したい方へ「お留守番医師制度」を設けています。かかりつけ医が訪問診療に行かれる際の外来業務（お留守番医師）を担っていただく制度です。

現在退職を考えている女性医師の復帰に、医師としての技術・学習意欲の維持向上や、地域医療へ関わることによる社会貢献の実現にお役立ていただければ幸いです。この制度でメディッククラブを利用される場合は、保険料は無料です。まずは一度見学に行ってみませんか。お問い合わせお待ちしております。

 **W 熊本県女性医師キャリア支援センター**
Kumamoto career support center for women doctors



4. 取材等



2017年11月24日KKTテレビタミンで、お留守番医師制度についての特集が放送されました。

熊本地震で医師不足に陥った地域。そこにやってきたのは一度は退職したママドクター。地域医療のために活躍するママドクターを取材▶

5. HPリニューアル

平成29年4月1日、女性医師キャリア支援センターHPをリニューアルしました。



③ 地域医療・総合診療実践学寄附講座

1.活動概要

「地域医療・総合診療実践学寄附講座」は、前年度末に活動を終了した「地域医療システム学寄附講座」の後継として平成28年4月1日に設置されました。当講座は、これまでの医師循環システムに関する調査研究や地域医療実習教育に関する調査研究等の成果を踏まえ、「医学生や若手医師への卒前からの一貫した地域医療教育」「総合診療医の育成」「地域医療実践教育拠点の運営」など、地域医療を志す医師の養成を目指して、より実践的な取り組みを進めることを目的としています。

【主な内容】

- ① 地域医療支援（診療支援）
- ② 調査・研究
- ③ 教育活動
 - ・卒前教育（カリキュラム内教育）
 - ・卒後教育
 - ・初期臨床研修
 - ・専門研修
- ④ 指導医養成
- ⑤ 講演会

2.年間活動実績

月	日	行事
4	20	地域医療ゼミ
	28	第3タームクリクラ振り返り会
5	13-14	第8回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
	17	第10回地域医療・総合診療グランドラウンド（地域医療ゼミ）
	26	第4タームクリクラ振り返り会
6	3	第11回地域医療・総合診療グランドラウンド
	11	卒後臨床研修プログラム説明会 熊大専門研修説明会
	16	第5タームクリクラ振り返り会
7	7	第6タームクリクラ振り返り会
	20	地域医療ゼミ
	22	熊本大学総合診療専門医研修プログラム説明会
8	16-18	夏季地域医療特別実習
9	15	第7タームクリクラ振り返り会
	21	地域医療ゼミ
10	1	熊大専門研修募集説明会
	14	第1回レジデントデイ
	19	地域医療ゼミ
11	14	医学生・研修医をサポートする会セミナー（地域医療ゼミ）
12	4-5	クリクラ説明会（1・2ターム）
	21	地域医療ゼミ
	18	地域医療ゼミ
1	20	第12回地域医療・総合診療グランドラウンド
	26	第1タームクリクラ振り返り会
	27	第2回レジデントデイ
2	15	地域医療ゼミ
	16	第2タームクリクラ振り返り会
	23	第13回地域医療・総合診療グランドラウンド
3	2	クリクラ説明会（3～7ターム）
	17	第3回レジデントデイ
	23	地域医療ゼミ

3.活動報告

I 地域医療支援（診療支援）

大学病院においては、「総合診療科」の外来診療を月曜日から金曜日まで実施し、専門診療科以外の受診を目的とした初診患者を中心に診療を行いました。また、大学病院の救急外来診療等も担当しました。玉名教育拠点にては、「総合診療科」の外来および病棟診療を行いました。また同院の救急診療にも携わりました。その他の熊本県内の医師が不足している病院に対し、県からの要請に基づき、診療支援活動を行いました。

◆ 大学病院 総合診療外来

➤ 平成29年4月1日～平成29年9月30日

月	火	水	木	金
	松井	高柳	佐土原	松井
	佐土原			前田

➤ 平成29年10月1日～平成30年1月31日

月	火	水	木	金
前田（偶数週）	松井	高柳	佐土原	松井
	佐土原			高柳

➤ 平成30年2月1日～平成30年3月31日

月	火	水	木	金
前田（偶数週）	佐土原	高柳	佐土原	松井
				高柳

◆ 学外診療支援

松井	H29.4～H30.3 公立玉名中央病院（週1回） H30.2～H30.3 牛深市民病院（週1回）	高柳	H29.10～H30.1 牛深市民病院（週1回） H29.10～H29.12 公立玉名中央病院（週1回） H30.1～H30.3 天草地域医療センター（週1回） H30.2～H30.3 御所浦診療所（週1回）
	H29.4～H30.3 公立玉名中央病院（週1回） H29.4～H29.9 牛深市民病院（週1回） H29.10～H30.3 天草地域医療センター（週1回）		H29.4～H29.9 上天草総合病院（週1回） H29.4～H29.9 公立玉名中央病院（週1回）

II 調査・研究

◆ 地域医療実習教育に関する調査研究

平成28年度から始めた、医学科3年次学生に対する地域医療実習（早期臨床体験実習Ⅲ）については、昨年度の実施結果を踏まえ、改善を図った上で12月4日～8日に実施しました。また、5・6年次学生に開講している地域医療特別実習（クリニカルクラークシップ）については、平成30年度に必修化されることを想定して、本年度の実施において問題点の洗い出しを行いました。

◆ 総合診療専門医普及に関する調査研究

新専門医制度の「熊本大学総合診療専門医プログラム」については、日本専門医機構の承認を得て、平成30年度4月からプログラムを運営することが決定しました。また、専攻医も6名の応募があり、全員が合格しています。

◆ 医療機関の勤務環境に関する調査研究

県内の医療機関の勤務環境については、熊本県の委託を受け、県内の全医療機関の調査を行いました。収集できたデータは熊本県において管理されていますが、一部は当講座においても活用しています。

◆ 教育拠点に関する調査研究

公立玉名中央病院に設置した「玉名教育拠点」においては、急激に利用者が増加して対応が難しくなったため、今年度から常駐の教員を1名増員して対処しています。また、第2の教育拠点の設置については、医師不足が顕著な地域をターゲットに絞り、候補先を選定することにしました。

III 教育活動

◆ 卒前教育（カリキュラム内教育）

地域医療システム学寄附講座を設置以来、これまでも医学科カリキュラムの実施に協力してきましたが、昨年度から、地域医療・総合診療実践学寄附講座として、医学科長からの正式な依頼に基づき、以下の実習および講義を行いました。なお、熊本県地域医療支援センターへの依頼があった講義（※）も、一緒に記載しています。

1年生	・ 早期臨床体験実習Ⅰ ・ 医学概論※	4年生	・ 医療と社会Ⅰ ・ 総合診療学	・ 臨床実習入門 ・ チュートリアル
2年生	・ 早期臨床体験実習Ⅱ ・ 医学英語	5年生	・ 特別臨床実習	
3年生	・ 早期臨床体験実習Ⅲ ・ 公衆衛生学	6年生	・ 特別臨床実習	

医学概論※		開講年次	1年生
2017/6/26	谷口【コミュニケーション】		一般的な意義、理論、技法、等を概説。ロールプレイでコミュニケーションの体験。コミュニケーションの持つ意味を議論し、コミュニケーション能力を向上させる方法を検討し合う。
2017/7/3	後藤【男女共同参画】		医師という職業の中で男女共同の仕事としてどのような問題が存在するか議論。後藤理英子先生から一般的な現状・問題、考え方、近年の動向、等を概説。これからどのような活動や考えを深めていくか検討。
2017/7/10	谷口【プロフェッショナルリズム・医師道とは】		医師にとってのプロフェッショナリズムとは何かを考察する。教員による概説の後、映像を視聴し、その後のグループディスカッションなどで更に議論し深める。
2017/7/24	谷口【喫煙と社会】		喫煙に関して現時点で、一個人として、一社会人として、一医学部生としてどのように考えているかを述べ、それぞれが、他者との様に同じでどのように異なるのか議論する。概説を元に考察し、今後喫煙問題にどのように関わっていくべきか？の考えを述べる。

医学英語		開講年次	2年生
2017/12/20	佐土原【腫瘍医学】	腫瘍医学に関連し、遺伝性の乳癌の予防的乳房切除を題材に、EBMのステップを英語を使いながら体験してもらった。腫瘍医学の英語のキーワードを使って、文献検索、検索した英語の論文を読んでもらい、内容についてワークシートに記載して、一部発表してもらった。	
2017/12/22	小山【プライマリケア】	医師役と患者役でスキッドを用意し、英語でロールプレイ。あるいは英語での医療面接の視聴覚教材を視聴し、その症例についての病歴を日本語にて作成する。	

公衆衛生学		開講年次	3年生
2017/5/23	松井【疫学①】	疫学概念	
2017/5/23	松井【疫学②】	診断、感度や特異度	
2017/5/30	松井【疫学③】	予防、スクリーニング	
2017/5/30	松井【疫学④】	EBM、診断ガイドライン	
2017/6/30	谷口・中本【地域保健①】	地域医療行政（我が国と熊本県）	
2017/6/30	田宮・安成【地域保健②】	病院でのチーム医療、病診連携、病病連携CGA（高齢者総合機能評価）について	
2017/7/5	佐土原【地域保健③】	医療提供体制の現状とこれから	
2017/7/5	小山・谷口【地域保健④】	総合診療と総合診療専門医制度	
2017/7/5	高柳【地域保健⑤】	家庭医療学とプライマリ・ケア	
2017/7/5	前田・谷口【地域保健⑥】	へき地医療の対策と実際	

総合診療学		開講年次	3年生
授業の目的：総合診療学の「臨床入門」の授業の一般学習目標GIO(General Instruction Objective),診療参加型臨床実習を円滑に、実践的かつ効果的に行うために、学習方法についての知識を得て、実習に必要な基本的態度・習慣や技能を体験することにより、今後の学習へ動機を高める。 授業の概要：総合診療学の「臨床入門」の授業の個別学習目標SBO(Specific Behavioral Objectives)			
2017/4/18	谷口【医療のプロセス】	医療のプロセスを学び、その中で行われる医療面接について、講義、教材視聴、ロールプレイ等を行う。	
2017/4/18	谷口【医療面接総論】	医療のプロセスを学び、その中で行われる医療面接について、講義、教材視聴、ロールプレイ等を行う。	
2017/4/26	谷口【医療面接各論1】	模擬患者（SP）さんのご協力のもと、グループ毎に学生が交互に医師役、評価者役となって、互いに医療面接の実技を行い、その上で全員での振り返りを行う。	
2017/4/26	谷口【医療面接各論2】	模擬患者（SP）さんのご協力のもと、グループ毎に学生が交互に医師役、評価者役となって、互いに医療面接の実技を行い、その上で全員での振り返りを行う。	
2017/5/9	松井【身体診察概論】	身体診察の意義、および概略について学び、主な身体診察手技に関して、概説を行う。	
2017/5/16	田宮【臨床推論概論】	臨床推論を行う上で、基本となる考え方や知識等について、概説を行う。	
2017/5/23	佐土原【臨床推論演習1】	模擬症例に基づいた臨床ケーススタディを、グループ単位で行う。	
2017/5/30	小山【臨床推論演習2】	模擬症例に基づいた臨床ケーススタディを、グループ単位で行う。	
2017/6/6	高柳【臨床推論演習3】	模擬症例に基づいた臨床ケーススタディを、グループ単位で行う。	
2017/6/13	前田【臨床推論演習4】	模擬症例に基づいた臨床ケーススタディを、グループ単位で行う。	
2017/6/20	松井【総合診療概論】	総合診療とは？ これからの社会の中で、何が総合診療に求められているか等について、概説を行う。	

医療と社会Ⅰ		開講年次	4年生
2017/6/12	後藤【男女共同参画】	医師の男女比の変遷や男女共同参画の流れ等について学び、社会および医療従事者のワークライフバランスについて認識し、考察を行う。また、社会の多様性への理解を深め、将来の医師としてのプロフェッショナリズムを形成する一助とする。	
2017/6/21	谷口【医療人類学】	医療人類学について講義を行い、医療が人類にどのように貢献し、今後発展していくかを考察する。	

チュートリアル実習		開講年次	4年生
2017/10/16 - 2017/10/27	前田【第1週チュートリアル】 谷口【第2週チュートリアル】	課題（シナリオ）に沿って問題抽出、自己学習、グループ発表、全体発表を行う。また課題に関連した講義・実習を受講する。	

臨床実習入門		開講年次	4年生
2017/8/23 - 2017/9/15	松井・谷口・佐土原・前田【臨床実習入門1週目】	全体での授業。共用試験実施機構が定めたOSCEの学習・評価項目に加え、熊本大学での診療参加型臨床実習に必要な項目についても学習する。	
	松井・谷口・佐土原・前田【臨床実習入門2-3週目】	グループに分かれての実習。共用試験OSCEの学習・評価項目と熊本大学での診療参加型臨床実習に必要な項目について、実際に実技を行う。	
	松井・谷口・佐土原・前田【臨床実習入門4週目】	2日間にわたり病棟での看護実習を実施する。	

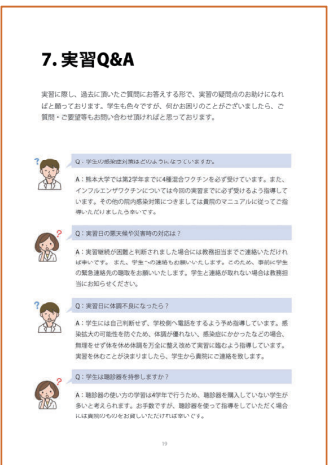
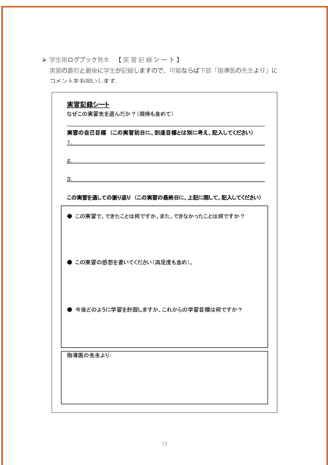
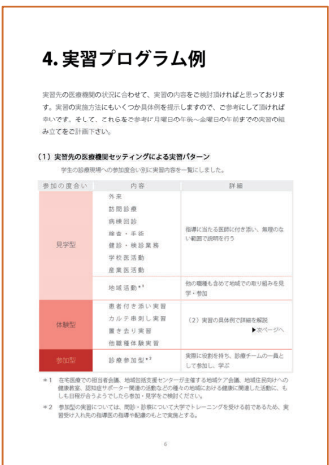
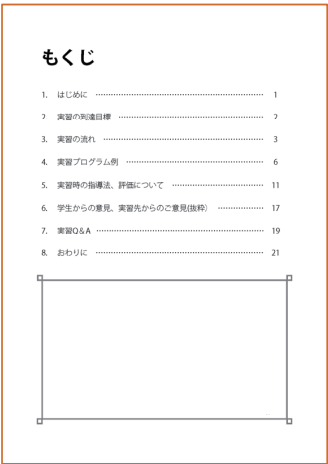
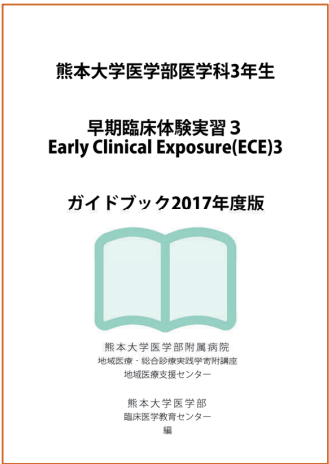
早期臨床体験実習Ⅰ		開講年次	1年生
早期臨床体験実習は医学科学生を早期から実習に触れさせることを目的として、3年前に改正された新カリキュラムに基づき、必修科目としてⅠ～Ⅲで構成されています。 早期臨床体験実習Ⅰは1学年を対象とし、従来から実施していた「早期社会体験実習」の名称を変え、4回目の実施となった今年度は9月12日～15日の5日間に渡り実施しました。			
2017/9/11	松井・谷口【オリエンテーション】	オリエンテーションとスモールグループディスカッション	
2017/9/11	松井・谷口【オリエンテーション】	施設への移動と導入オリエンテーション	
2017/9/12 - 2017/9/15	松井・谷口【施設での実習】	実習先にてあらかじめ設定されたスケジュールで実習を行う。	
2017/9/28	松井・谷口【ECE1発表会1】	グループごとに実習についてスライドソフトと配布資料にてプレゼンテーションを行う。	
2017/10/5	松井・谷口【ECE1発表会2】	グループごとに実習についてスライドソフトと配布資料にてプレゼンテーションを行う。	

早期臨床体験実習Ⅱ		開講年次	1年生
早期臨床体験実習Ⅱは2学年を対象とし、今年度で3回目の実施となりました。実習先が熊本大学医学部附属病院に限定されているため、企画には携わりましたが、医学教育センターが主体で行われました。			
2018/1/12	谷口【オリエンテーション】	早期臨床体験実習2全般の説明	
2018/3/9	谷口【オリエンテーション】	受け入れ部署からの説明、実習の最終確認	
2018/3/12 - 2018/3/16	早期臨床体験実習2-5日目	学生を各診療科・各部署に配属し、各診療科・各部署が準備した実習スケジュールに従い、体験実習を行う。実習中はログブックにて実習記録を作成し振り返りを行う。	

早期臨床体験実習Ⅲ				開講年次	1年生
早期臨床体験実習Ⅲは、3学年を対象とし、新カリキュラムにおける3年間にわたる早期臨床体験実習の総仕上げに当たるものであり、また、上位学年で実施される臨床実習への基礎入門編に位置付けられています。					
1	2017/10/18	松井・谷口・高柳 【オリエンテーション】	実習の説明、実習先振り分けなど		
2	2017/12/4	松井・谷口・高柳 【導入グループワーク】	午前中は講義室に集まり、グループワークで実習前のグループディスカッションを行う。		
3-7	2017/12/4 - 2017/12/8	松井・谷口・高柳 【学外実習】	各実習施設にて見学実習を行う。		
8	2017/12/8	松井・谷口・高柳 【振り返りグループワーク】	午後に大学の講義室に再度集まり、実習の報告を兼ねた振り返りを行う。		

➤ ガイドブックについて

医学部3年生対象に、2016年度から早期臨床体験実習3(ECE3)を開始したが、初年度と言う事もあり、実習指導に戸惑われた指導医の先生方もおられた様にお聴きしました。実習に先立ち、昨年度、本年度と複数回の実習説明会を開催しておりますが、それを元に、ECE3の実習ガイドブックを作成しましたので、講習会と合わせて、実習で指導に少しでもお役に立てるならば幸いです。



特別臨床実習	開講年次	5年--6年生
授業の目的：診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら医師として最低限必要な医学知識、臨床推論、臨床判断・技能・態度などの能力を以下の4項目（詳細は省略）を行うことを通して身につけることを目標とする。 授業の概要：1ターム3週間、各診療科に配属され、診療参加型の臨床実習を行う。合計7ターム、21週間。診療科配属は学生の希望をもとに調整する。なお、診療科に含まれる「地域医療」を選択すると、学外の協力施設での実習となる。		

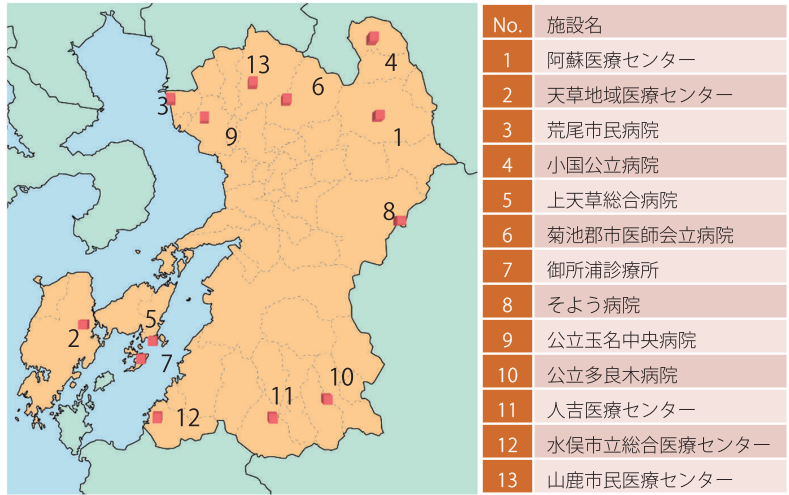
◆ 特別臨床実習：総合診療科

10年以上、旧総合診療部（現 救急・総合診療部）の特別臨床実習として、近年は1週間の選択の実習として実施しておりました。本年度は、4名の学生が選択してくれましたが、大学病院の総合診療科の外来実習を行いました。主に初診患者を毎日担当しています。次年度からは、新カリキュラムでの実習となりますが、カリキュラム移行に合わせ、救急・総合診療部の実習ではなく、地域医療・総合診療実践学寄附講座として独立した「総合診療科」の実習となり、地域医療実習から離れた玉名教育拠点を中心の3週間の選択実習となる予定です。

◆ 特別臨床実習：地域医療

5学年末から6学年の秋までの全7ターム（1タームは3週間）で実施される特別臨床実習において、当講座は、平成26年度から地域医療を提供しています。

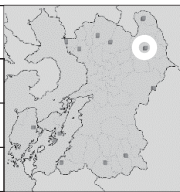
今年度は、県内の13医療機関の協力を得て、58人の学生に対し、地域医療実習を提供しました。

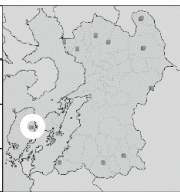


No.	施設名
1	阿蘇医療センター
2	天草地域医療センター
3	荒尾市民病院
4	小国公立病院
5	上天草総合病院
6	菊池都市医師会立病院
7	御所浦診療所
8	そよう病院
9	公立玉名中央病院
10	公立多良木病院
11	人吉医療センター
12	水俣市立総合医療センター
13	山鹿市民医療センター

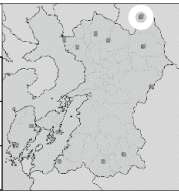
No.	実習受入先	1	2	3	4	5	6	7	合計
		1月23日 - 2月10日	2月13日 - 3月3日	4月10日 - 4月28日	5月8日 - 5月26日	5月29日 - 6月16日	6月19日 - 7月7日	8月29日 - 9月15日	
1	阿蘇医療センター	1		1			1		3
2	天草地域医療センター			1	1	1	1	1	5
3	荒尾市民病院		1	1	1		1	1	5
4	小国公立病院		1	1	1	1	1	1	6
5	上天草総合病院								0
6	菊池都市医師会立病院		1				1		2
7	御所浦診療所				1		1		2
8	そよう病院								0
9	公立玉名中央病院	3	2	3	3	3	1	1	16
10	公立多良木病院						1	1	2
11	人吉医療センター	1	1	1	1	1	1	1	7
12	水俣市立総合医療センター			1	1	1	1	1	5
13	山鹿市民医療センター			1	1	1	1	1	5
	合計	5	6	10	10	8	11	8	58

➤ 各病院スケジュール

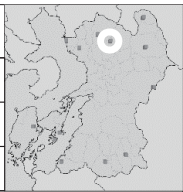
阿 蘇 医 療 セ ン タ ー						
学生受け入れ人数（年度別）						
H25	H26	H27	H28	H29	累計	
--	--	--	2	3	10	
	月	火	水	木	金	
1 週 目	➢医局会 ➢オリエンテーション ➢脳神経外科・皮膚科 外来 ➢SAS外来 ➢内科（検査・病棟実 習など）	➢医局会 ➢外科・循環器内科外来 ➢特別養護老人ホーム 往診 ➢検査・病棟実習など	➢医局会 ➢神経内科・リハビリ 外来または手術 ➢小児科外来または手術	➢産山村診療所 ➢心臓カテーテル検査	➢波野診療所 ➢一週間の締めくくり	
2 週 目	➢医局会 ➢オリエンテーション ➢脳神経外科・皮膚科 外来 ➢SAS外来 ➢内科（検査・病棟実 習など）	➢医局会 ➢外科・循環器内科外来 ➢特別養護老人ホーム 往診 ➢検査・病棟実習など	➢医局会 ➢神経内科・リハビリ 外来または手術 ➢小児科外来または手術	➢産山村診療所 ➢心臓カテーテル検査	➢波野診療所 ➢一週間の締めくくり	
3 週 目	➢医局会 ➢オリエンテーション ➢脳神経外科・皮膚科 外来 ➢SAS外来 ➢内科（検査・病棟実 習など）	➢医局会 ➢外科・循環器内科外来 ➢HOT外来 ➢検査・病棟実習など	➢医局会 ➢神経内科・リハビリ 外来または手術 ➢小児科外来または手術	➢産山村診療所 ➢訪問診療	➢波野診療所 ➢一週間の締めくくり	

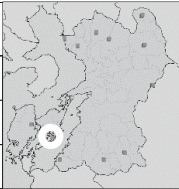
天 草 地 域 医 療 セ ン タ ー						
学生受け入れ人数（年度別）						
H25	H26	H27	H28	H29	累計	
--	--	--	5	5	10	
1 週 目	月	火	水	木	金	
	➢オリエンテーション ➢総合診療・救急外来	➢代謝内科診療・糖尿 病療養指導等 ➢往診（代謝内科）	➢外科・放射線科合同 カンファレンス ➢外来診療（希望診療 科）・救急外来 ➢訪問看護・保健指導 など	➢外科・消化器内科合 同カンファレンス ➢心臓カテーテル・循 環器内科救急 ➢外科術前・術後検討会	➢外来診療（希望診療 科）・救急外来	
2 週 目	➢医局会(第2,4) 外科化 学療法カンファレンス ➢外来診療（希望診療 科）・救急外来	➢小児科外来、予防接 種 ➢緩和ケア回診	➢外科・放射線科合同 カンファレンス ➢代謝内科診療・糖尿 病療養指導等 ➢往診（代謝内科）	➢外科・消化器内科合 同カンファレンス ➢脳外科外来・救急外来 ➢外科術前・術後検討会	➢外来診療（希望診療 科）・救急外来	
	➢医局会(第2,4) 外科化 学療法カンファレンス ➢外来診療（希望診療 科）・救急外来	➢天草地域健診センタ ー・保健指導等	➢外科・放射線科合同 カンファレンス ➢外来診療（希望診療 科）・救急外来 ➢訪問看護など	➢外科・消化器内科合 同カンファレンス ➢代謝内科外来・糖尿 病療養指導等 ➢外科術前・術後検討会	➢外来診療（希望診療 科）・救急外来	

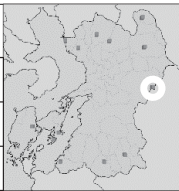
荒尾市民病院							
学生受け入れ人数（年度別）							
H25	H26	H27	H28	H29	累計		
--	--	--	--	5	5		
	月	火	水	木	金		
1 週 目	➢オリエンテーション ➢薬剤科見学、放射線科見学 ➢救急科実習、以下、手術・透析・放射線治療科いずれかの実習 ➢相談支援センター実習 ➢振り返り	➢研修医セミナー ➢HCUカンファレンス ➢救急科実習及び化学療法室実習 ➢検査科見学 ➢相談支援センター実習 ➢感染回診 ➢栄養サポートチーム回診 ➢振り返り	➢医局会 ➢救急科実習又は手術実習 ➢回診見学 ➢相談支援センター実習 ➢栄養科見学 ➢回診見学 ➢循環器内科回診 ➢代謝・内分泌内科又は回復期カンファレンス ➢振り返り	➢外科術前カンファレンス ➢HCUカンファレンス・回診 ➢救急科実習 ➢臨床工学科見学 ➢相談支援センター実習 ➢脳神経外科・神経内科回診、合同カンファレンス ➢褥瘡・創傷対策チーム回診 ➢救急科実習又は手術実習 ➢振り返り	➢外科術前カンファレンス ➢HCUカンファレンス ➢循環器内科回診 ➢救急科実習、リハビリ見学 ➢相談支援センター実習 ➢緩和カンファレンス ➢緩和ケアチーム回診 ➢救急科実習 ➢循環器内科カンファ ➢振り返り		
	➢HCUカンファレンス・回診 ➢救急科実習 ➢救急科実習、以下、手術・透析・放射線治療科いずれかの実習 ➢相談支援センター実習 ➢振り返り	➢研修医セミナー ➢HCUカンファレンス ➢救急科実習及び化学療法室実習 ➢相談支援センター実習 ➢血液内科カンファレンス・回診 ➢栄養サポートチーム回診 ➢振り返り	➢医局会 ➢救急科実習又は手術実習 ➢相談支援センター実習 ➢回診見学 ➢定期（心カテ）又は整形外科回診 ➢代謝・内分泌内科又は回復期カンファレンス ➢振り返り	➢外科術前カンファレンス ➢HCUカンファレンス・回診 ➢救急科実習 ➢相談支援センター実習 ➢脳神経外科・神経内科回診、合同カンファレンス ➢褥瘡・創傷対策チーム回診 ➢救急科実習又は手術実習 ➢振り返り	➢外科術前カンファレンス ➢HCUカンファレンス ➢循環器内科回診 ➢救急科実習、リハビリ見学 ➢相談支援センター実習 ➢緩和カンファレンス ➢緩和ケアチーム回診 ➢救急科実習 ➢循環器内科カンファ ➢振り返り		
	➢HCUカンファレンス・回診 ➢救急科実習 ➢救急科実習、以下、手術・透析・放射線治療科いずれかの実習 ➢相談支援センター実習 ➢振り返り	➢研修医セミナー ➢HCUカンファレンス ➢救急科実習及び化学療法室実習 ➢相談支援センター実習 ➢感染回診、血液内科カンファレンス・回診 ➢栄養サポートチーム回診 ➢振り返り	➢医局会 ➢救急科実習又は手術実習 ➢相談支援センター実習 ➢回診見学 ➢定期（心カテ）又は整形外科回診 ➢代謝・内分泌内科又は回復期カンファレンス ➢振り返り	➢外科術前カンファレンス ➢HCUカンファレンス・回診 ➢救急科実習 ➢相談支援センター実習 ➢脳神経外科・神経内科回診、合同カンファレンス ➢褥瘡・創傷対策チーム回診 ➢指導医と共に振り返り総括	➢外科術前カンファレンス ➢実習期間の自己総括		
	➢HCUカンファレンス・回診 ➢救急科実習 ➢救急科実習、以下、手術・透析・放射線治療科いずれかの実習 ➢相談支援センター実習 ➢振り返り	➢研修医セミナー ➢HCUカンファレンス ➢救急科実習及び化学療法室実習 ➢相談支援センター実習 ➢感染回診、血液内科カンファレンス・回診 ➢栄養サポートチーム回診 ➢振り返り	➢医局会 ➢救急科実習又は手術実習 ➢相談支援センター実習 ➢回診見学 ➢定期（心カテ）又は整形外科回診 ➢代謝・内分泌内科又は回復期カンファレンス ➢振り返り	➢外科術前カンファレンス ➢HCUカンファレンス・回診 ➢救急科実習 ➢相談支援センター実習 ➢脳神経外科・神経内科回診、合同カンファレンス ➢褥瘡・創傷対策チーム回診 ➢指導医と共に振り返り総括	➢外科術前カンファレンス ➢実習期間の自己総括		

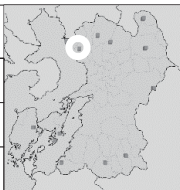
小 国 公 立 病 院							
学生受け入れ人数（年度別）							
H25	H26	H27	H28	H29	累計		
4	8	9	3	6	30		
	月	火	水	木	金		
1 週 目	➢事務局長講話 ➢院長講話 ➢実習オリエンテーション ➢Field Work	➢総合診療科付き ➢総合診療科回診 ➢Field Work	➢病院薬局実習 ➢病棟実習 ➢Field Work	➢検査（心臓・腹部エコー・内視鏡） ➢1/3週 リハビリ実習 ➢2/4週 認知症カフェ見学 ➢Field Work	➢老健実習（介護・ デイケア） ➢Field Work		
2 週 目	➢病棟実習 ➢院外薬局見学 （小国調剤orゆう薬局） ➢Field Work	➢病棟看護実習 （総合診療科） ➢総合診療科回診 ➢Field Work	➢検査部付き ➢訪問診療・訪問 看護見学 ➢Field Work	➢老健施設回診・サービス担当者会議 ➢1/3週 リハビリ実習 ➢2/4週 認知症カフェ見学 ➢Field Work	➢病棟看護実習（外 科） ➢介護福祉施設見学 ➢Field Work		
3 週 目	➢院外実習（社協・保 健師等） ➢Field Work	➢外科 1 日付き※ 総合診療科回診 ➢Field Work	➢放射線部付き ➢訪問診療・訪問 看護 ➢Field Work・実 習のまとめ	➢老健施設回診・サービス担当者会議 ➢1/3週 リハビリ実習 ➢2/4週 認知症カフェ見学 ➢3 週間の実習のまとめ ➢Field Work			

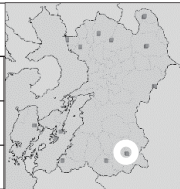
上天草総合病院						
受け入れ人数（年度別）						
H25	H26	H27	H28	H29	累計	
3	10	13	4	0	30	
1 週目	月	火	水	木	金	
	➢オリエンテーション ➢検査、病棟実習など ➢新入患者カンファレンス ➢医局会 ➢院内勉強会	➢教良木診療所と訪問診療 ➢特別養護老人ホーム御所浦苑往診あるいは検査、病棟実習 ➢夜間当直同行	➢病棟回診 ➢訪問看護同行 ➢併設老人保健施設実習 ➢退院支援実習 ➢院内勉強会	➢病棟回診 ➢内科外来診療 ➢訪問診療と検査、病棟実習など ➢夕刻外来診療	➢超音波内視鏡センター ➢特別養護老人ホーム相生荘往診あるいは検査、病棟実習	
2 週目	➢御所浦診療所 ➢検査、病棟実習など ➢新入患者カンファレンス ➢院内勉強会	➢教良木診療所と訪問診療 ➢特別養護老人ホーム御所浦苑往診あるいは検査、病棟実習	➢病棟回診 ➢訪問看護同行 ➢救急外来診療 ➢夜間当直同行	➢病棟回診 ➢内科外来診療 ➢訪問診療と検査、病棟実習など ➢夕刻外来診療	➢教良木診療所と養護老人ホーム和光園往診	
	➢外来実習 ➢検査、病棟実習など ➢新入患者カンファレンス ➢医局会 ➢院内勉強会	➢教良木診療所と訪問診療 ➢特別養護老人ホーム御所浦苑往診あるいは検査、病棟実習	➢病棟回診 ➢訪問看護同行 ➢救急外来診療 ➢院内勉強会	➢病棟回診 ➢内科外来診療 ➢訪問診療と検査、病棟実習など ➢夕刻外来診療 ➢夜間当直同行	➢超音波内視鏡センター ➢病棟実習後3週間の締めくくり	

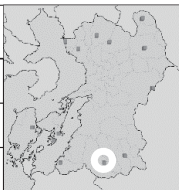
菊池郡市医師会立病院						
学生受け入れ人数（年度別）						
H25	H26	H27	H28	H29	累計	
--	--	--	--	2	2	
1 週目	月	火	水	木	金	
	➢新入院患者カンファレンス ➢外来研修 ➢レビュー ➢老健回診 ➢振り返り ➢自己研修	➢新入院患者カンファレンス ➢救急研修 ➢レビュー ➢病棟研修 ➢振り返り ➢自己研修	➢新入院患者カンファレンス ➢診療所研修 ➢レビュー ➢病棟研修 ➢振り返り ➢自己研修	➢新入院患者カンファレンス ➢外来研修 ➢レビュー ➢老健回診 ➢振り返り ➢がんリハカンファレンス ➢自己研修	➢新入院患者カンファレンス ➢検診研修 ➢レビュー ➢病棟研修 ➢週間振り返り ➢自己研修	
2 週目	➢新入院患者カンファレンス ➢外来研修 ➢レビュー ➢老健回診 ➢振り返り ➢自己研修	➢新入院患者カンファレンス ➢救急研修 ➢レビュー ➢病棟研修 ➢振り返り ➢自己研修	➢新入院患者カンファレンス ➢診療所研修 ➢レビュー ➢病棟研修 ➢振り返り ➢自己研修	➢新入院患者カンファレンス ➢外来研修 ➢レビュー ➢老健回診 ➢振り返り ➢がんリハカンファレンス ➢自己研修	➢新入院患者カンファレンス ➢検診研修 ➢レビュー ➢病棟研修 ➢週間振り返り ➢自己研修	
	➢新入院患者カンファレンス ➢外来研修 ➢レビュー ➢老健回診 ➢振り返り ➢自己研修	➢新入院患者カンファレンス ➢救急研修 ➢レビュー ➢病棟研修 ➢振り返り ➢自己研修	➢新入院患者カンファレンス ➢診療所研修 ➢レビュー ➢病棟研修 ➢振り返り ➢自己研修	➢新入院患者カンファレンス ➢保健所研修 ➢レビュー ➢老健回診 ➢振り返り ➢がんリハカンファレンス ➢自己研修	➢新入院患者カンファレンス ➢実習総括	

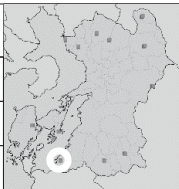
御所浦診療所						
学生受け入れ人数（年度別）						
H25	H26	H27	H28	H29	累計	
--	--	--	5	2	7	
1 週目	月	火	水	木	金	
	➢朝礼 ➢眼科外来/総合診療外来 ➢総合診療外来	➢朝礼 ➢検査 ➢総合診療外来 ➢船で横浦へ移動 ➢外来 ➢外来終了後に訪問診療 ➢御所浦島に帰島	➢朝礼 ➢整形外科外来/総合診療外来	➢朝礼 ➢検査 ➢総合診療外来 ➢船で横浦へ移動 ➢外来 ➢外来終了後に訪問診療 ➢御所浦島に帰島	➢朝礼 ➢検査 ➢総合診療外来 ➢スタッフミーティング ➢総合診療外来/訪問診療 ➢振り返り・次週の予定確認	
	➢朝礼 ➢眼科外来/総合診療外来 ➢総合診療外来	➢朝礼 ➢検査 ➢総合診療外来 ➢船で横浦へ移動 ➢外来 ➢外来終了後に訪問診療 ➢御所浦島に帰島	➢朝礼 ➢整形外科外来/総合診療外来	➢朝礼 ➢検査 ➢総合診療外来 ➢船で横浦へ移動 ➢外来 ➢外来終了後に訪問診療 ➢御所浦島に帰島	➢朝礼 ➢検査 ➢総合診療外来 ➢スタッフミーティング ➢総合診療外来/訪問診療 ➢振り返り・次週の予定確認	
	➢朝礼 ➢眼科外来/総合診療外来 ➢総合診療外来	➢朝礼 ➢検査 ➢総合診療外来 ➢船で横浦へ移動 ➢外来 ➢外来終了後に訪問診療 ➢御所浦島に帰島	➢朝礼 ➢整形外科外来/総合診療外来	➢朝礼 ➢検査 ➢総合診療外来 ➢船で横浦へ移動 ➢外来 ➢外来終了後に訪問診療 ➢御所浦島に帰島	➢朝礼 ➢検査 ➢総合診療外来 ➢スタッフミーティング ➢総合診療外来/訪問診療 ➢振り返り・次週の予定確認	
2 週目	月	火	水	木	金	
	➢朝礼 ➢眼科外来/総合診療外来 ➢総合診療外来	➢朝礼 ➢検査 ➢総合診療外来 ➢船で横浦へ移動 ➢外来 ➢外来終了後に訪問診療 ➢御所浦島に帰島	➢朝礼 ➢整形外科外来/総合診療外来	➢朝礼 ➢検査 ➢総合診療外来 ➢船で横浦へ移動 ➢外来 ➢外来終了後に訪問診療 ➢御所浦島に帰島	➢朝礼 ➢検査 ➢総合診療外来 ➢スタッフミーティング ➢総合診療外来/訪問診療 ➢振り返り・次週の予定確認	
	➢朝礼 ➢眼科外来/総合診療外来 ➢総合診療外来	➢朝礼 ➢検査 ➢総合診療外来 ➢船で横浦へ移動 ➢外来 ➢外来終了後に訪問診療 ➢御所浦島に帰島	➢朝礼 ➢整形外科外来/総合診療外来	➢朝礼 ➢検査 ➢総合診療外来 ➢船で横浦へ移動 ➢外来 ➢外来終了後に訪問診療 ➢御所浦島に帰島	➢朝礼 ➢検査 ➢総合診療外来 ➢スタッフミーティング ➢総合診療外来/訪問診療 ➢振り返り・次週の予定確認	
	➢朝礼 ➢眼科外来/総合診療外来 ➢総合診療外来	➢朝礼 ➢検査 ➢総合診療外来 ➢船で横浦へ移動 ➢外来 ➢外来終了後に訪問診療 ➢御所浦島に帰島	➢朝礼 ➢整形外科外来/総合診療外来	➢朝礼 ➢検査 ➢総合診療外来 ➢船で横浦へ移動 ➢外来 ➢外来終了後に訪問診療 ➢御所浦島に帰島	➢朝礼 ➢検査 ➢総合診療外来 ➢スタッフミーティング ➢総合診療外来/訪問診療 ➢振り返り・次週の予定確認	
3 週目	月	火	水	木	金	
	➢朝礼 ➢眼科外来/総合診療外来 ➢総合診療外来	➢朝礼 ➢検査 ➢総合診療外来 ➢船で横浦へ移動 ➢外来 ➢外来終了後に訪問診療 ➢御所浦島に帰島	➢朝礼 ➢整形外科外来/総合診療外来	➢朝礼 ➢検査 ➢総合診療外来 ➢船で横浦へ移動 ➢外来 ➢外来終了後に訪問診療 ➢御所浦島に帰島	➢朝礼 ➢検査 ➢総合診療外来 ➢スタッフミーティング ➢総合診療外来/訪問診療 ➢振り返り・次週の予定確認	
	➢朝礼 ➢眼科外来/総合診療外来 ➢総合診療外来	➢朝礼 ➢検査 ➢総合診療外来 ➢船で横浦へ移動 ➢外来 ➢外来終了後に訪問診療 ➢御所浦島に帰島	➢朝礼 ➢整形外科外来/総合診療外来	➢朝礼 ➢検査 ➢総合診療外来 ➢船で横浦へ移動 ➢外来 ➢外来終了後に訪問診療 ➢御所浦島に帰島	➢朝礼 ➢検査 ➢総合診療外来 ➢スタッフミーティング ➢総合診療外来/訪問診療 ➢振り返り・次週の予定確認	
	➢朝礼 ➢眼科外来/総合診療外来 ➢総合診療外来	➢朝礼 ➢検査 ➢総合診療外来 ➢船で横浦へ移動 ➢外来 ➢外来終了後に訪問診療 ➢御所浦島に帰島	➢朝礼 ➢整形外科外来/総合診療外来	➢朝礼 ➢検査 ➢総合診療外来 ➢船で横浦へ移動 ➢外来 ➢外来終了後に訪問診療 ➢御所浦島に帰島	➢朝礼 ➢検査 ➢総合診療外来 ➢スタッフミーティング ➢総合診療外来/訪問診療 ➢振り返り・次週の予定確認	

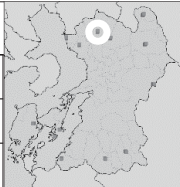
そよう病院						
学生受け入れ人数（年度別）						
H25	H26	H27	H28	H29	累計	
4	4	13	4	0	25	
	月	火	水	木	金	
1 週目	➢オリエンテーション ➢受け持ち患者決定・面接 ➢ふり返り	➢整形外科 ➢内科 ➢へき地診療所 ➢往診	➢循環器内科 ➢検査 ➢病棟受け持ち患者のケア(手術がある場合参加) ➢当直医と当直体験	➢症例カンファレンス（プレゼン） ➢内科 ➢リハビリ（受持症例決定） ➢受持ち患者のケア ➢地域ケア会議 ➢ミニバレー（体育館）	➢透析 ➢栄養科 ➢1週間まとめ	
2 週目	➢総合内科 ➢循環器内科 ➢へき地診療所 ➢ふり返り ➢医局会	➢訪問看護 ➢病棟回診（院長） ➢ふり返り	➢総合内科 ➢特養ホーム巡回 ➢ふり返り ➢当直体験（21:00まで）	➢症例カンファレンス（プレゼン） ➢薬剤科 ➢往診 ➢地域ケア会議 ➢ミニバレー（体育館）	➢へき地診療所 ➢往診 ➢1週間のまとめ	
3 週目	➢内科 ➢ふり返り	➢整形外科 ➢病棟回診（院長） ➢当直医と当直体験	➢総合内科 ➢特養ホーム巡回 ➢ふり返り ➢当直体験（21:00まで）	➢症例カンファレンス（プレゼン） ➢内科 ➢透析カンファレンス ➢地域住民・病院スタッフ	➢3週間のまとめ	

公立玉名中央病院							
学生受け入れ人数（年度別）							
H25	H26	H27	H28	H29	累計		
--	--	5	17	16	38		
	月	火	水	木	金		
1週目	➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢外来研修 ➢外来レビュー ➢病棟研修 ➢新患カンファレンス ➢振り返り ➢自己研修	➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢外来研修or訪問看護 ➢外来レビュー・総合診療科入院患者カンファレンス ➢病棟回診 ➢振り返り ➢自己研修	➢プライマリケアレクチャー ➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢外来研修 ➢訪問診療or緩和ケア回診or病棟研修 ➢振り返り ➢自己研修	➢モーニングレクチャー ➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢外来研修or訪問看護 ➢外来レビュー/各種講義 ➢病棟研修 ➢振り返り ➢自己研修	➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢訪問診療 ➢病棟研修 ➢週間振り返り ➢自己研修		
	➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢外来研修 ➢外来レビュー ➢病棟研修 ➢新患カンファレンス ➢振り返り ➢自己研修	➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢外来研修 ➢外来レビュー・総合診療科入院患者カンファレンス ➢病棟回診 ➢振り返り ➢自己研修	➢プライマリケアレクチャー ➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢外来研修or訪問看護 ➢訪問診療or緩和ケア回診or病棟研修 ➢振り返り ➢自己研修	➢モーニングレクチャー ➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢外来研修 ➢外来レビュー/各種講義 ➢病棟研修 ➢振り返り ➢自己研修	➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢訪問診療 ➢病棟研修 ➢週間振り返り ➢自己研修		
	➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢外来研修 ➢外来レビュー ➢病棟研修 ➢新患カンファレンス ➢振り返り ➢自己研修	➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢外来研修 ➢外来レビュー・総合診療科入院患者カンファレンス ➢病棟回診 ➢振り返り ➢自己研修	➢プライマリケアレクチャー ➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢外来研修or訪問看護 ➢訪問診療or緩和ケア回診or病棟研修 ➢振り返り ➢自己研修	➢モーニングレクチャー ➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢外来研修 ➢外来レビュー/各種講義 ➢病棟研修 ➢振り返り ➢自己研修	➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢訪問診療 ➢病棟研修 ➢週間振り返り ➢自己研修		
	➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢外来研修 ➢外来レビュー ➢病棟研修 ➢新患カンファレンス ➢振り返り ➢自己研修	➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢外来研修 ➢外来レビュー・総合診療科入院患者カンファレンス ➢病棟回診 ➢振り返り ➢自己研修	➢プライマリケアレクチャー ➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢外来研修or訪問看護 ➢訪問診療or緩和ケア回診or病棟研修 ➢振り返り ➢自己研修	➢モーニングレクチャー ➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢外来研修 ➢外来レビュー/各種講義 ➢病棟研修 ➢振り返り ➢自己研修	➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢訪問診療 ➢病棟研修 ➢週間振り返り ➢自己研修		
	➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢外来研修 ➢外来レビュー ➢病棟研修 ➢新患カンファレンス ➢振り返り ➢自己研修	➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢外来研修 ➢外来レビュー・総合診療科入院患者カンファレンス ➢病棟回診 ➢振り返り ➢自己研修	➢プライマリケアレクチャー ➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢外来研修or訪問看護 ➢訪問診療or緩和ケア回診or病棟研修 ➢振り返り ➢自己研修	➢モーニングレクチャー ➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢外来研修 ➢外来レビュー/各種講義 ➢病棟研修 ➢振り返り ➢自己研修	➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢訪問診療 ➢病棟研修 ➢週間振り返り ➢自己研修		
3週目	➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢外来研修 ➢外来レビュー ➢病棟研修 ➢新患カンファレンス ➢振り返り ➢自己研修	➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢外来研修 ➢外来レビュー・総合診療科入院患者カンファレンス ➢病棟回診 ➢振り返り ➢自己研修	➢プライマリケアレクチャー ➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢外来研修 ➢訪問診療 ➢振り返り ➢自己研修	➢モーニングレクチャー ➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢外来研修 ➢外来レビュー/各種講義 ➢病棟研修 ➢ジャーナルクラブ ➢自己研修	➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢実習総括		
	➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢外来研修 ➢外来レビュー ➢病棟研修 ➢新患カンファレンス ➢振り返り ➢自己研修	➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢外来研修 ➢外来レビュー・総合診療科入院患者カンファレンス ➢病棟回診 ➢振り返り ➢自己研修	➢プライマリケアレクチャー ➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢外来研修 ➢訪問診療 ➢振り返り ➢自己研修	➢モーニングレクチャー ➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢外来研修 ➢外来レビュー/各種講義 ➢病棟研修 ➢ジャーナルクラブ ➢自己研修	➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢実習総括		
	➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢外来研修 ➢外来レビュー ➢病棟研修 ➢新患カンファレンス ➢振り返り ➢自己研修	➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢外来研修 ➢外来レビュー・総合診療科入院患者カンファレンス ➢病棟回診 ➢振り返り ➢自己研修	➢プライマリケアレクチャー ➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢外来研修 ➢訪問診療 ➢振り返り ➢自己研修	➢モーニングレクチャー ➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢外来研修 ➢外来レビュー/各種講義 ➢病棟研修 ➢ジャーナルクラブ ➢自己研修	➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢実習総括		
	➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢外来研修 ➢外来レビュー ➢病棟研修 ➢新患カンファレンス ➢振り返り ➢自己研修	➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢外来研修 ➢外来レビュー・総合診療科入院患者カンファレンス ➢病棟回診 ➢振り返り ➢自己研修	➢プライマリケアレクチャー ➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢外来研修 ➢訪問診療 ➢振り返り ➢自己研修	➢モーニングレクチャー ➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢外来研修 ➢外来レビュー/各種講義 ➢病棟研修 ➢ジャーナルクラブ ➢自己研修	➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢実習総括		
	➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢外来研修 ➢外来レビュー ➢病棟研修 ➢新患カンファレンス ➢振り返り ➢自己研修	➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢外来研修 ➢外来レビュー・総合診療科入院患者カンファレンス ➢病棟回診 ➢振り返り ➢自己研修	➢プライマリケアレクチャー ➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢外来研修 ➢訪問診療 ➢振り返り ➢自己研修	➢モーニングレクチャー ➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢外来研修 ➢外来レビュー/各種講義 ➢病棟研修 ➢ジャーナルクラブ ➢自己研修	➢医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診 ➢実習総括		

公立多良木病院							
学生受け入れ人数（年度別）							
H25	H26	H27	H28	H29	累計		
1	0	0	6	2	9		
1週目	(月) オリエンテーション・外科 ➢オリエンテーション ➢外科医師のマンツーマン指導	(火) 総合診療科 ➢総合診療医師のマンツーマン指導	(水) 眼科 ➢眼科医師のマンツーマン指導	(木) 小児科 ➢小児科医師のマンツーマン指導	(金) 内科・槻木診療所 ➢内科カンファレンス ➢内科医師のマンツーマン指導 ➢槻木診療所		
	(月) 婦人科・外科 ➢婦人科医師のマンツーマン指導 ➢外科医師のマンツーマン指導	(火) 外科 ➢外科医師のマンツーマン指導	(水) 内科 ➢内科カンファレンス ➢内科医師のマンツーマン指導	(木) 整形外科 ➢整形外科医師のマンツーマン指導	(金) 内科・槻木診療所 ➢内科カンファレンス ➢内科医師のマンツーマン指導 ➢槻木診療所		
2週目	(月) 在宅 ➢訪問診療（在宅医療センター）	(火) 外科 ➢外科医師のマンツーマン指導	(水) 内科 ➢内科カンファレンス ➢内科医師のマンツーマン指導	(木) 在宅 ➢訪問診療（在宅医療センター）	(金) 外科・最終総括 ➢外科医師のマンツーマン指導 ➢実習最終総括		

人吉医療センター						
学生受け入れ人数（年度別）						
H25	H26	H27	H28	H29	累計	
--	8	19	7	7	41	
	月	火	水	木	金	
1週目	➢オリエンテーション ➢総合診療、救急センター	➢小児科	➢プライマリケアカンファレンス ➢消化器内科合同カンファレンス ➢訪問看護 ➢訪問診療 ➢リンパ外来	➢五木村診療所	➢緩和ケア回診 ➢外科合同カンファレンス ➢総合診療 ➢救急センター ➢訪問診療(小児)	
2週目	➢モーニングレクチャー ➢病棟回診 ➢断煙外来 ➢総合診療 ➢総合診療・救急センター	➢五木村診療所	➢プライマリケアカンファレンス ➢消化器内科合同カンファレンス ➢総合診療・化学療法外来 ➢訪問看護またはリンパ浮腫外来	➢プライマリレクチャー ➢総合診療・糖尿病代謝内科または訪問診療	➢緩和ケア回診 ➢外科合同カンファレンス ➢総合診療 ➢救急センター ➢訪問診療(小児)	
3週目	➢モーニングレクチャー ➢ドクターズ会、病棟回診 ➢断煙外来 ➢総合診療 ➢総合診療・救急センター	➢五木村診療所	➢プライマリケアカンファレンス ➢消化器内科合同カンファレンス ➢総合診療・化学療法外来 ➢訪問看護またはリンパ浮腫外来	➢プライマリレクチャー ➢糖尿病代謝内科 ➢総合診療・救急外来	➢緩和ケア回診 ➢外科合同カンファレンス ➢総合診療・救急外来・まとめ	

水俣市立総合医療センター						
学生受け入れ人数（年度別）						
H25	H26	H27	H28	H29	累計	
--	--	--	6	5	11	
1週目	月	火	水	木	金	
	➢ 医師住宅を案内 ➢ オリエンテーション ➢ 代謝内科実習	➢ 久木野診療所 ➢ 代謝内科病棟 ➢ NSTラウンド ➢ 代謝内科抄読会	➢ 救急カンファレンス ➢ 代謝内科陪席 ➢ 心カテ検査 ➢ 代謝内科・循環器内科回診 ➢ 心リハカンファレンス ➢ 代謝内科カンファレンス	➢ 放射線勉強会 ➢ 代謝内科陪席 ➢ 心カテ検査	➢ 久木野診療所 ➢ 糖尿病教室 ➢ 代謝内科まとめ	
2週目	➢ 放射線科研修	➢ 久木野診療所 ➢ 呼吸器内科病棟実習	➢ 救急カンファレンス ➢ 呼吸器科病棟（救急外来） ➢ 呼吸器内科検査実習 ➢ RSTラウンド	➢ 放射線勉強会 ➢ 呼吸器科陪席 ➢ ICTラウンド	➢ 久木野診療所 ➢ 呼吸器回診 ➢ 呼吸器内科まとめ	
3週目	➢ 放射線科研修	➢ 久木野診療所 ➢ 消化器科外科実習	➢ 救急カンファレンス ➢ 消化器科外科実習 ➢ 外科カンファレンス	➢ 放射線勉強会 ➢ 消化器科外科実習	➢ 病院実習まとめ	

山鹿市民医療センター：内科						
学生受け入れ人数（年度別）						
H25	H26	H27	H28	H29	累計	
--	--	--	--	5	5	
1 週 目	月	火	水	木	金	
	➢オリエンテーション ➢病院紹介・地域連携 ➢内科医師指導 ➢担当症例紹介1 ➢外科術前・症例カンファレンス	➢外科医師指導（手術/術後管理）（救急受入れ含む） ➢内科カンファレンス ➢病棟回診	➢外科回診・抄読会 ➢訪問看護同行 ➢緩和ケアチームカンファレンス・回診 ➢緩和ケア病棟医師指導 ➢医療安全カンファレンス	➢内科医師指導（外来） ➢消化器内科医師指導（内視鏡） ➢消化器内科・外科合同カンファレンス	➢整形外科医師指導（手術/術後管理）（外科病棟カンファレンス）	
2 週 目	➢内科医師指導（外来） ➢担当症例検討会1 ➢担当症例紹介2 ➢外科術前・症例カンファレンス	➢外科医師指導（手術/術後管理）（救急受入れ含む） ➢内科カンファレンス ➢病棟回診 ➢生理実習（エコー・心電図）	➢外科回診・抄読会 ➢外来化学療法室 ➢15:00～ICT 回診	➢整形外科医師指導（地域包括ケア病棟含む） ➢消化器内科医師指導（内視鏡） ➢消化器内科・外科合同カンファレンス	➢内科医師指導（外来）または救急外来指導 ➢緩和ケア外来 ➢緩和ケア病棟医師指導（外科病棟カンファレンス）	
	➢内科医師指導（外来） ➢担当症例検討会2 ➢安全衛生委員会（産業医活動） ➢外科術前・症例カンファレンス	➢外科医師指導（手術/術後管理）（救急受入れ含む） ➢内科カンファレンス ➢病棟回診	➢外科回診・抄読会 ➢訪問看護同行 ➢緩和ケアチームカンファレンス・回診 ➢緩和ケア病棟医師指導 ➢医療安全カンファレンス	➢内科医師指導（外来） ➢消化器内科医師指導（内視鏡） ➢消化器内科・外科合同カンファレンス	➢整形外科医師指導（手術/術後管理） ➢実習総括	

山鹿市民医療センター：整形外科					
1 週 目	月	火	水	木	金
	➢オリエンテーション ➢病院紹介・地域連携 ➢整形外科医師指導 ➢担当症例紹介	➢訪問看護同行 ➢リハビリテーション回診 ➢地域包括ケア病棟カンファレンス	➢整形外科医師指導（手術） ➢整形外科手術に参加 ➢緩和ケアチームカンファレンス・回診 ➢緩和ケア病棟医師指導 ➢医療安全カンファレンス	➢外科医師指導（救急受入れ含む） ➢消化器内科医師指導（内視鏡） ➢整形外科カンファレンス ➢消化器内科・外科合同カンファレンス	➢内科医師指導（外来）（循環器内科） ➢整形外科医師指導（手術/術後管理）
	➢整形外科医師指導 ➢整形外科来、病棟回診	➢訪問看護同行 ➢リハビリテーション回診 ➢地域包括ケア病棟カンファレンス	➢整形外科医師指導（手術） ➢整形外科手術に参加 ➢外来化学療法室 ➢ICT 回診	➢外科医師指導（救急受入れ含む） ➢循環器内科医師指導（心カテ） ➢整形外科カンファレンス ➢消化器内科・外科合同カンファレンス	➢内科医師指導（外来）（循環器内科） ➢整形外科医師指導（手術/術後管理）
	➢整形外科医師指導 ➢整形外科来、病棟回診	➢訪問看護同行 ➢リハビリテーション回診 ➢地域包括ケア病棟カンファレンス	➢整形外科医師指導（手術） ➢整形外科手術に参加 ➢緩和ケアチームカンファレンス・回診 ➢緩和ケア病棟医師指導 ➢医療安全カンファレンス	➢外科医師指導（救急受入れ含む） ➢消化器内科医師指導（内視鏡） ➢整形外科カンファレンス ➢消化器内科・外科合同カンファレンス	➢内科医師指導（外来）（循環器内科） ➢実習総括（整形外科医師）

山鹿市民医療センター：外科					
1 週 目	月	火	水	木	金
	➢オリエンテーション ➢病院紹介・地域連携 ➢外科医師指導 ➢担当症例紹介 ➢外科術前・症例カンファレンス	➢外科医師指導（手術/術後管理）（婦人科手術、救急受入れ含む） ➢生理実習（エコー・心電図） ➢病棟回診	➢外科回診・抄読会 ➢訪問看護同行 ➢緩和ケアチームカンファレンス・回診 ➢緩和ケア病棟医師指導 ➢医療安全カンファレンス	➢外科医師指導（手術/術後管理）（泌尿器科手術、救急受入れ含む） ➢消化器内科医師指導（内視鏡） ➢消化器内科・外科合同カンファレンス	➢内科医師指導（外来）（循環器内科含む） ➢整形外科医師指導（手術/術後管理）（外科病棟カンファレンス）
	➢外科医師指導 ➢外科術前・症例カンファレンス	➢外科医師指導（手術/術後管理）（婦人科、救急受入れ含む） ➢縫合実習 ➢病棟回診	➢外科回診・抄読会 ➢外来化学療法室 ➢ICT 回診	➢整形外科医師指導（地域包括ケア病棟含む） ➢循環器内科医師指導（心カテ） ➢消化器内科・外科合同カンファレンス	➢内科医師指導（外来）（循環器内科含む） ➢整形外科医師指導（手術/術後管理）（外科病棟カンファレンス）
	➢外科医師指導 ➢担当症例検討会 ➢外科術前・症例カンファレンス	➢外科医師指導（手術/術後管理）（婦人科、救急受入れ含む） ➢病棟回診	➢外科回診・抄読会 ➢訪問看護同行 ➢緩和ケアチームカンファレンス・回診 ➢緩和ケア病棟医師指導 ➢医療安全カンファレンス	➢外科医師指導（手術/術後管理）（泌尿器科手術、救急受入れ含む） ➢消化器内科医師指導（内視鏡） ➢消化器内科・外科合同カンファレンス	➢内科医師指導（外来） ➢（循環器内科含む） ➢実習総括（外科医師）

➢ 学生の感想抜粋

- ・ はじめて患者さんの入院から退院まで一貫して携われた。
- ・ ポリクリや他のクリクラでは外来が主だったので、今回病棟の患者さんの日々の変化に目を向ける経験ができた。
- ・ 大学では見学型・放置型が多いので、今回の実習は最高だった。大学での実習も地域医療での実習を見習うべき。
- ・ 今まで大学の先生しか知らなかったが、地域の病院にもすごい先生がたくさんいらっしゃることを知った。自分がどんな医師になりたいか考える上で became になった。
- ・ 外来で問診や身体診察を主体的にさせてもらい、医師としてどう働くのかイメージできた。
- ・ 患者さんへのプレゼンや発表などを通して、短時間で情報を伝えることの難しさを実感した。
- ・ 診断からマネジメントまで、きちんと根拠に基づいて行われていたことが非常に印象深い。
- ・ 患者さんの退院後の生活にも非常に重点が置かれており印象的だった。
- ・ 患者さんの臨終に立ち会う機会があり、医師として乗り越えなければならないことをこの実習で経験出来て良かったと思う。
- ・ 社会福祉協議会での実習で地域の様々な施設を回り、多様な患者にどう対応しているのか、どのような予防を行っているのか学んだ。
- ・ 高齢者医療や地域医療などあまり考えたくない分野だったが、スタッフの方々が知恵を絞りいろいろな工夫をして状況打開を図っており、否応なく考えさせられた。こういう経験ができること自体大きな意義があると思う。
- ・ 訪問診療を初めて経験した。自宅で安心して医療を受けられ、患者の家族とも情報共有がしやすく、患者の満足度が高いことが分かった。
- ・ 市町村合併が医療にも影響を与えることは全く考えていなかった。
- ・ 人口の少ない村にある診療所は、住人には必要不可欠だが、存続していくことがとても難しいように感じた。
- ・ 大学病院に通院できない人のために特殊外来が設立されていた。まだ震災の影響が続いているとは思わなかった。
- ・ 訪問診療には行けたが、訪問看護の見学ができなかったことは少し残念に思った。
- ・ 将来を左右する意義を持つ3週間になった。
- ・ 亡くなった患者さんのご家族へのIC,死亡診断書作成、霊安室への移動、お見送りといった一連の流れを体験したことが印象的だった。
- ・ 患者さんの数も疾患の種類を想像していたよりもはるかに多かった。
- ・ 大学で行っている手術も行われていた。少ない人数でも手術ができるような設備を見ることができた。

- 患者の薬への依存を感じた。（「よか薬はないですか？」）薬に依存しない治療（生活改善など）を促す難しさを感じた。
- 大学病院よりも具体的な研修医の仕事やスタッフ同士の連携を見ることができたように思う。
- 診療所や訪問看護で、医師・看護師に介護保険制度についてなど幅広い知識が必要。
- 入院患者の平均年齢が高く、点滴のみ（経管栄養なし）で自然な最期を迎える方針の患者が多くいる。
- 1人の患者の入院から退院まで見ることができ、医師だけでなく多くの職種の方が関わっていることを実感した。
- 地域全体で連携して医療を行う必要がある患者さんに多く出会えたことはとても印象深い。
- 高齢者問題がここまで現実に繰り広げられているとは思わなかった。（独居、ネグレクト、認知症など）
- 多職種連携や地域包括ケアについて知ることができて勉強になった。
- 訪問看護を見学できた。経済的、精神的に各家庭での違いを感じられて良い経験になった。
- 大学では体験できないようなこと（訪問看護、出前講座）がとても印象に残った。
- 病棟実習で患者のマネジメントをもっと学びたかった。
- 地域医療に関する実習が少なかった。もっと地域ならではのことがしたかった。
- 先生方、スタッフの皆さんにとってもよくしていただいて感謝している。
- 病院・診療所の先生方がみんな複数の診療科に渡る疾患を診ていて驚いた。
- 3週間は長かった。
- 結構大きな手術をしていて驚いた。

➤ 特別臨床実習「地域医療」指導医ワークショップ

【目 的】 地域医療実習の受入施設において、指導内容にレベルの差が生じることがないようにするため、各施設の指導医が一堂に会して、実習目的の設定から達成までの指導方法や評価方法等について意見交換を行い、実習指導要領及び評価マニュアルの作成を行うことを目的とする。

【期 日】 平成30年1月13日（土）

【場 所】 熊本大学大学院生命科学研究部附属臨床医学教育研究センター 奥窪記念ホール

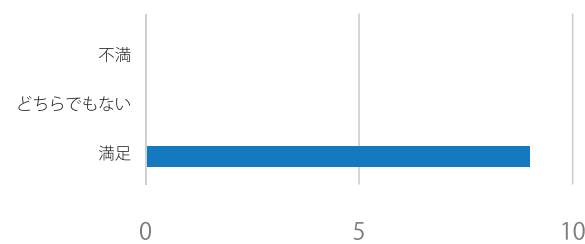
【内 容】

- 指導方法、評価方法など検討
- 指導要領、評価マニュアルの作成



➤ 指導医ワークショップ事後アンケート

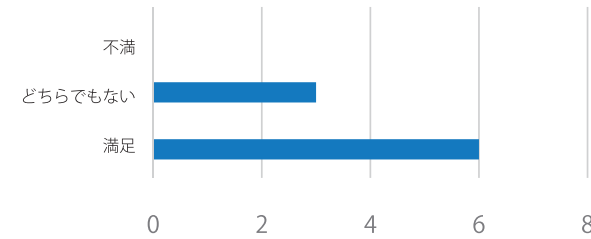
1) 指導医ワークショップ全体の満足度について



1) その理由

- 他の医療機関での取り組み内容が少し分かった
- 必須になった時に、実習内容を他の実習を参考に決められると思った。
- 他病院との情報共有ができた。
- ディスカッションの時間をもう少しとってほしいと思う。

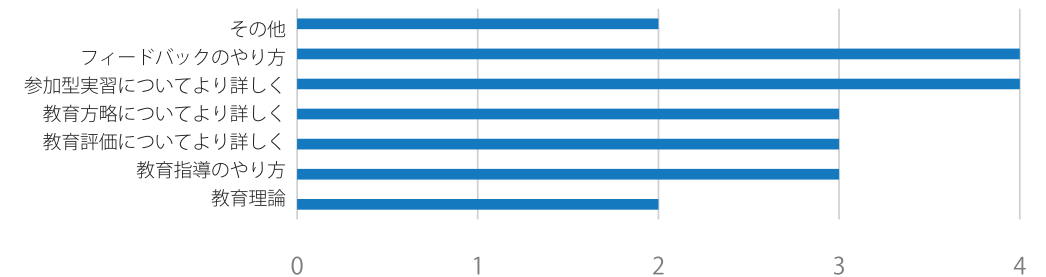
2) 開催時期や日程について



3) 今回の指導医ワークショップの内容で最も参考になった事はどのようなことですか？

- 病院の所在地としての地域の特徴を通して「地域医療」のスタンスを伝える
- 最も必要な目標が分かった。
- 生活と医療が分かる実習を作ろうと思う。
- 他院の指導法が比較できてよかった。
- 地域医療実習カリキュラム（新・旧）など
- 他施設の先生のお話が参考になりました。
- 教育の仕組み、カリキュラム
- 教員の先生方もディスカッションに入っていただいてもいいのではないか。
- 大学病院の実情も知っておきたい。

4) 次の指導医ワークショップで取り扱ってほしいテーマや内容についてご記入ください（複数選択可）



4) その理由

- difficult studentへの対応
- 現場でやっている実習を学術にもおとせるようにご教示ください。

5) 地域医療実習で今後力を入れて取り組んでいきたい事は何ですか？

- 教育・指導に参加する人材の発掘
- 教育・指導のアイデア集約
- 「くらしと（その中の）医療」
- 年間の行事に合わせた実習作成（1年を通じて実習に来られるので）
- 地域固有の症例を見せたい。
- チーム医療（多職種）への参加型実習
- コミュニケーションスキルアップ
- カンファレンスやチーム医療への参加
- できるだけ参加型の実習を行いたい
- 地域志向の若い人が、一定期間地域で働きたくするような現場を見せたいと思います。

6) 今後の為に提案や要望はありますか？

- 教育法や指導法に関するテーマで講習会をしてほしい
- 各地域での実習の現状の共有
- 県内全域で地域医療を見せるという仕組み、地域医療教育の連携があるといいと思います。

◆ 卒後教育

1 初期臨床研修

■ 平成29年度初期臨床研修受け入れ人数

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	研修受け入れ 総人数
熊本大学医学部附属病院			1			1		1	1	1	1	1	1
公立玉名中央病院 / 玉名教育拠点	2	2	2	2	3	3	4	3	4	5	4	3	8

■ 個人スケジュール

	月	火	水	木	金
AM	外来（初診）	外来（初診）	外来（初診）	救急外来	救急外来
PM	振り返り	振り返り	振り返り	救急外来	救急外来
備考				公立玉名中央病院 /玉名教育拠点	公立玉名中央病院 /玉名教育拠点

■ 研修の感想

- 特定の疾患や特定の臓器としてではなく、視野を広げて患者さんの診察にあたるといった習慣を身につけることができました。また、玉名教育拠点で研修する機会をいただいたことで、大学研修における経験症例の不足を速やかに補うことができました。
研修を通して、今後どの科を専門にするにしても、必要となる知識や患者さんに対する姿勢を先生方から直接学ぶことができ、満足のいく形で研修を終えることができました。大学のための研修の方は、特にローテーションに総合診療科を組み込むことをお勧めしたいと思います。

初期臨床研修2年目 安田 忠仁

2 専門医研修

➤ 熊本大学総合診療専門研修プログラム

当プログラムは、日本専門医機構認定の総合診療医後期研修プログラムです。
熊本大学医学部附属病院を中心として、熊本県内全域に広がる様々な医療施設の協力のもと、オール熊本として、総合診療専門医の育成に取り組むプログラムです。研修施設には、大学病院や地域中核病院に加え、小規模病院等も含まれ、県庁所在地である熊本市内のみならず、県内の各二次医療圏に研修施設があります。また、平成28年4月の熊本地震で直接大きな被害を受けた地域の施設も含まれています。
県内全域に広がる多くの施設がプログラムに参加することにより、異なる特性を持つ施設で、その地域に根づいた研修を行うことができ、本人の希望に応じた研修が可能となっています。また、熊本県出身の自治医科大卒業生や、熊本県医師修学資金貸与の熊本大学卒業生（地域枠入学者を含む）の義務償還対象となる施設のほとんどを含み、総合診療専門医としてのキャリア形成支援に寄与することも目指しています。
平成30年4月から、6名の専攻医が研修を開始する予定です。

➤ 熊本大学地域医療支援・総合診療後期研修プログラム（Ver.2）

当プログラムは、日本プライマリ・ケア連合学会認定の家庭医療後期研修プログラムです。
熊本大学医学部附属病院を中心として、熊本県内の様々な医療施設の協力のもと、オール熊本として、総合診療専門医の育成に取り組むプログラムです。研修施設には、大学病院や地域中核病院に加え、小規模病院等も含まれ、県庁所在地である熊本市内のみならず、県内の各二次医療圏に研修施設があります。大学病院は、県内唯一の高度先進医療、特定機能病院ではありますが、総合診療研修としてはアカデミックなトレーニングが可能です。また各専門診療科では、高度な先進性にも触れながらの研修が可能になっています。地域医療では、政令指定都市でハイボリュームの救急医療を行なう総合病院から、地域中核病院、僻地中核病院～診療所など、バラエティに飛んだ医療施設、地域での研修が、可能になっています。これらの施設がプログラムに参加することにより、異なる特性の施設で地域に根付いた研修を行う事ができ、本人の希望に応じた研修が可能です。

■ 研修プログラム

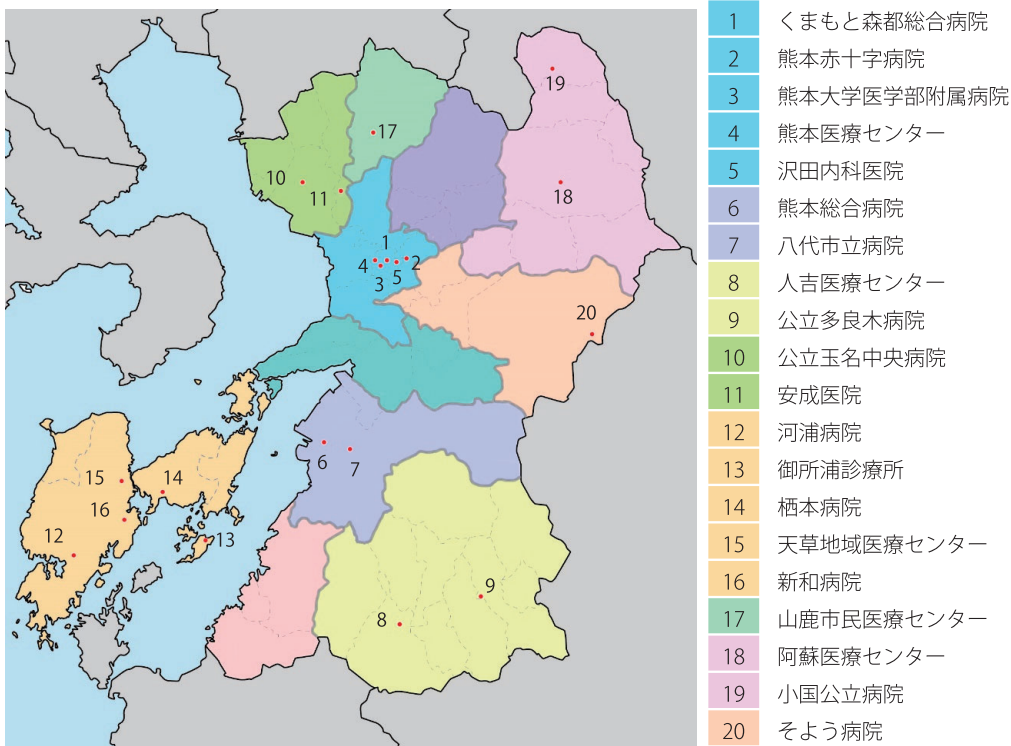
プログラム期間は原則として3年間で、総合診療専門研修、必修の領域別研修、その他の領域別研修で構成されます。その他の領域別研修は自分のキャリアに合わせて自由に調整可能です。

総合診療研修	総合診療Ⅰ（診療所・中小病院）	6ヶ月以上	合計 18ヶ月 以上
	総合診療Ⅱ（病院総合診療部門）	6ヶ月以上	
領域別研修 （必修）	内科	6ヶ月以上	
	小児科	3ヶ月以上	
	救急科	3ヶ月以上	
選択科研修	総合診療、皮膚科、整形外科、精神科、etc…	6ヶ月	

➤ 総合診療研修・必修領域研修機関一覧

総合診療Ⅰ	阿蘇医療センター	河浦病院	新和病院
	栖本病院	公立多良木病院	御所浦診療所
	小国公立病院	そよう病院	安成医院
	沢田内科医院		
総合診療Ⅱ	熊本大学医学部附属病院	熊本医療センター	人吉医療センター
	公立玉名中央病院	上天草市立総合病院	
内科	人吉医療センター	くまもと森都総合病院	熊本赤十字病院
	熊本総合病院	天草地域医療センター	公立玉名中央病院
小児科	阿蘇医療センター	天草地域医療センター	公立玉名中央病院
	人吉医療センター		
救急科	熊本大学医学部附属病院	人吉医療センター	
	公立玉名中央病院	熊本医療センター	

■ 研修施設一覧 平成29年度



■ 研修医のスケジュール例

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目 松田先生	玉名中央病院 総合診療科											
2年目 田中先生	玉名中央病院 総合診療科	玉名中央病院 循環器内科			玉名中央病院 腎臓内科		玉名中央病院 小児科			玉名中央病院 皮膚科		玉名中央病院 糖尿病・代謝内科
	中村先生	玉名中央病院 総合診療科	玉名中央病院 糖尿病・代謝内科		玉名中央病院 皮膚科		玉名中央病院 循環器内科			玉名中央病院 小児科		
3年目 楯先生	安成医院			沢田内科医院			玉名中央病院 皮膚科	玉名中央病院 整形外科		熊本医療センター 救急		

■ 研修医の声

（専攻医3年目 楯 直晃）

現在、国立病院機構熊本医療センターにて専門修練をさせていただいております専攻医3年目の楯と申します。以下、本年度の研修内容とその感想等を報告させていただきます。本年度は総合診療Ⅰとして安成医院、沢田内科医院、選択研修として公立玉名中央病院皮膚科・整形外科、また救急研修として国立病院機構熊本医療センター救命救急センターにて研修しました。総合診療Ⅰでは、内科のみならず外傷を中心とした外科処置、小児科の診療を行い、学校保健、産業医、往診・訪問診療等、多様な診療の場で保健福祉の仕事を経験しました。皮膚科・整形外科では、プライマリケア領域で頻度の高い皮膚疾患、運動器疾患に対する初期診療の他にも、執刀医として手術を経験することができました。救急研修では、救急外来の他に、集中治療を必要とする重症患者の入院診療にもあたることができ、とまどうことが多いながらも、非常に学ぶことが多く、新鮮な経験ができました。

今後は、専門修練期間中に習得した様々な臨床技術をもとに、貪欲に医師としての自己研鑽を積んでいきたいと考えております。

（専攻医2年目 田中 顕道）

昨年度の総合診療Ⅱの研修を終え、今年度は選択研修と小児科、救急科研修を行いました。選択研修は公立玉名中央病院で循環器内科、腎臓内科、皮膚科、糖尿病・内分泌科をローテートしています。ローテート先の指導医の先生方にはきめ細かなご指導をいただき、とても充実した研修になっています。他科の研修でも、common diseaseと専門性の高い疾患の両方をバランスよく経験することができています。加えて、他科をローテートすることで、客観的に総合診療科での研修を振り返る機会を持つことができ、新たな目標や反省点にも気づくことができました。また、公立玉名中央病院には、他科の後期研修医の先生方も来られることが多く、同世代の先生方からも良い刺激を受けながら研修をしています。来年度は、より高次な医療機関や総合診療科Ⅰでの研修も行う予定です。

（専攻医2年目 中村 孝典）

平成29年度は前年に引き続き、公立玉名中央病院で家庭医療専門医の後期研修プログラムとして複数の診療科で診療を行いました。

総合診療科、糖尿病・内分泌科、皮膚科、循環器内科、小児科をローテートし実際に主治医として、病棟業務、外来業務を担当しました。その中で、各診療科の先生方が普段どのように疾患にアプローチを行い、どのようにその後の管理を行っているかを学ことができ、またカンファレンスに参加することによって、専門家同士のディスカッションを経験させていただき、とても貴重な経験となりました。そしてそのような研修を通して、各疾患について、どのようなタイミングで専門家に相談するべきかを学ぶ事ができました。プライマリーケア医を志している身としては、適切な初期対応と専門家に相談すべき時期を学ぶ事ができたということはとても貴重な体験であったと考えています。家庭医療専門医の後期研修医としての私を受け入れてくださり、快く主治医を担当させていただいた各診療科の先生方のおかげでとても有意義な1年となりました。

（専攻医1年目 松田 圭史）

今年1年間は公立玉名中央病院での総合診療Ⅱの研修で、もちろん忙しさや大変さはありましたが、それ以上にやりがいや喜びを感じた1年でした。これまでは疾患にばかり目がいていた気がしますが、多くの患者さんを診ていく中で、疾患に対する直接的な治療も大事ですが、共感したり、安心感を与えたりなど、患者と心のつながりを作ることも同じぐらい重要なことであると感じました。また、訪問診療を経験する中で、自分だけでどうにかしようとするのではなく、患者本人・家族・ケアマネージャー・訪問看護師など様々な人が連携し、チームとして同じ目標に向かっていくことが重要だと感じました。

今年1年間で総合診療の面白さを改めて感じています。醍醐味はこれからだと思いますので、様々な環境の中で多くのことを楽しみながら学んでいきたいと思っています。

指導医養成

➤ 熊本大学総合診療指導医養成プログラム

■ プログラムの概要

このプログラムは、熊本大学が提供する独自の指導医養成プログラムになります。大学という教育・研究機関が提供するプログラムである特色を活かして、個別のニーズに合わせて総合診療・家庭医療の臨床経験だけでなくアカデミックなキャリアも積むことができることが特徴です。内容は専門医を取得してから最初の専門医更新までの5年間の教育に特化しており、主に卒後5年目から卒後12年目の若手医師を対象にしたプログラムです。更には、医学生から専攻医までの様々な世代への教育の経験ができ、連携機関も県内多数に存在するため、多彩な診療能力をニーズに応じて学ぶことができます。

また、指導医の資格を取得後の様々なキャリアに即し、特にSpecial Interestを深められるように自由選択性の研修を2年ほど取り入れています。Special Interestの領域については、各人の興味のある分野をさらに伸ばせるよう熊本県内の医療機関で研修が開始できるように熊本大学が全面的にバックアップしていきます。

■ プログラムの対象者

1. 専門医機構における総合診療研修の指導医条件に該当する、または平成30年度から該当となる予定の方
2. 卒後5年目～卒後12年目の方

※参考：平成29年度時点における専門医機構における総合診療指導医要件は以下の通りです

1. 日本プライマリ・ケア連合学会認定のプライマリ・ケア認定医、及び家庭医療専門医
2. 全自病協・国診協認定の地域包括医療・ケア認定医
3. 日本病院総合診療医学会認定医
4. 大学病院または初期臨床研修病院にて総合診療部門に所属し総合診療を行う医師（卒後の臨床経験7年以上）
5. 4. の病院に協力して地域において総合診療を実践している医師（卒後の臨床経験7年以上）
6. 都道府県医師会ないし郡市区医師会から「総合診療専門医専門研修カリキュラムに示される「到達目標：総合診療専門医の6つのコアコンピテンシー」について地域で実践してきた医師」として推薦された医師（卒後臨床経験7年以上）

■ 研修期間（5年間）

1. 指導医養成基盤研修（3年ほど）
 - ・総合診療研修施設（病院総合医・家庭医）での指導医研修
 - ・1年程度の大学教員（医員待遇）研修
 2. 自由選択制研修（2年ほど）
 - ・個別のニーズに合わせて選択式の研修
 - ・Special Interest研修
例）各種専門研修、開業・開業準備、留学等
- 各専門研修には、例えば、救急や緩和医療、在宅医療、などを準備しています。

■ 一般目標

 教育能力	 教育能力
・理論の実践と深化 ・包括的診療能力の向上 ・ニーズに応じた経験	・教育理論の実践 ・カリキュラムの作成
 管理・運営	 研究
・診療科の管理・運営 ・専攻医研修プログラムの管理・運営	・研究プロトコルの立案 ・研究論文執筆

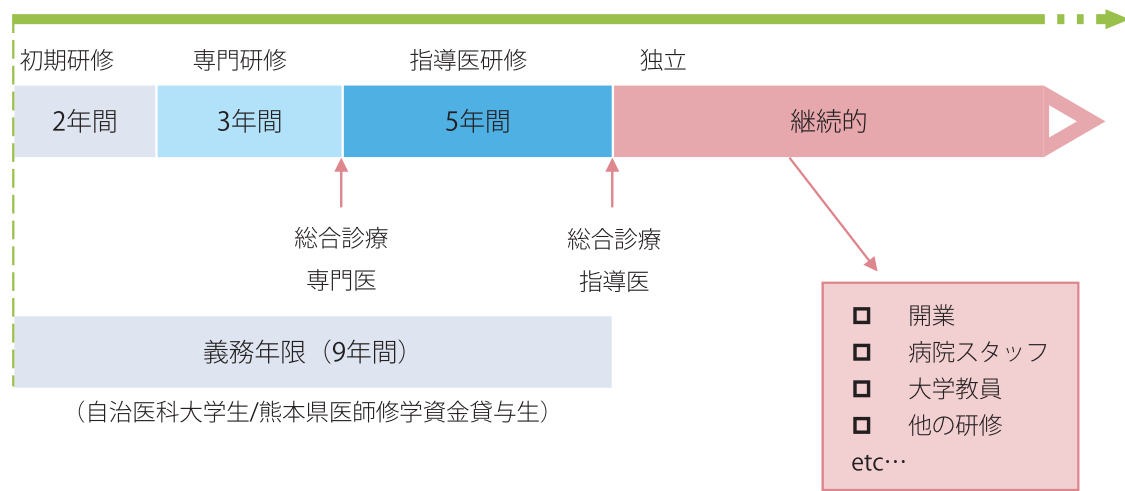
研修プログラム例（病院総合診療を専攻した場合）

	第1季	第2季	第3季	第4季
1年目	病院総合診療 専門医試験受験	病院総合診療	病院総合診療	病院総合診療
2年目	病院総合診療	病院総合診療	病院総合診療	病院総合診療
3年目	Special Interest1	Special Interest1	Special Interest1 臨床研修指導医講習会	Special Interest1
4年目	家庭医療	家庭医療	大学 （研究、教育業務も）	大学 （研究、教育業務も）
5年目	Special Interest2	Special Interest2	Special Interest2 総合診療指導医講習会	Special Interest2

■ 研修後のキャリアについて

指導医養成プログラムでは、世界水準の質の高い指導医を1つのゴールとして、総合診療の指導医習得および、家庭医・病院総合医としてのBrushUP、Special Interestの選択（専門医機構の今後の動向に合わせ検討）など、有意義な経験を積んでいただければと思っています。もちろん、指導医になることがゴールではなく、指導医習得後も更なるキャリア形成の機会を提供したくと思っています。具体的には、指導医として地域医療従事、国内外の留学、大学院への進学、大学教員、開業（新規・継承）などがあると考えています。

また、このプログラムは、県の医師就学金貸与制度や自治医大の卒後研修など、9年間の義務年限がある方々にとっても義務の研修を実施しながら、キャリア形成が可能で、義務終了後の次のキャリアにも結びつけることができる研修であるのも特徴です。



（自治医科大学生/熊本県医師修学資金貸与生）

講演会

◆ 第10回地域医療・総合診療グランドラウンド「イギリスにおける家庭医療医の役割」

2017年5月17日水曜 18:00～19:00



英国General Practitioner (総合医)
Rose Neary 先生

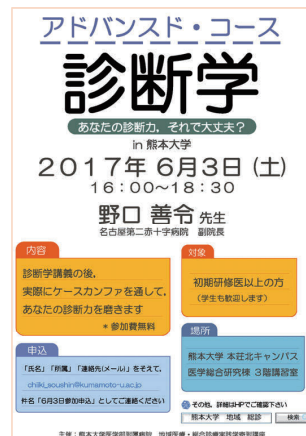
イギリスにおけるプライマリ・ケアの現状についてご講演いただきました。いくつかの患者の具体例を提示して、住民がどのように医療サービスをうけているのかをわかりやすく説明していただけました。



また、ご自身も3人のお子さんを研修中に授かった経験などから、イギリスにおける女性医師の働き方についてもご提示いただきました。

◆ 第11回地域医療・総合診療グランドラウンド「診断学アドバンスド・コース」

2017年6月3日土曜 16:00~18:30



名古屋第二赤十字病院
副院長
野口 善令 先生

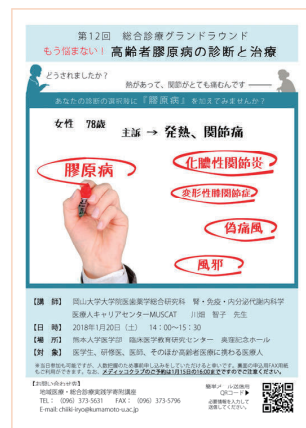


実臨床において、欠かすことの出来ないものが、確実な診断です。診断なくしては的確な治療は不可能と言っても過言ではありません。

そこで、診断学の大家である野口善令先生をお招きし、診断学のレクチャーを行って頂くのと同時に、当講座の地域医療拠点である公立玉名中央病院での症例を基にしたケースディスカッションを行い、学生及び研修医に対し、診断学の理解をより深めてもらいました。

◆ 第12回総合診療グランドラウンド「高齢者膠原病の診断と治療」

2018年1月20日土曜 14:00～15:30



岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
腎・免疫・内分泌代謝内科学
川畑 智子 先生



「免疫とは」「膠原病の診断」「薬の使い方について」等、症例検討も含め詳しく教えていただき知識を深めることができました。参加された先生方からもわかりやすい内容だったとの感想をいただきました。膠原病について分かりやすく教えていただいた川畑智子先生に感謝申し上げます。

◆ 第13回総合診療グランドラウンド「若手医師が語る！家庭医・総合医のこれからのキャリア」

2018年2月23日金曜 19:00～20:30



飯塚颯田病院
臨床教育部長
吉田 伸 先生



まどかファミリークリニック
院長
加藤 光樹 先生



臨床だけでなく、教育、研究、運営・管理などに関しても責任をもち活躍されているまどかファミリークリニックの加藤光樹先生と、飯塚頤田病院の吉田伸先生をお呼びしました。今現在のキャリアを診療所の立場から、病院の立場からご提示していただいただけでなく、さらにこれからの家庭医・総合医の社会における役割についてお話がありました。医学生から専門医まで幅広い年代から参加がありました。興味深く話を聞いている姿が印象的でした。講演後も講師に熱心に質問をする方も多くおり、興味関心の高さがうかがえました。

4.その他

2017年8月30日地域医療・総合診療実践学寄附講座の
HPをリニューアルしました。▶

<http://www.chiiki-iryō-kumamoto.org/dcfgm/>



4 玉名教育拠点

1.活動概要

玉名教育拠点は2015年4月、公立玉名中央病院に地域医療の支援及び地域医療の実践教育を行うべく開設されました。2名の常駐寄附講座教員でのスタートでしたが、現在、教員3名、後期研修の専攻医4名に加え、さらに地域医療・総合診療実践学寄附講座から人的サポートも拡充されており、病院の診療支援および実践的な教育の提供という目標達成のための体制に徐々に整備されつつあります。

平成29年度も初期研修医プログラムの「総合診療」の選択研修の受け入れも増え、特別臨床実習（クリニカル・クラークシップ）の地域医療実習も引き続き受け入れています。地域医療・総合診療実践学寄附講座スタッフは、医学生、初期研修医、専攻医とともに総合診療科として救急外来、一般外来、入院、在宅医療にとり組み、地域の医療を支援しつつ、実践的な教育を行なっています。

今後、地域医療に貢献するため、地域での総合診療科の認知度、研修の場としての教育拠点の認知度をさらに上げ、地域での卒前、卒後の医学教育を継続し、充実させていかねばならないと考えています。

今年度は右の活動実績のごとく、院内外のレクチャー、カンファレンスも整備が進んでおり、より充実した教育環境づくりを進めて行きたいと思えます。

特に地域医療職の皆さんに限らず、地域住民の皆様との交流を通じた研修の機会もさらに増えています。

初期研修・専攻医の活動は医療のネットワークと地域住民のネットワークをつなぐ役割を果たしつつあり、今後、地域づくり、地域医療研修に新しい方策をもたらすことが期待されます。



玉名教育拠点

2.年間活動実績

月	日	行事
4	27	玉名 クリクラ発表会 「地域に緩和ケアを」プロジェクト 緩和ケア研修会
	13-14	日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
5	16	平成29年度玉名教育拠点セミナー
		織田病院視察
	25	玉名 クリクラ発表会
6	14	荒尾・玉名救急ジョイントカンファ
	15	玉名 クリクラ発表会
7	6	玉名 クリクラ発表会
	3	平成29年度玉名教育拠点セミナー
	9	荒尾・玉名救急ジョイントカンファ
8	25	セミナー「人工呼吸器の波形 解析と分析」
	27	初期臨床研修医マッチング試験
9	14	玉名 クリクラ発表会
	29	西日本新聞社取材
	30	有明地区研修医合同カンファ
10	6	セミナー「脳神治療における最近の動向について」
	12-13	ホスピス緩和ケア週間イベント
	11	PIPC玉東セミナー
11	17	ふらっとゼミナール「延命治療ってなんだロ？」
	29	北米式カンファ参加（熊本医療センター）
12	21	有明緩和ケア研修会
1	25	玉名 クリクラ発表会
2	15	玉名 クリクラ発表会
	16	平成29年度玉名教育拠点セミナー
3		

3.活動報告

① 教育活動

◆ 特別臨床実習

熊本大学医学部では、1月～9月までに1ターム3週間の特別臨床実習（地域医療クリニカル・クラークシップ）を合計7ターム実施しています。当拠点では、昨年度同様、1タームを3名の定員で地域医療教育を実施しました。昨年度好評であった、各学生に入院患者の担当を割り当て、図の様に屋根瓦形式の診療・教育体制で日常診療業務に医療スタッフの一員として診療に参加させました。診療の中から自らのクリニカルクエストを見出し、これに基づいた論文検索から担当患者への適応までを期間内で実践してもらいました。

結果、5年次の1月～3月の期間に研修した学生2名が、公立玉名中央病院の初期臨床研修医として着任に至りました。

平成29年度は、学生教育の効果を実際に感じることでできる年になり、地域医療教育の重要性が再確認されたように思います。

来る平成30年度は、更に地域での医学教育の質の向上が重要であり、それを維持する事が今後の課題と言えます。

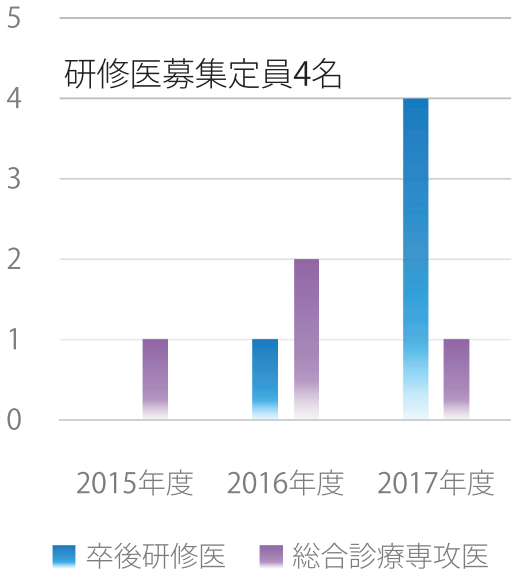
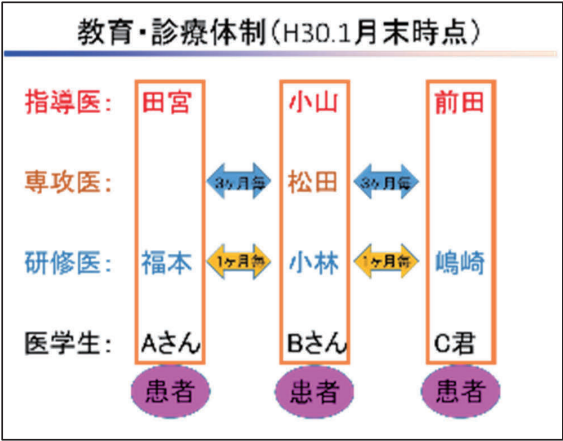
◆ 初期臨床研修（総合診療科研修）

2015年4月に基幹型研修病院としての独自のプログラムに、僅か1名の初期臨床研修医(研修医)でスタートした公立玉名中央病院は、平成29年度、4名の定員のフルマッチを達成しました。熊本大学医学部附属病院や熊本医療センターのプログラムの協力医療施設としてそれぞれ数名の研修医が着任しました。当拠点は、この中でも、総合診療科及び救急研修を担当し、指導を行いました。

昨年度の課題から、各研修医の研修開始前に、診療科間の引継ぎカンファレンスを開催し、予め研修医と指導医の意思確認を行うようにしました。その結果、各研修医の志向に合わせた研修内容の調整が可能となり、研修内容への満足度は向上しています。今後の課題としては、診療科毎の指導方略・方針の違いから、指導体制の標準化への必要性が浮き彫りとなりました。

この事を契機に、院内の研修指導体制についてのFaculty Development講習会開催の必要性が高まり、開催に向けての調整を開始しました。

僅か数年での研修病院としての急成長と共に、院内教育指導体制への課題が浮き彫りになり、その都度研修内容の見直しが必要になっています。すなわち、研修病院として、常に多方面からのフィードバックを基に、PDCA (Plan-Do-Check-Act)サイクルを回し続けることが、常に成長し続ける為の鍵になるでしょう。



玉名教育拠点

◆ 総合診療専門医（専攻医）研修

専攻医研修プログラムで、当拠点は「総合診療Ⅱ」を実施しており、平成29年度は1名の専攻医が研修しました。彼は総合診療科研修のみならず、救急研修も並行して行っており、週に1日は訪問診療も実践しています。この為、季節に関わらず担当する患者数は常に10名を超えており、日常業務の負担はかなりのものであったと考えられます。また昨年度から、これまでの完全主治医制から診療科主治医制に変更し、土日祝祭日のオンコール体制をシステム化しましたが、当時の2名の専攻医から1名に減っての体制維持の為に、指導医のマンパワー投入が不可欠となり、専攻医の負担はそのままに、指導医の負担を増やす結果となりました。

やはり現在は専攻医のマンパワーに依存的なシステムであるは否めず、課題は昨年度同様、専攻医が何名になると、システムの調整を必要としない、「指導医層の充実化」と言えます。

◆ モーニングレクチャー

当拠点では、新たな教育面の取り組みとして、毎週火曜日の午前8時から30分間のショートレクチャーを学生から専攻医に対して行いました。講師は、指導医のみならず、検査技師、薬剤師、医療ソーシャルワーカー、理学療法士まで、幅広い職種の職員に及びました。研修医として、将来の医師としての職務に直結する有用な知識・技術を効率よく習得する機会になったとの評価を得ることができました。

日にち	テーマ
4/4	カルテ書き方・カルテの型
4/11	コンサルテーション
4/18	グラム染色
4/25	聴診について
5/2	肺炎について
5/9	胸部Xp
5/15	胆石・膵炎の初期治療
5/22	消化管出血の対応
5/29	内視鏡診断・腹部エコー・腹部Xp
6/9	胸部外傷
6/16	急性腹症
6/23	縫合・糸結び
6/27	心不全の治療
7/4	不整脈
7/11	虚血性心疾患 循環作動薬の仕様について
7/18	動脈血ガス・電解質異常
7/25	急性腎不全
8/1	輸液
8/8	骨折
8/15	脱臼診断・脱臼整復
8/22	シーネ固定
8/29	気管挿管
9/5	人工呼吸器
9/19	地域の連携先
9/26	小児けいれん性疾患
10/3	主治医意見書の書き方
10/6	健診制度について
10/10	小児ウイルス・細菌感染症
10/17	小児喘息
10/24	泌尿器科救急
10/31	尿路結石
11/7	排尿障害
11/14	実践麻薬管理
11/21	糖尿病以外の代謝疾患
11/28	代謝・内分泌疾患のエマージェンシー
12/5	脳梗塞初期対応
12/12	変性疾患
12/19	在宅
12/26	チームビルディング

日にち	テーマ
1/9	プレアボイドについて
1/12	医療用麻薬について
1/23	熱傷管理
1/30	中毒疹
2/6	皮膚腫瘍
2/9	貧血
2/16	血小板減少
2/23	造血管腫瘍
3/6	グラム染色（1）
3/13	グラム染色（2）
3/20	リハビリテーションと理学療法
3/23	作業療法とは
3/27	言語聴覚士の仕事



Ⅱ 診療

公立玉名中央病院にて、総合診療科での外来および病棟診療を行いました。また、同院の他診療科からの相談や救急診療にも携わりました。

総合診療科での診療に当たり、玉名教育拠点に常駐する指導教員2名の他、研修医、地域医療・総合診療実践学寄附講座の教員・医員も外来診療に携わりました。

➤ 公立玉名中央病院 総合診療科

月	火	水	木	金
小山	田宮	田宮	田宮	小山
松田	小山	前田	前田	香田
			松田	
			松井	

*指導医は週に1度、熊本大学医学部附属病院で診療や公立玉名中央病院での症例についてのカンファレンスを行っています。

Ⅲ 年間診療報告

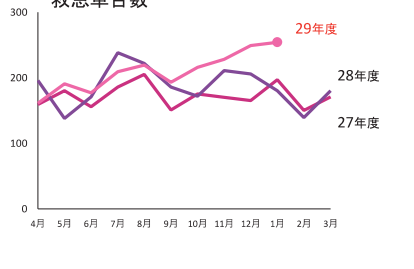
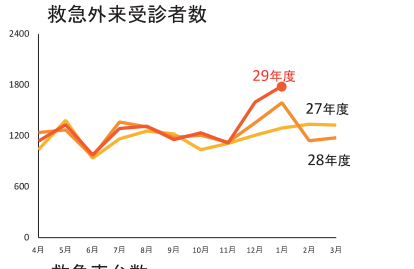
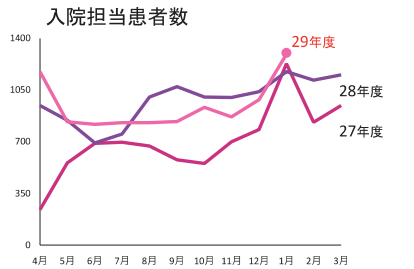
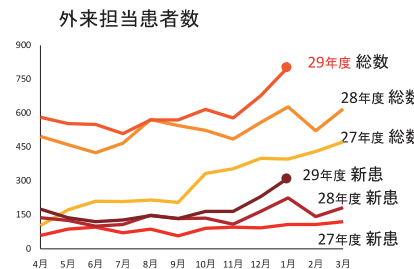
玉名教育拠点開設から3年目となりますが、医学生、初期研修医、専攻医および地域医療・総合診療実践学寄附講座スタッフがチームを形成し、総合診療科外来として外来診療および他診療科からのコンサルト対応を行うとともに、2017年度から水曜日を除き、連日、日勤帯の救急外来も担っています。

右の図が示すごとく、外来での担当患者総数、新患者数共に順調に増加しています。これは周辺地域への総合診療科の存在が確実に進んでいるためだと考えられます。

入院患者数は昨年度活躍した2名の専攻医が各専門診療課科のローテート研修に入り、今年度の総合診療科の専攻医は1名であることなどにより、負担は大きくなりましたが、昨年度のレベルを維持しています。

特筆すべきは、救急外来での受診者数の増加および受け入れ救急車台数の増加です。救急医療の充実は地域に信頼される医療機関になるためには必須です。総合診療科が公立玉名中央病院の救急体制を支えるのは最終ゴールではなく、病院をあげての救急体制構築が目指すべきものだと考えます。

このように玉名中央病院での診療において総合診療科の役割は拡大しています。



5 熊本県医師修学資金貸与制度

1. 地域医療ゼミ

I 概要

地域枠学生等（熊本県医師修学資金貸与学生）に対し、地域医療に関する様々なテーマで毎月1回ゼミを開催しました。

熊本県知医師修学資金貸与学生は48人おり、各学年の人数は右の表のとおりです。

以前から学生によってゼミの内容の難易度や興味のある分野が違うので改善してほしいという声があり、今年度は9月から「インタレストグループ」という新しい参加方式を取りました。「臨床推論①②」「他職種連携」「プロフェッショナリズム」「キャリアと制度」のテーマを設定し、学生個人が興味のあるテーマを選び、事前に取り組む内容を決めて地域医療ゼミの当日にプレゼンするという形式となります。

1年生	5人
2年生	8人
3年生	8人
4年生	10人
5年生	11人
6年生	7人

II 活動報告

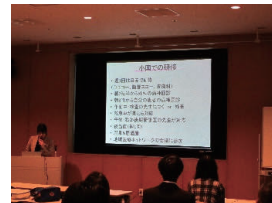
0 2017年3月23日、前年度最後の地域医療ゼミが行われました。

熊本県医師修学資金貸与医師としての先駆けとなる第一期生のお二人を講師に迎え、自身の初期臨床研修に関してやこれからのキャリアに関して等についてお話しいただきました。

その後、アイスブレイクを挟んで、臨床推論、28年度のゼミ活動の総括、29年度の代表のあいさつへと進み、熊本県医師修学資金貸与医師・熊本県医師修学資金貸与学生ともに今後が楽しみとなるような地域医療ゼミとなりました。



藤井 巳加 先生



松田 圭史 先生



1

2017年4月20日、本年度最初の地域医療ゼミが開催されました。

谷口先生から地域医療ゼミの説明や、新入生の自己紹介、熊本県庁医療政策課から、熊本県医師修学資金貸与制度についての説明、質疑応答などがありました。



2

2017年5月17日、本年度2回目の地域医療ゼミは、第10回地域医療・総合診療グランドラウンドへの参加として行われました。

（セミナーについてはP.52をご参照ください。）



3

2017年6月12日、本年度3回目の地域医療ゼミは、平成29年度キャリア支援セミナーへの参加として行われました。

（セミナーについてはP.23をご参照ください。）



4

2017年7月20日、本年度4回目の地域医療ゼミが行われました。

翌月行われる夏季地域医療実習についての説明や、第8回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会（2017年5月13日、14日）に参加した6年生からの報告がありました。

夏季実習については、事務からは日程の説明を、高柳先生からは実習の事前課題についての説明を、また、5年生からは天草の地域についてのスライドを用いての説明がありました。

学術大会の報告については、参加をしてみて感じたことや、他大学の学生の発表を受けて今後の地域医療に必要なものは何か等について発表されました。

さらに、9月から始まるインタレストグループについての説明もありました。



5

2017年8月16日から18日にかけて、天草地域で平成29年度夏季地域医療実習が行われました。詳しくはP.62をご覧ください。

（さらに詳細な内容は、別冊の『平成29年度夏季地域医療特別実習活動報告書』をご覧ください。）

6

2017年9月21日、本年度5回目の地域医療ゼミが開催されました。
今回からインタレストグループでの地域医療ゼミが始まりました。
テーマは「臨床推論①」です。

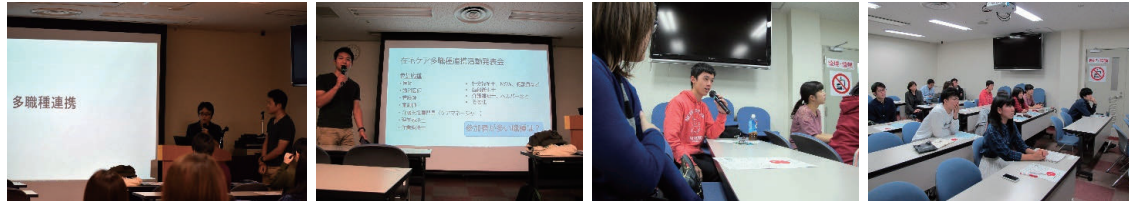
1、2年生の参加者が多いこともあり、臨床推論とは何かの説明から問診のポイント、実際に患者役の学生に全員で問診をしてみるなど、中心となる5年生が低学年へ臨床推論の流れを丁寧に教えていました。



7

2017年10月19日、本年度6回目の地域医療ゼミが開催されました。
今回のインタレストグループのテーマは「多職種連携」です。

まずは、「多職種連携」とは何か、「チーム医療」との違いは何かのプレゼンがありました。その後、現在の多職種連携をより良くしていくために何をすればいいのかディスカッションを行いました。



8

2017年11月14日、本年度7回目の地域医療ゼミは、平成29年度医学生・研修医をサポートするための会セミナーへの参加として行われました。（セミナーについてはP.23をご参照ください。）



9

2017年12月21日、本年度8回目の地域医療ゼミが開催されました。
今回のインタレストグループのテーマは「プロフェッショナリズム」です。

映画「ディア・ドクター」を題材としたシネマデューケーションを行いました。映画を通して、山奥の村の診療所での医師としての生活・医師としての在り方等について考え、グループディスカッションを行いました。



10

2018年1月18日、本年度9回目の地域医療ゼミが開催されました。
今回のインタレストグループのテーマは「臨床推論②」です。

「臨床推論①」に引き続き、参加学生は低学年が多かったため、臨床推論とは何かを丁寧に説明していました。その後「足がむくんで痛い」という女性の例を挙げて、じっくりと臨床推論を行いました。



11

2018年2月15日、本年度10回目の地域医療ゼミが開催されました。
今回のインタレストグループのテーマは「キャリアと制度」です。

はじめに、熊本県庁医療政策課の医師修学資金貸与制度担当者から、制度について改めて説明がありました。質疑応答では、高学年から今後のキャリアに関する質問などがありました。
後半は学生が主体となり、小グループを作って熊本大学での初期臨床研修について調べました。将来の専門医をとるための環境などが分かり、自身のキャリアを考える良い機会となりました。



12

2018年3月23日、本年度最後の地域医療ゼミが開催される予定です。

2.平成29年度夏季地域医療特別実習

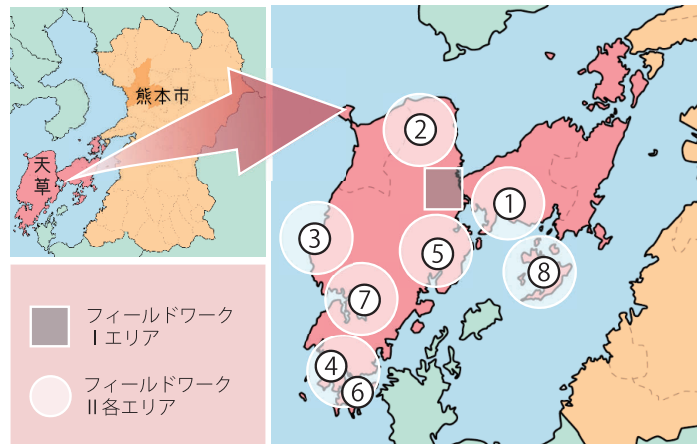
Ⅰ 概要

夏季地域医療特別実習は、地域医療システム学寄附講座が設置された平成21年度から始まり、地域医療・総合診療実践学寄附講座へと引き継がれ、本年度で8回目となる本講座最大の行事となっています。

その目的は、本講座の設置と同時にスタートした熊本県医師修学資金貸与制度の受給学生に対し、毎月実施している地域医療ゼミの延長として、フィールドワークにおいて実体験することで、地域医療の抱える問題を自ら学び深く理解してもらうことや地域医療の魅力を発見してもらうことであり、更には、将来地域医療に従事する際に、仲間として密に接することになるであろう、熊本県出身の自治医科大生と友好を育む機会を提供するという意味も持っています。

例年、夏季地域医療特別実習では、熊本県修学資金貸与学生や自治医科大学生を対象に2泊3日をかけて熊本市外の病院や診療所などの医療機関で見学型実習を行っていました。しかし、平成30年度より熊本大学医学部カリキュラムにおいて、熊本市外の病院で実習を行う地域医療のクリニカルクラークシップ（3週間）が必修となるなど、学外の医療機関で実習をする機会が増えてきており、医学生の夏季実習に求める要望にも変化が生じてきていました。

一方、学外において臨床を学ぶ機会は比較的多くありますが、広く地域を俯瞰してみる視点やその地域を医療保健分野のみならず多方面からみる視点を養う機会は少ないのが現状です。将来県内各地で医療に従事することが定まっている学生にとって、地域診断の方法を学ぶことや勤務するかもしれない天草という地域を知ることは、地域医療に従事することへの抵抗を減らすことなどが期待できます。そういった観点で今回の実習を天草市・天草郡市医師会、熊本県医療政策課の方々と共にデザインしました。



Ⅱ 実習参加者

◆ 熊本県医師修学資金貸与制度利用学生

- 熊本大学生 24名
- 鹿児島大学生 1名

◆ 自治医科大学医学部熊本県出身者 12名

◆ 天草市立本渡看護専門学校生 4名

Ⅲ 実習の大まかな流れ

* 事前課題を配布



主にインターネット上で取得できる情報をもとにステップ形式で地域診断を行う

① グループワーク



各自が個別に調べてきた内容をもとに地域の問題についてディスカッションする

② フィールドワークⅠ・Ⅱ



- 実際の現地でどのような問題と向き合っているか、医師以外の職種からも話を聞く
- 観光名所を訪ね、多角的な視点から天草地域を知る

③ 全体発表



- 事前学習・グループワーク・フィールドワークを通して地域の問題について考察
- それに対する対応策や解決策についてアイデアを発表（発表内容を教員・外部講師・関係者が評価票で評価）

Ⅳ 3日間の日程

8/16(水)

- A M
- 集合
 - 移動
 - キリシタン館見学

- P M
- グループワーク
 - フィールドワークⅠ
 - 外部講師セッション①

8/17(木)

- A M
- フィールドワークⅡ

- P M
- フィールドワークⅡ
 - 講演会
 - 懇親会

8/18(金)

- A M
- グループ発表
 - 外部講師セッション②

- P M
- 移動
 - 解散

フィールドワークⅠ 実習施設等

1	市役所A (健康福祉政策課、高齢者支援課、国民年金課)
2	市役所B (福祉課障がい福祉係、福祉課生活支援係)
3	天草中央保健福祉センター
4	天草地域医療センター
5	天草保健所A (総務企画課)
6	天草消防本部
7	天草保健所B (保健予防課)
8	社会福祉協議会本渡支所

フィールドワークⅡ 実習施設等

1	栖本支所 栖本病院 梅寿荘 倉岳の防風石垣群
2	五和支所 中村こども・内科クリニック デイサービスセンターもみじ 紫明寮 富岡城跡 天草空港
3	天草支所 森科内科医院 春光苑 大江天主堂 ロザリオ館
4	牛深支所 包括支援センターすいせん 牛深市民病院 牛深の町中 明照園
5	親和支所 新和苑 竜洞山みどりの村 新和病院
6	牛深支所 包括支援センターすいせん 牛深市民病院 牛深の町中 悠ほーむ
7	河浦病院 (病院事業部) コレジヨ館 ケーナガーデン 崎津天主堂 崎津集落
8	御所浦支所 御所浦苑 白亜紀資料館 御所浦診療所 御所浦北診療所

2017年8月18日の熊本日日新聞朝刊に実習の様子が掲載されました。▶



3.平成29年度卒業生

＜地域枠＞

＊大山 真英

＊友田 万莉

＊中村 董

＊森脇 健次

＊山下 ちひろ

＜一般枠＞

＊岡田 雄二郎

＊松岡 隼平

■ 大山 真英

まず初めに、6年間多くの方々に多大なるご支援を賜りまして、誠にありがとうございました。
この6年を振り返ると、ほとんどの時間を部活に費やしたように感じます。残りの時間で進級のために勉強に励むことは自分にとってはなかなか厳しいものではありましたが、なんとか卒業まですることができました。このような中でも、金銭面でほとんど苦勞することなく生活することができたのは県の皆様からの医師修学資金のおかげだと、いま改めてそのありがたみを感じています。

また在学中は、地域医療ゼミへの参加の状況がとても悪く、大変申し訳なく思います。働き始める前に、自分なりにではありますが少しでも学ぶ機会を設けようと思います。

4月からは医師として、熊本大学で学んだことを地域の方々に還元できるよう微力ではありますが、医療に励んでいけたらと考えています。

最後になりましたが、指導していただきました地域医療・総合診療実践学寄附講座の先生方、スタッフの皆様深く感謝申し上げます。大変お世話になりました。今後ともどうぞ指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

■ 友田 万莉

熊本大学に入学してからの6年間はあっという間に過ぎた。今から考えれば入学時の面接からがすべての始まりであった。

地域医療では毎年夏に熊本の僻地などに合宿にいき、実際に地元の方々とお話をしたり、病院見学をする機会を与えてもらえる。1年生の夏休みに初めて五木村を訪れて地元のスーパーなどを歩いて人々に医療関係で困っていることはないかと聞いて回った体験は自分にとってとても鮮烈なものだった。迷惑そうな顔をして悪態をつき歩き去ってしまう人もいれば熱心に話をしてくださる人もいていろんな人間がいるのだなあと考えさせられた。地域のひとすべてが医師や学生に好意的であるという自分の中にあった根拠のない神話が良い意味で崩れた出来事であった。

訪れる場所によって様々なひとびとがそれぞれのニーズを抱えて病院を訪れる。そこで医師は主役である地域の方々に手を添える。そういう形で医療が行われていることに気づいたのはきっとこの実習のおかげだと感じている。そしてその裏には多種多様な医療の連携があり、一人の患者さんをみんなで囲むようにしているのだ。

5年生の夏にクリニカルクラークシップで訪れた天草地域医療センターでは実際の地域医療の現場をみるととても良い機会となった。代謝内科を主にまわったが病診連携の大切さや、患者さんの地域独特の風習を自ら知ろうとする姿勢の大切さをご指導頂いた。印象に残っているのはお婆さんとその娘らしい女性がお婆さんの糖尿病治療で病院に来られたときのことだ。身内だと思っていたその二人は話を聞いている内に違うことが分かり、ご近所に住まれているだけだということがわかった。後で聞くと、そうやってご近所同士で助け合う習慣が地域ではまだ一部残っているときいた。とても暖かい気持ちになれた。また、ご臨終の際は死後硬直前にどのように体を組むかも一部の宗教でちがいががあるので聞いておくといきことなどを知った。こういう小さい気遣いが患者さんとの信頼関係、ひいては地域に溶け込むひとつのきっかけになるのだなあと感じた。

これから自分は研修医になり、まずは基本的な臨床手技を身につけるが、手技だけでなく患者さんの心もみることができる医師を目指して頑張りたい。

■ 中村 董

私は熊本出身でありながら、入学するまではあまり地域医療の現状を深く考える機会や触れる機会がありませんでした。この6年間で地域枠の毎月の活動や夏の年に1回の実習を通して、様々な面から熊本県内の現状や医療を学ぶだけでなく、地域の方々とのコミュニケーションを取ることができました。地域医療に対して、不足している部分を強調されることが多く、私自身足りないところばかりに目が行きがちでしたが、実際学ぶことで、発展してきている面や、改善してきている面も目の当たりにすることができ、地域医療に対してだけでなく、熊本県内の医療の取り組みなども含めて多くの事を知ることができました。

また、ゼミを通して、先輩方や先生方の考え方をお聞きすることができ、自分にとって将来の進路を考える上でとても参考になり、自分できちんと考えていかなければいけないなと痛感しました。4月から県内で初期研修医として働かさせていただきます。6年間の地域枠や大学生活で学んだことを活かしつつ、自分のこれからの進路についてしっかりと考えていきたいと思います。

最後になりましたが、6年間支えてくださった多くの方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

■ 森脇健次

まずは6年間、様々な方々にご支援いただき、ありがとうございました。振り返ってみると6年間はあっという間で、毎日、部活に勉強にバイトにと打ち込んでいたらいつの間にか卒業の年になっていました。このように金銭面に気にせず様々なことにチャレンジさせてくれ、たくさん楽しい思い出を残すことができたのも、医師修学資金があったからだと思っています。そのため、この制度にはとても感謝しています。

入学の頃からを思い返してみると、私は地域枠で入学しましたが、ただ漠然と熊本で働けばいいかなとしか考えておらず、地域医療とは何かもわからないまま地域医療ゼミの活動に参加していました。しかし、6年間も活動が続けていくと、地域の方の意見を聞く機会があったり、地域医療を担われている医師の先生方からその想いを聞かせて頂いたり、また、熊大や自治医大の仲間と楽しく過ごしたりと、たくさんを経験させて頂き、徐々にではありましたが、地域医療とはどんなものなのかわかってきたような気がします。プライマリケア学会に参加させて頂いた際には、熊本にこんなに地域医療を担われている方がたくさんいるのだと知り、驚きもしましたが、これから自分も一緒に働いていくのだと思うと心強さも感じました。

4月からは国家試験にさえ合格していれば、いよいよ医師として働き始めます。期待や不安のどちらも感じますが、とりあえずは、がむしゃらに自分のできることをやっていこうと思っています。患者さんから信頼され、なおかつ知識や技術も兼ね備えている医師になるには並々ならぬ努力が必要だとは思いますが、その理想に向かって一歩も退かず挑戦していきたいです。そして、一人前になった時に、自分を育ててくれた熊本に恩返しができるよう、また、その姿を尊敬する先生へ報告できるよう、頑張って参ります。

最後になりましたが、今日まで指導して下さった松井先生をはじめ地域医療・総合診療実践学寄附講座の方々、実習や進路等でお世話になった多くの方々に感謝申し上げます。

■ 山下ちひろ

6年前、センター試験本番だけなぜか高得点を取って合格し、これからやっていけるのだろうかという不安いっぱい、恐る恐る入学しました。留年しないためにも勉強一筋でいかなければと思っていたのですが、先輩方の雰囲気やフットサルの楽しさに魅かれフットサル部に入部。3年生ではキャプテンまで務めさせて頂きました。その後も、ポリ前試験で忙しい4年生で自動車学校に通い、ポリクリが始まった5年生で初めてのアルバイト、6年生こそは勉強一筋と思いつつ部活の夏の大会に出場し、振り返ると、いつの間にか、あの頃の自分には想像もできない程、目一杯大学生活を楽しんでいました。そしてこの春、無事に卒業することができます。仕送りもない中、ここまで自分のやりたいことに集中し、安心して生活できたのも、熊本県の医師修学資金制度のおかげです。

また、1年生の頃から毎年、夏季地域医療特別実習として、地域の住民の方々や地域医療に触れ、熊本の医療について学ぶ機会がたくさんありました。学年が上がるにつれ、外の病院で実習する機会こそ増えていきましたが、夏季実習で行ったフィールドワークや意見交換会で住民の皆様や多職種の方々とお話してきたことは、普段の実習ではできない経験でした。中でも、1年生の時に私の地元人吉市で行ったフィールドワークが忘れられません。そこで出会った方に、「田舎では大学病院みたいな技術は求めているから。患者のことをしっかりと理解して、抱えている不安を取り除いてくれるような、そういうお医者さんになってください。」と手を握りしめられた時、地域の方々の期待の大きさに身が引き締まる思いでした。▶

私がこの制度に所属していなければ、このような貴重な経験を積むことはできなかったと思います。くり返しになりますが、これほど恵まれた学生生活を送ってくることができたのは皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

春からは、いよいよ医師として働くことになります。慣れないことばかりで目が回るような日々になると思いますが、この6年間で学ばせていただいたことを糧にして、住民の皆さんが安心して暮らせるよう、信頼されるお医者さんを目指して頑張っていきます。

■ 松岡隼平

私は医学生としてのこの6年間で地域枠として過ごしたわけですが、入学時は一般入試で入ってきた組でした。その時に、まだ始まって間もないこの地域枠の制度について耳にし、漠然と将来は地元で貢献できる医師になりたいと考えていたし、奨学金を貰い熊本の地域医療に貢献するというのも私にとってはデメリットは感じなかったので、面接を受けてみようと思いました。そして入学後の地域枠医学生として私の大学生活は始まりました。

地域枠としての活動についてですが、正直まだ制度が始まってそれほど経っていないので活動内容が確立されておらず、むしろ自分たちで活動内容を考えると言うことをやっていたという印象が強いです。上級学年の指導のもと臨床推論や、Dr.Gや医療をコンセプトとした映画の鑑賞、あとはBLSや国試の問題を解いてみる、中にはプライマリケア学会に行くために香川まで行ったこともありました。中でも1年を通して1番の活動はやはり夏季の実習です。これは実際に地域で行われている医療を目の当たりにしてその実態、長所、短所、改善点などを考えることで、その地域を理解することにおいて、とてもためになりました。自治医科大学の方々との交流もあり、これは将来共に地域医療を担う身となる上で必要不可欠な協力、連携、チームワークを作っていく礎にもなっているとも感じました。

これから地域枠からの卒業生がどんどん増えてきて、今からが地域医療活性化の時だと思います。ぜひ熊本の医療を活性化させ、成功例のモデルケースとなれるよう医師として精進していく所存です。6年間本当に色々ありがとうございました。

■ 岡田雄二郎

卒業にあたって6年間で振り返ってみると、この6年間とても長かったなと思います。もともと老け顔ではありましたが、さらに年をとってしまいました。長かったわりには、すごく勉強したかとは言えず、もっと勉強しておけばよかったなと思います。特に低学年の頃の基礎医学は試験対策に終始してほとんど勉強した記憶がありません。臨床実習に出てみると、そういった基礎医学の重要性を身にしみて感じ、薬理学や統計学をまたちゃんと勉強してみようかなんて思います。4,5年前はそんなこと考えたこともなかったですが、卒業を前に医療者としての自覚が出てきたんでしょうか。ちゃんと勉強すればなんてことないですが、そういったことに気づけただけでもよかったのかなと思います。

地域医療ゼミにも低学年の頃はあまり参加してませんでした。低学年のころはあまり興味もないですし、ある意味仕方ないことかなと思います。ただ、どこかのタイミングで自分の将来を考えると、こういう働き方をするのかとかを考えるようになり、参加するようになりました。まあ、そんな難しいこと考えずに気軽に参加すればいいんだと思いますが、興味がないと退屈になっちゃう気持ちもわかります、難しいですね。5年生になって、ゼミの世話係をしましたが、準備をするのは毎回試行錯誤しました。6年生になってからはあまり顔を合せなくなりましたが、後輩がうまくやってくれてるみたいで、頼もしい限りです。

地震もありました。夏季実習で被災地を訪れましたが、人の心に寄り添うなんてことは難しいもので、そんな大層な人間には当分なれそうもありませんが、傾聴する姿勢は今後も持っていたいと思います。6年間楽しい時間を過ごすことができました、ありがとうございました。今後は熊本県の医療に少しでも貢献できるように精進したいと思います。今後ともよろしくおねがいします。

6 業績

1.地域医療支援機構

◆ 論文、執筆

□ 松下正輝, 古川昇, 谷口純一, 加藤貴彦, 西谷陽子, 尾池 雄一, 安東由喜雄, 【医学教育における性的マイノリティに関する講義の実践】, 「医学教育」第48巻・第4号 265

□ 谷口純一, ハリソン内科学 日本語版第5版 11章「疼痛」 翻訳

□ 谷口純一, ハリソン内科学 日本語版第5版 13章「腹痛」 翻訳

□ 後藤理英子, 月刊保団連 2018年2月号 No.1255 子育て中の医師を支援する熊本県の取り組み

◆ 研究

□ 後藤理英子

『鉍質コルチコイド受容体を介した膵島細胞の慢性炎症とGLP-1分泌調節機序の解明』

研究種目：基盤研究C

研究分野：代謝学

期間：平成29年度～平成30年度

◆ 学会発表

□ 谷口純一, 【継続性のある総合診療/地域医療に関する臨床研究の教育の構築（第2報）】, 第8回日本プライマリケア連合学会学術大会, 2017/5/13-2017/5/14, ポスター発表

□ 後藤理英子, 前田幸佑, 高柳宏史, 小山耕太, 田宮貞宏, 谷口純一, 松井邦彦, 【日本とドイツにおける医師の勤務環境～男女共同参画の視点から～】, 第8回日本プライマリケア連合学会学術大会, 2017/5/13-2017/5/14, 口演

□ 谷口純一, 【アンプロフェッショナルな医学生に対しての対応はどうあるべきか？教育的活動の試みとその考察】, 第49回日本医学教育学会大会, 2017/8/18-8/19, ポスター発表

□ 後藤理英子, 田中顕道, 中村孝典, 香田将英, 楯直晃, 前田幸佑, 高柳宏史, 小山耕太, 田宮貞宏, 古賀義規, 佐土原道人, 谷口純一, 松井邦彦【熊本県の医療機関における育児支援の重要性と課題】, 第49回日本医学教育学会大会, 2017/8/18-8/19, 口演

◆ 講演会（講師）

□ 谷口純一, 福岡徳洲会病院JMECC指導者講習会 ディレクター, 2017/7/30

□ 谷口純一, 熊本大学医学部附属病院群 臨床研修指導医養成講習会 タスクフォース, 2017/8/25-8/26

□ 後藤理英子, 第139回臨床研修指導医講習会, 2017/8/31-9/3

□ 後藤理英子, 在宅医療推進のためのお留守番医師制度説明会, 2017/9/11

□ 谷口純一, 看護師の特定行為研修に係る指導者育成事業ワークショップ タスクフォース, 2017/9/17

□ 谷口純一, J-MELSインストラクタコース インストラクター, 2017/9/17

□ 谷口純一, 山口県医師会 臨床研修指導医養成講習会 タスクフォース, 2017/10/7-10/8

□ 谷口純一, 熊本県医師会 生涯教育講座 講師, 2017/10/14

- 谷口純一，日本内科学会JMECC指導者講習会 ディレクター，2017/10/21
- 谷口純一，看護師の特定行為研修に係る指導者育成事業ワークショップ タスクフォース，2017/10/22
- 谷口純一，山口大学医学部附属病院 臨床研修指導医養成講習会 タスクフォース，2017/11/3-11/4
- 谷口純一，熊本大学医学部附属病院臨床研修病院群ICLS講習会 ディレクター，2017/11/23
- 谷口純一，熊本大学医学部 医学教育FDワークショップ タスクフォース，2017/11/25
- 谷口純一，福岡大学医学部附属病院 臨床研修指導医養成講習会 タスクフォース，2017/12/1-12/2
- 谷口純一，九州大学病院 臨床研修指導医養成講習会 タスクフォース，2017/12/8-12/9
- 谷口純一，熊本県医師会 母体保護法指定医講習会 講師，2017/12/10
- 谷口純一，全国自治体病院協議会臨床研修指導医養成講習会 タスクフォース（チーフ），2017/12/14-12/17
- 後藤理英子，日本医師会女性医師支援センター事業九州ブロック別会議，2017/12/16
- 谷口純一，クリニカルクラークシップ 地域医療実習 FD講習会 講師，2018/1/13
- 谷口純一，熊本県医師会うつ病研修会 講師 ，2018/1/13
- 谷口純一，九州大学「臨床推論演習」授業 講師（九州大学医学部非常勤講師），2018/1/16
- 谷口純一，熊本大学医学部附属病院 看護部急変対応トレーニング 講師，2018/1/20
- 谷口純一，産業医科大学病院 臨床研修指導医養成講習会 タスクフォース，2018/2/2-2/3
- 谷口純一，日本プライマリ・ケア連合学会九州支部総会・講演会 指導医講習会 講師，2018/2/2
- 谷口純一，平成28年度熊本県消防学校消防職員救急科課程 講師，2018/2/21
- 後藤理英子，地域における女性医師支援懇談会 クローバーの会，2018/2/28
- 谷口純一，J-MELSおよび同インストラクタコース インストラクター，2018/3/21

2.地域医療・総合診療実践学寄附講座

◆ 論文、執筆

- Hasegawa Y, Nakagawa T, Matsui K, Kim-Mitsuyama S. Renal Denervation in the Acute Phase of Ischemic Stroke Provides Brain Protection in Hypertensive Rats. Stroke. 2017 Apr;48(4):1104-1107. PMID: 28246278
- Akasaka T, Sueta D, Tabata N, Takashio S, Yamamoto E, Izumiya Y, Tsujita K, Kojima S, Kaikita K, Matsui K, Hokimoto S. Effects of the Mean Amplitude of Glycemic Excursions and Vascular Endothelial Dysfunction on Cardiovascular Events in Nondiabetic Patients With Coronary Artery Disease. J Am Heart Assoc. 2017 Apr 26;6(5).PMID: 28446494 PMCID: PMC5524064
- Tabata N, Yamamoto E, Hokimoto S, Yamashita T, Sueta D, Takashio S, Arima Y, Izumiya Y, Kojima S, Kaikita K, Matsui K, Fujimoto K, Sakamoto K, Shimomura H, Tsunoda R, Hirose T, Nakamura N, Sakaino N, Nakamura S, Yamamoto N, Matsumura T, Kajiware I, Koide S, Sakamoto T, Nakao K, Oshima S, Tsujita K; Kumamoto Intervention Conference Study (KICS) Investigators. Prognostic Value of the CHADS2 Score for Adverse Cardiovascular Events in Coronary Artery Disease Patients Without Atrial Fibrillation-A Multi-Center Observational Cohort Study. J Am Heart Assoc. 2017 Aug 16;6(8).PMID: 28862941 PMCID: PMC5586464

- Kusano K, Akao M, Tsuji H, Matsui K, Hiramitsu S, Hatori Y, Odakura H.Study design of GENERAL (general practitioners and embolism prevention in NVAf patients treated with rivaroxaban: Real-life evidence): A multicenter prospective cohort study in primary care physicians to investigate the effectiveness and safety of rivaroxaban in Japanese patients with NVAf. J Arrhythm. 2017 Aug;33(4):297-301.PMID: 28765760 PMCID: PMC5529321
- Hagiwara N, Kawada-Watanabe E, Koyanagi R, Arashi H, Yamaguchi J, Nakao K, Tobaru T, Tanaka H, Oka T, Endoh Y, Saito K, Uchida T, Matsui K, Ogawa H. Low-density lipoprotein cholesterol targeting with pitavastatin + ezetimibe for patients with acute coronary syndrome and dyslipidaemia: the HIJ-PROPER study, a prospective, open-label, randomized trial. Eur Heart J. 2017 Aug 1;38(29):2264-2276. PMID: 28430910 PMCID: PMC5837267
- Kojima S, Michikawa T, Ueda K, Sakamoto T, Matsui K, Kojima T, Tsujita K, Ogawa H, Nitta H, Takami A. Asian dust exposure triggers acute myocardial infarction. Eur Heart J. 2017 Nov 14;38(43):3202-3208.PMID: 29020374
- Michito Sadohara, Reona Wada, Kyoko Nanao, Keisuke Hatamoto, Taku Maejima, Kazuo Nagashima. A case of Sweet's syndrome with parotitis complicated with ileal bleeding. 日本病院総合診療医学会誌 2018;14(2) 掲載予定
- Koda M, Iwasaki M, Yamano Y, Lu X, Katoh T. Association between NAT2, CYP1A1, and CYP1A2 genotypes, heterocyclic aromatic amines, and prostate cancer risk: a case control study in Japan. Environ Health Prev Med., 22:72, (2017)PMID: 29165164 PMCID: PMC5664586
- 高柳宏史 災害時要援護者（災害弱者）：災害の急性期で実践した心理社会的アプローチの経験. 治療. Vol 99, no 1, 2017, page 906-909.
- 草場鉄周, 金井伸行編集. 総合診療専門医のためのワークブック. 中山書店, 2017 分担執筆 高柳宏史, コミュニケーション, page386-390
- 香田将英: 予防医療のエビデンス6.子どもに対する虐待. 一般社団法人 日本プライマリ・ケア連合学会「プライマリ・ケア」.3:42-45, (2017)
- 香田将英: 予防医療のエビデンス5. うつ病スクリーニング. 一般社団法人 日本プライマリ・ケア連合学会「プライマリ・ケア」.2:46-49, (2017)

◆ 研究

□ 松井邦彦

『熊本地震における医療支援活動の振り返りと、今後への提言』
研究種目：挑戦的研究（萌芽）
研究分野：社会医学、看護学およびその関連分野
期間：平成29年度～平成30年度

□ 小山耕太

『地域での地域医療実践教育拠点による総合診療及び総合診療医教育体制の有用性の検討』
研究種目：若手研究B
研究分野：医療社会学
期間：平成29年度～平成30年度

◆ 学会発表

- 高柳宏史, 香田将英, 前田幸佑, 小山耕太, 佐土原道人, 田宮貞宏, 古賀義規, 後藤理英子, 谷口純一, 松井邦彦, 【国際プライマリ・ケア分類（ICPC）を用いた公立玉名中央病院総合診療科の初診患者診療分析報告】，第7回九州地域医療教育研究会，2017/4/8
- 山下ちひろ, 高柳宏史, 香田将英, 前田幸佑, 佐土原道人, 小山耕太, 田宮貞弘, 古賀義規, 後藤理英子, 谷口純一, 松井邦彦, 【熊本地震被災地である南阿蘇村の医療機関を視察して】，第7回九州地域医療教育研究会，2017/4/8

- **小山耕太**，【地域における総合診療科及び地域医療実践教育拠点を中心とした総合診療医教育体制の有用性の検討】，第8回 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会，2017/5/13-5/14
- **前田幸佑**，**香田将英**，**高柳宏史**，**小山耕太**，**後藤理英子**，**谷口純一**，**松井邦彦**，【最終的に悪性疾患の診断となったNumb chin syndrome（NCS）の2例】，第8回 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会，2017/5/13-5/14，口演
- **田中顕道**，【総合診療科・専攻医による初期研修医の教育における工夫と実践～初期研修医は突然やってくる～】，第8回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会，2017/5/13-5/14，ポスター
- **高柳宏史**，**前田幸佑**，**小山耕太**，**佐土原道人**，**後藤理英子**，**谷口純一**，**松井邦彦**，【熊本地震の被災地を舞台に熊本県修学資金貸与学生を対象に行った夏季地域医療実習の報告】，第49回日本医学教育学会大会，2017/8/18，ポスター
- **佐土原道人**，田村 幸大，今西 康次，Kanan Ramar，【アメリカの呼吸器，集中治療専門医による2年次研修医に対する人工呼吸器セミナーの試み】，第49回日本医学教育学会大会，2017/8/18-8/19，ポスター
- **香田将英**，盧溪，加藤貴彦，【ヘテロサイクリックアミン暴露と前立腺がん罹患リスクに関する分子疫学研究】，第76回日本公衆衛生学会総会，2017/10/31-11/2，ポスター
- **香田将英**，**谷口純一**，**松井邦彦**，【卒前教育における「災害時の精神・心理ストレス」の導入：熊本地震の経験をふまえて】，第23回日本集団災害医学会総会・学術集会，2018/2/1-2/3，ポスター
- **佐土原道人**，**田宮卓宏**，**前田幸佑**，**小山耕太**，**高柳宏史**，**後藤理恵子**，**谷口純一**，**松井邦彦**，【医師修学資金貸与生，いわゆる地域枠入学および自治医科大学卒業生に優しい総合診療専門研修プログラム】，第16回日本病院総合診療医学会学術総会，2018/3/2，シンポジスト
- **佐土原道人**，下地 徹，**田宮卓宏**，【口腔衛生の改善で軽快したSAPHO症候群の一例】，第16回日本病院総合診療医学会学術総会，2018/3/2，口演

◆ 講演会（講師）

- **香田将英**，【熊大で，魅力的・効率的・効果的に学生生活をおくるために】，熊本大学医学部医学科新入生オリエンテーション合宿，講師，2017/4/8
- **植直晃**，安成英文【プライマリケア医に必要な緩和ケア】，玉名在宅ネットワークカンファレンス，2017/4/27
- 森英毅，向原圭，北村和也，斎藤さやか，**香田将英**，日下伸明，宮崎景，【WS2. 根拠に基づいた予防医療：個々の患者に対するアプローチ、地域に対するアプローチ(ワークショップ)】，第8回 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会，講師，2017/5/13-5/14
- **高柳宏史**，【メインシンポジウム1 南海トラフ地震に、プライマリ・ケアができること シンポジスト 「災害における家庭医療・総合診療の役割 ～東日本大震災と熊本地震での経験をもとに～」】，第8回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会，2017/5/13-5/14
- **高柳宏史**，【ワークショップ25 研究ポートフォリオに使える！ICPC-2実践編】，第8回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会，企画責任者・講師，2017/5/13-5/14
- **田宮卓宏**，【特別講演「総合診療を通した玉名での試み」】，第49回熊本県医学検査学会，2017/5/21
- **高柳宏史**，加藤光樹，【家庭医療後期研修なぜ？なに？に一気に答えます 第1部 専攻医・指導医に役立つ情報】，平成29年家庭医療後期研修 合同オリエンテーション，2017/6/3
- **高柳宏史**，【災害後の地域連携】，上益城郡医師会講演会，2017/6/14
- **植直晃**，安成英文，【子どもの罹りやすい病気について】，第17回玉東町子育て支援講座，2017/6/19

- **高柳宏史**，【熊本地震における継続的な関わりについて振り返る～益城町への支援活動～】，平成28年熊本地震J RAT活動検証・研修会，2017/8/5
- **佐土原道人**，第22回徳洲会グループ臨床研修指導者養成講習会 タスクフォース，2017/9/2-9/3
- **佐土原道人**，第140回臨床研修指導医講習会 タスクフォース，2017/9/29-10/1
- **佐土原道人**，【総合医が見る関節痛ーよくある愁訴のまれな疾患を見逃さない】，熊本県医師会 平成29年度日本医師会生涯教育講座，2017/10/14
- **前田幸佑**，**小山耕太**，**佐土原道人**，**谷口純一**，**松井邦彦**，【総合医が見る発熱 よくある愁訴のまれな疾患を見逃さない】，熊本県医師会 平成29年度 日本医師会生涯教育講座，2017/10/14，口演
- **松井邦彦**，【がん診療ガイドラインの評価方法】，第55回日本癌治療学会学術集会 がん診療ガイドライン統括・連絡委員会企画シンポジウム，2017/10/22
- 河鳶譲，原田奈穂子，松尾寿栄，上山寛満，**香田将英**，こどものための心理的応急処置(PFA)研修会，講師，2017/10/29
- **香田将英**，【災害支援における多職種連携】，災害福祉支援活動基礎研修2017(石川会場)，講師，2017/11/3-11/4
- **松井邦彦**，【熊本大学医学部医学科の臨床教育、特に地域医療教育における取り組み】，第8回熊本県医療人育成総合会議「地域包括ケアシステムと医療人育成」，2017/11/18
- **佐土原道人**，【医学・医療概論2「医の倫理とプロフェッショナリズム：（1）医療専門家と社会の期待のギャップ、（2）生命医療倫理」】，札幌医科大学，2017/11/24
- 井清司 笠岡俊志 西岡和男 松園幸雅 **田宮卓宏**，【パネルディスカッション「救急隊員の教育」】，第60回熊本県救急教育セミナー，2017/11/30
- 原田奈穂子，千島佳也子，松尾寿栄，**香田将英**，スフィアスタンダード研修会，講師，2017/11/25-11/26
- **佐土原道人**，【医学・医療概論2「医の倫理とプロフェッショナリズム：（3）医療と社会のギャップ、（4）省察的実践」】，札幌医科大学，2017/12/1
- **植直晃**，安成英文，**田宮卓宏**，【末期がん患者の在宅緩和ケアを玉名在宅ネットワークを通じて行った1症例】，第25回有明緩和ケア研究会，2017/12/21
- **佐土原道人**，第143回臨床研修指導医講習会 チーフ・タスクフォース，全国自治体病院協議会主催，2018/1/12-1/14
- 原田奈穂子，千島佳也子，宮本純子，甲斐総一朗，谷寛文，伊藤衆子，**香田将英**，フィアスタンダード研修会，講師，2018/1/18-1/19
- **香田将英**，【これからの医学と医療を考える】，熊本高等学校分野別講演会，講師，2018/1/30
- 村山愛，高瀬義祥，高瀬愛，五嶋嶺，**香田将英**，河合皓太，杉谷真季，三浦太郎，関口裕美，【プレセミナー4 ジェネたま冬の陣 ～初期研修、あと1年どう過ごす！？～】，日本プライマリ・ケア連合学会 第13回 若手医師のための家庭医療学冬期セミナー，講師，2018/2/10-2/11
- **香田将英**，森英毅，向原圭，【ワークショップ2，根拠に基づいた予防医療：個々の患者に対するアプローチ、地域に対するアプローチ】，日本プライマリ・ケア連合学会 第13回九州支部総会・講習会，講師，2018/2/3-2/4
- **小山耕太**，【「総合診療医の育成」～熊本大学の取り組み～】，日本プライマリケア連合学会九州支部総会，2018/2/3-2/4
- **佐土原道人**，第23回徳洲会グループ臨床研修指導者養成講習会 タスクフォース，2018/2/17-2/18
- **高柳宏史**，ポートフォリオ・ログの活用・指導法，熊本総合診療研究会学術大会，2018/2/24

1. スタッフから一言

■ 谷口 純一 特任准教授

今年度は、昨年度に引き続き、個人的には、大学に設置された地域医療支援センターの教員として、同センター業務と、それ以外の従来取り組んできた内外の業務とを、バランスを取りながら、整合性をつけつつ、業務遂行を行なったつもりです。地域医療支援センターの定例ミーティングを今年度から開始し、機構業務の確実な遂行及び新しく実施する業務のアイディアに関して意見交換を地道に行い、それなりの成果があったと感じています。また、地域医療・総合診療実践学寄附講座とも連携を取りながら、新しい総合診療専門医制度の熊本での導入と発展の足がかりを進めたつもりでもあります。

具体的には、地域医療支援機構としては、自分の活動として、特に、

- 1) 県内地域医療機関関係者との面談と分析・対応検討
- 2) 地域医療構想に関して、県内全病院調査の準備と実施
- 3) 地域医療関連の卒前教育の充実化
- 4) 修学資金貸与制度の制度運営の実施と整備
- 5) 地域医療機関の診療支援
- 6) その他、機構関連諸業務（運営会議、連絡調整会議、理事会、等）

また、機構業務以外の従来業務の方は、

- 1) 大学病院総合診療科外来診療
- 2) 医学部医学科の卒前教育での複数の授業・実習
- 3) 大学卒前医学教育の横断的な業務補佐
- 4) 卒後初期研修・専門医研修（総合診療）の指導・プログラム管理補佐
- 5) 学外の様々な依頼業務（共用試験実施評価機構委員、臨床研修指導医養成ワークショップ等）
- 6) 学会や行政の各種委員会等（特に、熊本総合診療研究会の運営）

に取り組んだつもりです。

上記業務は、前年度から更に成果を上げたと思われるものもあれば、これから更に充実・整理させていく必要性のある部分もあります。次年度に向け、自部署関連の協力・強化と、外部のご理解・ご支援を更に活かせる様に取り組んでいく所存です。

■ 田宮 貞宏 特任准教授

2017年度ももっぱら玉名教育拠点での業務に携わりました。

公立玉名病院の診療業務の支援としては、総合診療科スタッフが前年度よりさらに救急外来での任務を拡大し、院外からの応援医師の力をお借りする時間もありますが、日勤帯の内科系業務をすべてカバーする事となりました。これにより院内の各臓器専門診療科も専門診療に集中できる環境が整いつつあり、診療業績の向上した診療科もみられています。拠点設置時の期待が具現化されつつあるものと思われます。

教育面では、受け入れクリニカルクラークシップの医学生、初期臨床研修医、専攻医の数が2017年度はさらに増えており、指導医のおよび事務系スタッフの業務の負担も当然増えています。一方で数量化するのは困難なのですが、初期臨床研修医、専攻医を通した診療科間、職種間の連携の質は明らかに改善している実感があります。拠点の設置がスタッフの負担増という負の側面だけではなく、病院診療の活性化、質の向上といった計り知れない価値をもたらし得ることを今後、発信していければと考えています。

玉名を研修の場を選んでくれる医学生、若手医師の皆さんには問題に迅速に答えを出す価値だけではなく、答えの出ない事態にも耐える力（ネガティブ・ケイパビリティという言葉もあるようですが…）も養ってもらいたいと思っています。彼らが良いパフォーマンスができるように次年度もピッチコンディションの向上に努めていきたいと思っています。

■ 佐土原 道人 特任助教

昨年度から地域医療・総合診療実践学寄附講座にお世話になっております。診療では、週2回の総合診療科の外来、外勤では、公立玉名中央病院の救急部門、天草地域では、前半は牛深市民病院、後半は天草地域医療センターにお世話になりました。卒前の教育では、総合診療学、公衆衛生学、医学英語の授業、OSCE、早期体験実習などに携わりました。卒後臨床研修では、長期にローテーションを選択した研修医の先生を総合診療外来で指導をする機会がありました。民間の医療機関とは、診療、教育、マネジメントも大きく違うというのをあらためて実感しています。

これまでと、生活も一変しましたが、これまでよりゆっくり働けて、ワーカホリックは、軽快傾向にあるようです。20年ぶりの熊本ですが、地理的なことも徐々に思い出し、忘れていた熊本弁も取り戻しつつあります。熊本も、新しい建物が建ち始め、ようやく震災の影響から抜け出す兆しがでてきております。地域医療の支援を通じて、地域の再生の一助になればと思います。今後ともよろしくお願い致します。

■ 後藤 理英子 特任助教

2017年度はこれまでの男女共同参画事業が少しずつ認知されてきたことを実感できた年でした。また、新事業としては、マタニティ白衣の貸出・メンター制度を開始いたしました。

マタニティ白衣は利用された医師の評判もよく、来年度にはマタニティパンツの貸出を考えています。メンター制度はボランティア活動であるにも関わらず、多くの先生方にご協力いただき、誠に感謝申し上げます。メンター連絡会議や各種セミナーなどを通して同じ志をもつ先生方とネットワークを作ることができ大変心強く感じています。

また、今年度は4月から1月までに延べ84件の様々なご相談をいただきました。復職・就業継続のため利用できる制度や育児・介護支援についてのお問い合わせが多く、また管理者の方からは求人情報の掲載依頼を多数いただきました。女性医師の活躍できる場を提供してくださる医療機関が増えてきており、大変有難く感じております。

お留守番医師制度の登録医療機関も増え、現在3人の医師が活躍中です。日本医師会の女性医師支援事業 連絡協議会でこの取り組みが紹介され他県からのお問い合わせも増えました。これから迎える超高齢化社会に向け、在宅医療を担う医療機関が増えることを心から願っています。

また公的病院、100床以上を有する病院に勤務されている全医師にご協力いただいた「学童保育のニーズ調査」では半数以上の医師が学童保育の利用を希望し、特に女性医師のニーズは7割を超え、夏休みなどの長期休暇の際の子どもたちの過ごし方に不安を抱えていました。これまでのアンケート結果からも子どもが小学生になると公的病院を離職される女性医師が多いことが予想され、学童保育の充実が望まれます。

今後の男女共同参画の課題は、男性医師も含めた働き方改革、後輩を指導できる女性医師の育成、再教育プログラム、育児・介護支援のさらなる充実・・・と山積みです。これまでご協力いただいたすべての方々に心より感謝申し上げますとともに、今後ともどうぞご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

■ 小山 耕太 特任助教

2015年4月に公立玉名中央病院に新設された「地域医療実践教育玉名拠点」(当拠点)に特任助教として着任し、早くも3年が経過しました。当拠点は、地域医療を志す医師、臨床研修医及び医学生に対し、総合診療医が地域医療を実践しつつ教育することで地域に貢献できる医師を養成し、更に地域の医師不足解消を目的としています。その一環で総合診療科を当拠点主導で新設し、外来・入院・在宅診療に取り組んでいます。指導医は常時3名が在籍し、専攻医・研修医と共に診療を実践しつつ、教育を行ってきました。卒前から卒後、総合診療専門医研修プログラム所属の専攻医まで、一貫した教育指導体制を整備することで、一定の効果を様々な方面から感じつつあるこの頃です。▶

今回、この3年間の取り組みと、そこから得られた成果について、「平成29年度科学研究費助成事業」に採択され、平成30年度には調査し、発表する予定です。

熊本での地域医療戦略を、熊本県外にも広く公開し、多くの方々のお役に立てるよう、更に発展的に取り組む所存ですので、引き続きご指導・ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

■ 高柳 宏史 特任助教

平成29年度は、教育、臨床面で新しい取り組みを行いました。家庭医療学について初めて熊本大学での講義を行いました。これからも家庭医療を卒前教育の中でふれていきたいと思います。しかし、熊本県内では家庭医療を実践している場がまだまだ充実しているとはいえない現状にあります。今後の展望としては、家庭医療学の実践する場を作り、それらを教育することができる場を作ることができたらと思います。そういえば、英国のDr. Rose Nearyを熊本にお招きして、彼女との対話を通してそれらの方向性を再認識し承認してもらえたことはうれしかったです。Think global. Act local.

熊本において、どのようなモデルを提示できるようになるか、これからが楽しみです。できなかった場合は、誰かがやってくれるでしょう。一人では無理です。今は仲間作りでしょうか。

それと、プライベートでは、昨年夏に新しい家族が増えました。状況が変わると、それによって家族の在り方も変わる。当然なことですが、それを実体験として経験することで、自分自身の医師としての患者さんたちへの声掛けにも変化がありました。年を重ねるたびに、患者さんとのコミュニケーションが変わるのですが、それが成長なのか、進化なのか、ただの変化なのか。これからも精進していきたいと思っています。

■ 前田 幸佑 特任助教

2016年4月に特任助教として当講座に着任し、早2年が過ぎ去ろうとしております。附属病院内での業務としては主に総合診療科の外来や学生の授業・実習等に携わり、また、地域医療支援としては上天草市立上天草総合病院、公立玉名中央病院で勤務を行って参りました。特に、2017年10月以降は公立玉名中央病院で主に勤務しており、楽しく毎日を過ごしております。さらに、社会人大学院生として基礎研究にも取り組んでおります。

この1年間を振り返ってみて思うことは、やはり私自身、臨床が大好きだということです。2017年10月から公立玉名中央病院で勤務しておりますが、毎日が本当に刺激的で充実し過ぎていると言っても過言ではないぐらい楽しいです。その大好きな臨床のレベルをさらにupさせるには、ひたすら診療経験を積むことはもちろんのこと、それ以外に、大学で実践しているアカデミックな医療、学生・研修医への指導、研究など様々な分野の経験が必要不可欠ではないかと考えております。昨年同様、慌ただしく過ぎ去ってしまった1年ではありましたが、来年度も引き続き努力して参りたいと思います。普段の臨床業務に加え、学生・研修医への指導、大学での業務、基礎研究とdutyが多く、どれも十分な時間を割くことはやや困難ではありますが、弱音を吐くことなく、また、自分に負けないよう、何とか工夫して、努力して、よりアクティブに、攻めの姿勢で取り組んでいきたいと思っております。来年度もより実りの多い1年になりますよう精進して参りますので、今後とも引き続き宜しくお願い申し上げます。

■ 香田 将英 医員（大学院生）

まず、平成26年より熊本大学大学院公衆衛生学分野の博士課程に進学しておりましたが、無事学位取得することができました。これまでご指導・ご支援いただきました皆様はこの場をお借りしてお礼申し上げます。

平成27年の熊本地震の際には、日本プライマリ・ケア連合学会災害支援プロジェクトと協働させていただいたのですが、その後から今年度も引き続き現在に至るまで益城町における地域と行政職員へのメンタルヘルス支援に関わっております。この経験をきっかけに、今年度に至るまでに、産業医、こどものための心理的応急救置（PFA）トレーナー、支援の質とアカウンタビリティ（Q&A）トレーナーの資格を取得し、実際、今年度は、PFAは宮崎開催、Q&Aは宮崎と徳島開催の際にトレーナーとして参加させていただきました。▶

また、熊本大学医学科4年生のチュートリアル実習の中でも、PFAとQ&Aの内容について触れた災害時の心理ストレスについて講義をする機会をいただきました。

また、日常業務の中では、教育拠点である公立玉名中央病院に週1回の診療にあたり、初期研修医・実習医学生の教育と地域医療貢献に僅かながら関わらせていただきました。卒業後かけだし間もない私が、このような診療・教育・研究・地域活動と多岐に渡る経験ができたのは、ひとえに講座の事務・先生方のおかげであり、大変有り難く思っております。

これからも、「今の自分ならできること、今の自分にしかできないこと」をモットーに、日々取り組んで参りたいと思います。今後ともご指導・ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

今年度一番の思い出は、夏季特別実習で学生さんと一緒に天草市御所浦町に行き、地域の医療や福祉などを勉強させてもらったことです。診療所の先生・スタッフの信念、特別養護老人ホーム理事長さん達の熱意など、離島の皆さんの厳しい環境の中での尽力に頭が下がりました。もちろん、新鮮な魚のあら炊きにも感動しました。今年になって寄附講座の先生が御所浦に診療に行かれることになりました。海が荒れる日でも、揺れる船に乗って務めを果たされる医師、何度も乗り継ぎ遠隔地での診療に向かわれる医師の姿に敬服しながらも、地域に必要な人材がもっと多くなるため、少しでもお役に立てればと思っています。

今年1年を振り返ると、卒前の地域医療教育が格段に充実してきたことが実感されます。

まず、夏季学生地域医療特別実習が従来の実習から大きく転換したことです。これは、天草市と地元医師会等の絶大な協力があつたから出来たわけですが、「地域を知る!」というコンセプトに基づき、学生が主体となって自ら立てた課題に沿ってフィールドワークを行い、地域の問題と改善策をまとめ上げることができた点は大いに評価されるものでした。

次に、クリクラ（特別臨床実習）に提供している「地域医療」が充実したことです。平成25年度から実施してきた「地域医療」は、当初3医療施設の協力で僅か1ターム（1タームは3週間）だけの開講でスタートしましたが、本年度は13医療施設の協力を得て、全7タームで開講する事が出来ました。参加学生も初年度は4名だったのが、58名までに増加しました。これは、医学部6学年の約半数が受講したことになります。

今後ますます、充実させていく必要があると感じています。

女性医師の就業継続・復職支援のため「もう一度臨床へ支援事業」を県から委託され1年3か月が経過しました。ホームページやテレビ、フェイスブック、チラシ等での広報活動により相談者も増え復職にもつながっています。

茶話会では、日頃の悩みやキャリアアップのための情報交換など、女性だけでなく男性にも参加いただきアットホームな雰囲気の中で毎回楽しく開催しています。医師として忙しい中でも家庭と仕事の両立のための工夫や、キャリアアップに関することなど意識の高さとパワフルでエネルギッシュな方が多く、私としてもいつも勉強させていただいています。

最近では、育児をされている男性医師も増えつつあります。性別に関係なく仕事や家庭の事など支援していきたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

坂田 正充
地域医療支援
コーディネーター

柚原 敬三
地域医療支援
コーディネーター

高塚 貴子
女性医師復職支援
コーディネーター

本年度、印象的だったのは、「天草での夏季実習」と「地域医療ゼミ」の活動です。「夏季実習」では、行政機関、医療機関の皆さまのご協力、ご支援をいただき、大変充実した内容で行う事が出来ました。特に、軽快なハイヤ節の生演奏の中、生き活きと踊る皆さんの姿は大変印象的でした。また、「地域医療ゼミ」では、上級生を中心に学生同士で担当を分担し、毎回テーマを決めて勉強会を行っております。学生の皆さんが熱心に企画し、上級生が下級生を思いやる場面が多々見受けられ、とても印象的で、今後のゼミに期待を寄せております。これからも、教育熱心な先生方、事務の皆さんと一緒に、学生の皆さんのサポートをしてまいりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

地域医療・総合診療実践学寄附講座で、主に夏季地域医療特別実習、総合診療専門研修プログラム、教員のサポート、予算の管理、セミナー、熊本総合診療研究会等の事務を担当しております。こちらにお世話になってもうすぐ2年になりますが、先生方の熊本の地域医療の現状を良くしようと奮闘される姿や、若い医学生の皆さんが将来の熊本の地域医療のために日々勉強や実習を頑張り成長していく姿を間近で見られるこの職場にいられることを幸せに感じております。この年間報告書も年々内容が濃く多くなってきており、ついに今年から夏季実習活動報告と年間報告は別に作成することになりました。このセンター／寄附講座は今後どんどん大きな組織になり、それに伴い庶務も増えることと思います。少しでも皆さんの仕事が円滑に行えるように、陰ながら今後もサポートしていきたいと存じます。よろしく宜しくお願いいたします。

ふと気が付けば平成29年度も終わりが近づき、振り返ってみると、今年度は熊本県地域医療支援機構、地域医療支援センターの業務に加え、熊本県女性医師キャリア支援センターの事業にも携わせていただき、地域医療の抱える課題だけでなく、女性医師の活躍の場についても考える機会となり、多くの気づきと学びがありました。

また、前任者より業務を引き継ぎ、慣れないことも多く慌ただしく時間が過ぎていったような気がします。忙しくもとても充実した1年だったと感じます。

それと同時に、業務を行っていく中で、様々な場面で先生方・スタッフをはじめとした多くの方々に支えられていることを実感する年でもありました。

皆様いつも、ありがとうございます。

これからも支えてくださる方々に感謝の気持ちを持ち、また自分もそのような一人になれるよう精一杯サポートしていきたいと思っております。

機構及び寄附講座の講演会ポスター作成や報告書のデザイン・編集作業、活動写真の撮影、ビデオカメラでの撮影、映像の編集、スライドの作成、HPの編集・更新、オンライン診療支援ツールの運用管理、システムの開発、機器類の整備など、幅広く担当しています。

月日が流れるのは自身が思うよりも存外早いもので、もう1年が経ってしまったことに驚きと感慨深さを感じています。今年度は講演会やセミナー、イベントがさらに多く、月に1枚以上ポスターやチラシを作っていたように思います。「伝えること」は難しく、どんなモチーフで、どんなイメージで作れば、相手に正しく、魅力的に伝わるのだろうかといつも悩んでいます。来年度もたくさんのイベントごとがあると思います。企画した先生方の熱い思いが、講演してくださる講師の先生方の講演の内容が、もっと伝わるようなポスターやチラシを作ろうと思います。

久保 清美

山並 美緒

横手 友紀子

中川 実咲

2.あとかき

2014年度に地域医療支援センターが設置され、我々が赴任して今年度で4年目となりました。今年度は、震災の翌年度であり、震災復興とともに、通常業務の遂行が進み、新しい地域医療・総合診療実践学寄附講座、県庁と連携して事業を実施してこれたと感じております。

地域医療支援センターとしては、今年度は、地域の医療機関の関係者とより密に情報交換を行なったつもりですが、次年度は、より実際に地域医療の関係者と協議する場を作っていこうと思っています。男女共同参画事業も「熊本県女性医師キャリア支援センター」として本格的に大学に設置され、後藤特任助教と高塚コーディネーターを中心に新しい事業が進んでおり、更に支援体制が充実化していくと感じております。こちらも、より一層のご理解を賜りたいと願っております。

また、公立玉名中央病院での学外の教育拠点事業は、卒前教育、臨床研修、そして総合診療の専攻医研修と連動した教育体制が更に充実しつつあると思います。これも、同院の中野病院長を始め、関係者の多大なご理解・ご協力があったと感謝する次第です。幸いにも、2018年4月から開始される事が決まった新しい総合診療専門医制度も、6名の専攻医が来る予定で、より一層体制を整えて行なっていく事を支援して行こうと思っております。

最後に、水田病院長・機構理事長を始め、大学内の様々な先生方、事務方等には多々ご指導・ご支援頂きました。また、当地域医療支援センターの事務部門のスタッフの方々および、県庁の医療政策課の方々にも、多大なご助力を頂きました。本年度も地域医療の貢献の為にご理解頂いた全ての関係者に、あらためて、一層の感謝を申し上げますとともに、次年度もどうか宜しくお願い申し上げます。

地域医療支援センター 谷口 純一

熊本県地域医療支援機構



〒860-8556 熊本市中央区本荘1-1-1

Tel: 096-373-5627 Fax: 096-373-5796

E-mail: chiiki-iryo@kumamoto-u.ac.jp

HP: <http://www.chiiki-iryo-kumamoto.org/>

熊本大学医学部附属病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座



〒860-8556 熊本市中央区本荘1-1-1

Tel: 096-373-5794 Fax: 096-373-5796

E-mail: chiiki_soushin@kumamoto-u.ac.jp

HP: <http://www.chiiki-iryo-kumamoto.org/dcfgm/>

